

第五十五條 前條ノ規定ハ裁判所又ハ主務官廳カ受託者ヲ解任シタル場合ニ之ヲ準用ス

第五十六條 裁判所カ信託財産ノ管理方法ヲ變更シタルトキハ遲滯ナク鑛業信託原簿ノ登録ヲ鑛山監督局長ニ囑託スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ主務官廳カ信託ノ條項ヲ變更シタル場合ニ之ヲ準用ス

第五十七條 第五十一條又ハ第五十二條ノ場合ニ於テ鑛業原簿ノ登録ヲ爲シタルトキハ鑛山監督局長ハ職權ヲ以テ鑛業信託原簿ノ登録ヲ爲スコトヲ要ス

第五十八條 第五十一條、第五十二條及第五十四條乃至第五十六條ノ場合ヲ除クノ外第五十三條第一項ニ掲ケタル事項ノ變更ニ關スル鑛業信託原簿ノ登録ハ受託者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ其ノ變更ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

受益者又ハ委託者ハ受託者ニ代位シテ前項ノ申請ヲ爲スコトヲ得

第十六條ノ二ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル代位登録ノ申請ニ之ヲ準用ス

第五十九條 第五十五條ニ規定スル登録ヲ爲シタルトキハ鑛山監督局長ハ職權ヲ以テ鑛業原簿ニ其ノ旨ヲ附記スルコトヲ要ス

第六十條 信託財産ニ屬スル鑛業權カ移轉ニ因リテ信託財産ニ屬セサルニ至リタル場合ニ於テ爲スヘキ信託登録抹消ノ申請ハ移轉登録ノ申請ト同一ノ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ハ信託終了ニ因リ信託財産ニ關スル鑛業權カ移轉シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六十一條 第五條第二項及第四十七條乃至前條ノ規定ハ探掘權ヲ目的トスル抵當權ノ信託ノ登録ニ之ヲ準用ス

第四章 假登録及豫告登録

第六十二條 假登録ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ爲スモノトス

一 鑛業權ノ移轉又ハ抵當權ノ設定、移轉、變更若ハ消滅ノ登録ノ申請ニ必要ナル手續上ノ條件カ具備セザルトキ

二 前號ノ事項ニ關シ請求權ヲ保全セムトスルトキ

第六十三條 假登録ハ次條ノ場合ヲ除クノ外假登録權利者ノ申請ニ因リ其ノ目的タル鑛區ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ヨリ囑託書ニ假處分命令ノ正本ヲ添附シテ囑託スルコトヲ要ス

前項ノ假處分命令ハ假登録權利者カ假登録原因ヲ疏明シタルトキハ區裁判所之ヲ發スルコトヲ要ス

申請ヲ却下シタル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

前項ノ即時抗告ニ付テハ非訟事件手續法ノ規定ヲ準用ス

第六十四條 假登録ハ假登録義務者ノ承諾アルトキハ申請書ニ其ノ承諾書ヲ添附シテ假登録權利者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

第六十五條 假登録ノ抹消ハ假登録名義人ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

申請書ニ假登録名義人ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附シタルトキハ登録上ノ利害關係人ヨリ假登録ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第六十六條 豫告登録ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ爲スモノトス

一 登録原因ノ無効又ハ取消ニ因ル登録ノ抹消又ハ回復ノ訴訟ノ提起アリタルトキ但シ登録原因

ノ無効又ハ取消ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ル場合ニ限ル

二 鑛業法第八十九條ノ規定ニ依リ鑛業權ニ關スル出願ノ許可ニ對シ訴願又ハ行政訴訟ノ提起アリタルトキ

第六十七條 豫告登録ハ前條ニ掲ケタル訴訟又ハ訴願ヲ受理シタル官廳ヨリ囑託書又ハ命令書ニ訴訟若ハ訴願書ノ謄本又ハ抄本ヲ添附シテ囑託又ハ命令スルコトヲ要ス

第六十八條 第六十六條第一號ニ掲ケタル訴ヲ却下シタル裁判若ハ之ヲ提起シタル者ニ對シテ敗訴ヲ言渡シタル裁判力確定シタルトキ、訴ノ取下アリタルトキ、請求ノ拋棄アリタルトキ又ハ請求ノ目的ニ付和解アリタルトキハ第一審判所ハ囑託書ニ裁判ノ謄本若ハ抄本又ハ訴ノ取下、請求ノ拋棄若ハ和解ヲ證スル裁判所書記ノ書面ヲ添附シテ豫告登録ノ抹消ヲ囑託スルコトヲ要ス

第六十九條 第六十六條第二號ニ掲ケタル訴願又ハ行政訴訟ヲ却下シ、請求ヲ否認シ若ハ其ノ取下アリタルトキハ商工大臣ハ豫告登録ノ抹消ヲ命シ行政裁判所ハ之ヲ囑託スルコトヲ要ス

第五章 異議

第七十條 登録ニ關スル處分ヲ不當トスル者ハ處分ノ了リタル日ヨリ三十日以内ニ商工大臣ニ異議ヲ爲スコトヲ得

第七十一條 異議ハ鑛山監督局長ニ異議狀ヲ差出シテ之ヲ爲ス

第七十二條 異議ハ新ナル事實及證據方法ヲ以テ其ノ憑據ト爲スコトヲ得ス

第七十三條 鑛山監督局長異議ヲ理由ナシトスルトキハ意見ヲ附シテ事件ヲ商工大臣ニ送付スルコトヲ要ス

鑛山監督局長異議ヲ理由アリトスルトキハ相當ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス

若シ登録完了ノ後ナルトキハ假登録ヲ爲シ之ヲ登録上ノ利害關係人ニ通知シ且前項ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス

異議ノ取下アリタルトキハ鑛山監督局長ハ前項ノ假登録ヲ抹消シ之ヲ登録上ノ利害關係人ニ通知スルコトヲ要ス

第七十四條 異議ハ執行ヲ停止スル效力ヲ有セス

第七十五條 商工大臣ハ登録上ノ利害關係人ニ決定ノ謄本ヲ送付スルコトヲ要ス

商工大臣異議ヲ理由アリトスルトキハ鑛山監督局長ニ相當ノ處分ヲ命シ異議ヲ理由ナシトスルトキハ假登録ヲ爲シタルモノニ付テハ其ノ抹消ヲ命スルコトヲ要ス

附則

第七十六條 本令施行前ニ鑛山監督署ニ備付タル鑛業ニ關スル原簿及書入登録簿ヲ以テ舊鑛業原簿トス

第七十七條 本令施行前ニ於ケル官廳所屬ノ採掘區域ニ關シテハ本令施行ノ日ニ於テ採掘權設定ノ登録ヲ爲スコトヲ要ス

第七十八條 本令施行前ニ認可若ハ特許ノ鑛業權又ハ登録ノ抵當權ニ付鑛業權ノ抹消ヲ除クノ外登録ノ申請アリタル場合ニ於テ登録ヲ爲ストキハ鑛業原簿ニ舊鑛業原簿中抹消ニ係ラサル登録ヲ移シ舊鑛業原簿中鑛業原簿ニ移シタル登録ヲ抹消スルコトヲ要ス

第七十九條 舊鑛業原簿ニ記載シアル鑛業權ニ付其ノ抹消登録ノ申請アリタルトキハ其ノ原簿ニ其

ノ登録ヲ爲スコトヲ要ス期限滿了ニ因ル抹消ノ登録ヲ爲ス場合亦同シ

第八十條 鑛業條例ニ依リ差出シタル廢業届ニ付テハ舊鑛業原簿ニ郵便差出ノ日時ニ於テ廢業ヲ爲シタルコトノ記載ヲ爲スコトヲ要ス

第八十一條 鑛業條例ニ依リ差出シタル鑛業特許證書換願、探掘權書入登録願又ハ登録シタル抵當權ノ變更、移轉若ハ取消願ニ付テハ舊鑛業原簿ニ其ノ登録ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ願書ヲ差出シタル日ヲ以テ申請ノ日ト看做ス

第八十二條 本令施行前ニ相續ニ因リテ鑛業人ト爲リタル者又ハ氏名、名稱若ハ住所ヲ變更シタル鑛業人ハ本令中相續又ハ變更ノ申請ニ關スル規定ニ準シテ調製シタル届書ヲ差出スコトヲ要ス

前項ノ届出アリタルトキハ舊鑛業原簿ニ相續又ハ變更ノ記入ヲ爲スコトヲ要ス

第八十三條 本令ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則

本令ハ昭和十六年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

鑛業登録令施行細則

明治三十八年六月 農商務省令第十八號

改正

明治三十九年第一六號、四二年第二五號、大正一一年第二六號、昭和二年商工省令第五號、四年第一三號、九年第一五號、一六年第四四號

第一章 登録ニ關スル帳簿

第一條 鑛業原簿ハ第一號及第二號ノ様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二條 鑛業原簿ハ府縣ノ區畫ニ依リ北海道ニ付テハ國ノ區畫ニ依リ別冊ト爲スヘシ但シ登録事件夥多ナル府縣又ハ國ニ付テハ二箇以上ノ別冊ト爲スコトヲ得

第三條 鑛業原簿ハ一鑛區ニ付一用紙ヲ備フ

鑛區カ鑛業原簿ヲ分設シタル數箇ノ區畫ニ跨ルトキハ其ノ一箇ノ區畫ノ鑛業原簿ニノミ其ノ鑛區ニ關スル用紙ヲ備フ

第四條 共同人名簿ハ第三號及第四號ノ様式ニ、鑛業信託原簿ハ第八號様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第五條 共同人名簿ハ數區畫ヲ通シテ一冊ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ鑛業原簿ヲ分設シタル區畫毎ニ見出ヲ附スヘシ

第六條 鑛區圖綴込帳ハ各圖面ニ登録番號並登録年月日ヲ記載シ登録番號ノ順序ニ依ツテ之ヲ編綴シ丁數ヲ附スヘシ

第七條乃至第十條 削除

第十一條 登録受附帳ハ第七號様式ニ依リ毎年之ヲ調製シ受附番號ヲ更新スヘシ

第十二條 鑛山監督局長ニハ登録事務ニ關シ鑛業原簿、共同人名簿、鑛業信託原簿、鑛區圖綴込帳及登録受附帳ノ外左ノ帳簿ヲ備フヘシ

一 申請書囑託書附屬書類綴込帳

二 通知書綴込帳

三 通知簿

四 鑛業原簿謄本綴込帳

五 鑛業權抵當權登録濟通知簿

鑛業登録令施行細則

- 六 異議書類決定原本綴込帳
- 七 謄本抄本交付閱覽申請事件簿
- 八 謄本抄本交付閱覽申請書綴込帳
- 第十三條 前條第三號及第五號ノ通知簿ニハ通知事項ヲ記入シ通知書ト契印スヘシ
- 第十四條 鑛業原簿ノ謄本、抄本若ハ鑛區圖謄本ノ交付又ハ鑛業原簿若ハ附屬書類ノ閱覽ヲ請求スル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ提出スヘシ
 - 一 申請人ノ氏名又ハ名稱及住所
 - 二 鑛區所在地及登録番號又ハ鑛區ヲ表示スルニ足ルヘキ事項
 - 三 申請ノ範圍
 - 四 年月日
- 第十五條 前條ノ申請アリタルトキハ第十二條第七號ノ帳簿ニ請求ノ範圍、申請人ノ氏名又ハ名稱受附ノ年月日及受附番號ヲ記載シタル上相當ノ處分ヲ爲スヘシ
- 第十六條 鑛業原簿ノ謄本ハ鑛業原簿ト同一様式ノ用紙ヲ以テ之ヲ作成シ餘白アルトキハ之ニ朱線ヲ施シ其ノ末尾ニ左ノ認證文ヲ記載シタルモノヲ添附シテ契印ヲ爲シ鑛山監督局長之ニ年月日ヲ記載シテ記名捺印スヘシ
 - 此ノ謄本ハ鑛業原簿ト相違ナキコトヲ認證ス
 - 前項ノ規定ハ鑛區圖ノ謄本及鑛業原簿ノ抄本ヲ作成スル場合ニ之ヲ準用ス
- 第十七條 鑛業原簿ノ謄本、抄本又ハ鑛區圖ノ謄本ヲ交付スルトキハ第十二條第七號ノ帳簿ニ交付

- ノ年月日ヲ記載シ謄本又ハ抄本ト契印スヘシ
- 前項ノ規定ハ鑛業原簿ノ謄本ヲ他ノ鑛山監督局ニ移送スル場合ニ之ヲ準用ス
- 第十八條 鑛業原簿ヲ分設シタル區畫カ他ノ鑛山監督局ノ管轄ニ轉屬シタルトキハ全部ノ場合ニ在リテハ其ノ區畫ニ關スル鑛業原簿及其ノ附屬書類ヲ、一部ノ場合ニ在リテハ其ノ部分ニ於ケル鑛業權ニ關スル鑛業原簿ノ謄本及附屬書類若ハ其ノ謄本ヲ移送スヘシ
- 第二章 申請手續
- 第十九條 登録申請書カ數葉ニ涉ルトキハ申請人ハ每葉ノ綴目ニ契印スヘシ但シ登録權利者又ハ登録義務者カ多數ナルトキハ其ノ一人ノ契印ヲ以テ足ル
- 前項ニ依ル契印ナキモノニ付テハ擔當職員ニ於テ契印ヲ爲スヘシ
- 第十九條ノ二 抵當權設定ノ新規登録ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ課稅標準ノ價格ヲ記載スヘシ
- 前項ノ規定ハ滯納處分以外ノ原因ニ因ル鑛業權又ハ抵當權ノ處分ノ制限ノ登録ヲ囑託スル場合ニ之ヲ準用ス
- 第二十條 數箇ノ鑛山監督局ノ管轄ニ屬スル數箇ノ鑛區ニ關シ同一ノ登録原因ニ因ル抵當權設定ノ登録ヲ申請スル場合ニハ最初ニ登録ヲ申請スル鑛山監督局ニ登録稅ノ金額ヲ納付スヘシ
- 前項ノ規定ニ從ヒ登録權ヲ納付シタルトキハ擔當職員ハ登録ヲ申請スヘキ鑛山監督局ノ數ニ應シ登録稅ノ受領證ヲ申請人ニ交付スヘシ但シ二通以上ノ受領證ヲ交付スルトキハ各通ニ番號ヲ附スヘシ

申請人カ他ノ鑛山監督局ニ登録ヲ申請スルニハ申請書ニ受領證ヲ添付スヘシ
前三項ノ規定ハ同一ノ登録原因ニ因ル鑛業權又ハ抵當權ノ處分ノ制限ノ登録ヲ囑託スル場合ニ之
ヲ準用ス

第二十條ノ二 登録税法施行規則第四條ノ規定ニ依リ登録稅ヲ徵收スル場合ニ於テハ擔當職員ハ後
ニ登記又ハ登録ヲ申請スヘキ登記所又ハ登録官廳ノ數ニ應シ課稅價格ヲ記載シタル登録稅ノ受領
證ヲ申請人ニ交付スヘシ但シ二通以上ノ受領證ヲ交付スルトキハ各通ニ番號ヲ附スヘシ
登録税法施行規則第四條第一項ノ場合ニ於テ既ニ登記所又ハ登録官廳ニ於テ登記又ハ登録ヲ受ケ
タルトキハ登録申請書ニ其ノ登記所又ハ登録官廳ノ交付シタル受領證ヲ添付スヘシ

第三章 登録手續

第二十一條 申請書ノ提出アリタルトキハ登録受附帳ニ登録ノ目的、申請人ノ氏名又ハ名稱、受附
ノ年月日及受附番號ヲ、申請書ニ受附ノ年月日及受附番號ヲ記載スヘシ但シ申請人カ郵便ニ依リ
申請シタル場合ニ於テ其ノ郵便物ノ到達カ執務時間外ニ係ルトキハ郵便物ノ表面ニ登録申請ナル
コトヲ明記シタルモノニ限り其ノ到達ノ時ヲ以テ受附ノ時ト看做ス
前項受附番號ハ受附ノ順序ニ依リ之ヲ附スヘシ但シ同一ノ鑛業權又ハ抵當權ニ關シテ同時ニ數箇
ノ申請アリタルトキハ同一ノ受附番號ヲ附スヘシ
第一項ニ依リ申請人ノ氏名又ハ名稱ヲ記載スル場合ニ於テ登録權利者又ハ登録義務者カ多數ナル
トキハ代表者又ハ筆頭者ノ氏名若ハ名稱及他ノ人員ヲ記載スルヲ以テ足ル
前三項ノ規定ハ登録稅納付書ノ提出アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十二條 登録番號欄ニハ各鑛區ニ付試掘原簿又ハ探掘原簿ニ登録ヲ爲シタル順序ヲ記載スヘシ
表示欄ニハ鑛業權ノ表示ヲ爲シ其ノ變更消滅及鑛業法第三十一條若ハ第三十六條、昭和九年法
律第三十七號附則第三項若ハ第六項又ハ昭和十五年法律第百二號附則第四條、第五條若ハ第八條
ノ規定ニ依リ鑛區ノ重複シタル場合ニ於ケル鑛業權ノ制限ニ關スル事項ヲ記載シ表示番號欄ニハ
表示欄ニ登録事項ヲ記載シタル順序ヲ記載スヘシ
試掘原簿ニ在リテハ事項欄ニ試掘權ノ設定、移轉、處分ノ制限及共同鑛業權者ノ脫退ニ關スル事
項ヲ、順位番號欄ニ事項欄ニ登録事項ヲ記載シタル順序ヲ、探掘原簿ニ在リテハ甲區事項欄ニ探
掘權ノ設定、移轉、處分ノ制限及共同鑛業權者ノ脫退ニ關スル事項ヲ、乙區事項欄ニ抵當權ノ設
定、變更、移轉、消滅及處分ノ制限ニ關スル事項ヲ、順位番號欄ニ事項欄ニ登録事項ヲ記載シタ
ル順序ヲ記載スヘシ
鑛業原簿ニ信託ニ因ル鑛業權ノ移轉ノ登録ヲ爲シタルトキハ登録ノ末尾ニ鑛業信託原簿ノ信託番
號ヲ記載スヘシ抵當權ノ信託ニ付亦同シ
鑛業權ノ消滅ヲ鑛業原簿ニ登録シタルトキハ鑛業信託原簿ニ抹消原因ヲ記載シ信託番號及信託權
利ヲ朱抹スヘシ

第二十三條 表示欄ニ登録ヲ爲スニハ申請書受附ノ年月日、登録ノ目的其ノ他鑛業權ノ表示ニ關ス
ル事項並登録ノ年月日ヲ記載シテ擔當職員捺印スヘシ
事項欄ニ登録ヲ爲スニハ申請書ノ受附ノ年月日、受附番號、登録權利者ノ氏名又ハ名稱、住所、
登録原因及其ノ日附、登録ノ目的其ノ他登録スヘキ權利ニ關スル事項並登録ノ年月日ヲ記載シテ

擔當職員捺印スヘシ

鑛業登録令第十六條ノ二及第四十九條ノ申請アリタル場合ニ於テ事項欄ニ登録ヲ爲スニハ前項ニ依ルノ外債權者ノ氏名又ハ名稱及住所並代位原因ヲ記載スルコトヲ要ス

鑛業信託原簿ニ登録ヲ爲スニハ各信託鑛業權毎ニ信託番號欄ニ登録ヲ爲シタル順序ヲ記載シ信託權利欄ニ信託權利及受附年月日番號ヲ記載シ委託者、受託者、受益者、信託管理人ノ住所氏名ヲ各相當欄ニ記載シ且要目欄ニハ信託條項、變更、更正其ノ他登録事項ノ要目ヲ、事項欄ニハ信託條項ノ事項其ノ他記載スベキ事項、受附年月日番號ヲ記載シ擔當職員捺印ヲ爲シ要目欄及事項欄ニ縦線ヲ劃シテ餘白ト分界スヘシ

第三項ノ規定ハ鑛業登録令第五十八條第二項ノ申請アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十四條 表示欄ニ登録ヲ爲ストキハ表示番號欄ニ番號ヲ、事項欄ニ登録ヲ爲ストキハ順位番號欄ニ番號ヲ記載スヘシ

第二十一條第二項但書ノ規定ニ依リ同一ノ受附番號ヲ附シ同一ノ事項欄ニ登録ヲ爲スモノニ付テハ同一ノ順位番號ヲ記載スヘシ

第二十五條 表示欄ニ登録ヲ爲シタルトキハ表示番號欄及表示欄ニ縦線ヲ劃シ事項欄ニ登録ヲ爲シタルトキハ順位番號欄及事項欄ニ縦線ヲ劃シテ餘白ト分界スヘシ

第二十六條 附記登録ノ順位番號ヲ記載スルニハ主登録ノ番號ヲ用キ其ノ番號ノ左側ニ附記何號ト記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ主登録ノ順位番號ノ左側ニ附記登録番號ヲ記載スヘシ

第二十七條 假登録ハ登録用紙中相當區事項欄ニ之ヲ爲シ其ノ左側ニ餘白ヲ存スヘシ

第二十八條 假登録ヲ爲シタルトキハ事項欄ノミニ縦線ヲ劃シ其ノ左側ニ本登録ヲ爲シ得ヘキ相當ノ餘白ヲ存シタル上順位番號欄及事項欄ニ縦線ヲ劃スヘシ

第二十九條 假登録ヲ爲シタル後本登録ノ申請アリタルトキハ假登録ノ左側ノ餘白ニ其ノ登録ヲ爲スヘシ假登録ノ抹消ノ申請アリタルトキ亦同シ

第三十條 豫告登録ハ鑛業登録令第六十六條第一號ニ關スルモノニ付テハ登録用紙中相當區事項欄ニ、同條第二號ニ關スルモノニ付テハ表示欄ニ之ヲ爲スヘシ

第三十一條 變更又ハ更正ノ登録ヲ爲ストキハ其ノ登録ニ因リテ變更又ハ更正セラレタル登録事項ヲ朱抹スヘシ

第三十二條 登録ヲ完了シタルトキハ登録原因ヲ證スル書面ニ登録番號、申請書受附ノ年月日、順位番號登録ノ年月日及登録濟ノ旨ヲ記載シ鑛山監督局ノ印ヲ押捺シテ之ヲ登録權利者ニ還付シ且登録義務者ニハ登録番號、登録ノ原因及其ノ日附、登録ノ目的、申請書受附ノ年月日、順位番號登録ノ年月日及登録濟ノ旨ヲ記載シ鑛山監督局ノ印ヲ押捺シタル書面ヲ交付スヘシ信託ニ關スル登録ヲ完了シタルトキハ受益者ニモ亦之ヲ交付スヘシ

法令ノ規定ニ依リ職權ヲ以テ爲ス登録又ハ申請ニ登録原因ヲ證スル書面ヲ要セサルモノノ登録ノ場合ニ於テハ前項ニ準シ作成シタル登録濟通知書ニ鑛山監督局ノ印ヲ押捺シテ之ヲ登録權利者ニ交付スヘシ但シ鑛業權ノ設定變更又ハ表示ノ變更ニ關スル場合ニ於テハ鑛區圖ヲ添附スヘシ前二項ノ場合ニ於テ登録權利者又ハ登録義務者多數ナルトキハ其ノ一人ニ交付スルヲ以テ足ル

第三十二條ノ二 鑛業登録令第十六條ノ二ノ申請アリタル場合ニ於テ登録ヲ完了シタルトキハ前條第一項ニ掲ケタル書類ヲ債權者ニ還付シ且前條第一項ニ準シ作成シタル登録濟通知書ニ鑛山監督局ノ印ヲ押捺シテ之ヲ登録權利者ニ交付スヘシ

前項ノ規定ハ鑛業登録令第四十九條、第五十八條第二項ノ申請アリタル場合ニ於テ登録ヲ完了シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十三條 鑛業權消滅ノ登録ヲ爲シタル後登録回復ノ申請アリタル場合ニ於テ登録ヲ爲スニハ登録用紙中登録番號欄ニ新ナル番號ヲ、其ノ左側ニ前登録番號ヲ、表示欄ニ回復ノ原因ヲ記載シ其ノ消滅前ノ登録ト同一ノ登録ヲ爲スヘシ

前項ノ規定ハ信託消滅ノ登録ヲ爲シタル後登録回復ノ申請アリタルトキ登録ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第三十四條 前條ニ規定シタル場合ヲ除クノ外登録回復ノ申請アリタル場合ニ於テ登録ヲ回復スルトキハ回復ノ登録ヲ爲シタル後更ニ抹消ニ係ル登録ト同一ノ登録ヲ爲シ若シ登録事項ノ一部ノミカ抹消ニ係ルトキハ附記ニ依リ更ニ其ノ事項ヲ登録スヘシ

第三十五條 第十八條ニ依リ鑛業原簿謄本ノ移送ヲ受ケタルトキハ鑛山監督局長ハ其ノ謄本ニ依リ相當鑛業原簿ニ登録ヲ移スヘシ

鑛業原簿ヲ移ストキハ登録用紙中登録番號欄ニ新ナル番號ヲ、其ノ左側ニ前登録區畫及前登録番號ヲ記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ表示欄及事項欄ニ移シタル登録ノ末尾ニ鑛業原簿ノ謄本ニ依リ登録ヲ移シタル旨及其ノ年月日ヲ記載シ擔當職員捺印スヘシ

他ノ鑛業原簿ニ登録ヲ移シタルトキハ前登録用紙中表示欄及事項欄ニ他ノ鑛山監督局ノ鑛業原簿ニ移シタル旨及其ノ年月日ヲ記載シ擔當職員捺印スヘシ

第三十六條 同一鑛山監督局ノ管轄ニ屬スル鑛區カ他ノ登録區畫ニ轉屬シタルトキハ其ノ鑛業原簿ニ登録ヲ移スヘシ

前條第二項乃至第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十七條 登録用紙中部又ハ區カ登録ヲ爲スヘキ餘白ナキニ至リタルトキハ新用紙中登録番號欄ニ前用紙ノ登録番號ヲ轉寫シ其ノ左側ニ第二ナルコト、前用紙ヲ編綴セル鑛業原簿ノ冊數、丁數及其ノ繼續用紙ナル旨ヲ記載シ且前用紙ノ登録番號ノ左側ニ其ノ第一ナルコト、新用紙ヲ編綴セル鑛業原簿ノ冊數、丁數及之ニ繼續スル旨ヲ記載スヘシ但シ前用紙中其ノ餘白アルモノニ付テハ仍之ニ記載スヘシ

前項ノ規定ハ第三以下ノ繼續用紙ヲ設クル場合ニ之ヲ準用ス

鑛業信託原簿ノ登録用紙中要目欄及事項欄ニ餘白ナキニ至リタルトキハ第八號様式ノ二ノ用紙ヲ編綴シ丁數ヲ附シ前用紙ト契印ヲ爲スヘシ第三以下ノ繼續用紙ヲ設ケタルトキ亦同シ

第三十八條 鑛業權ノ設定變更、表示ノ變更又ハ昭和九年法律第三十七號附則第三項若ハ昭和十五年法律第百二號附則第四條ノ場合ニ於テ鑛種名更正ニ依ル表示ノ更正ノ登録ヲ爲ス場合ニ於テハ登録用紙中表示欄ニ爲シタル登録ノ末尾ニ鑛區圖綴込帳ノ冊數及丁數ヲ記載スヘシ

第三十九條 鑛業權ノ設定又ハ移轉ノ登録ヲ爲ス場合ニ於テ登録權利者多數ナルトキハ代表者ノミ

ノ氏名又ハ名稱及住所並其ノ代表者ナルコトヲ登録用紙ニ、共同鑛業權者ノ氏名又ハ名稱及住所並代表者ノ氏名又ハ名稱ヲ共同人名簿ニ記載スヘシ
共同鑛業權者代表者ノ變更ノ届出又ハ指定アリタルトキハ前項ニ準シテ其ノ登録ヲ爲シタル後前ノ代表者ノ表示ヲ朱抹スヘシ

第四十條 前條ノ規定ニ依リ共同人名簿ニ記載ヲ爲スニハ番號欄ニ番號ヲ、代表者欄ニ代表者ノ氏名又ハ名稱及其ノ届出又ハ指定ノ年月日ヲ、共同人名欄ニ共同鑛業權者ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ、備考欄ニ登録番號及順位番號ヲ記載シテ擔當職員捺印スヘシ

第四十一條 共同鑛業權者ノ表示ノ變更、更正又ハ脱退ニ付鑛業原簿ニ登録ヲ爲シタルトキハ共同人名簿中備考欄ニ登録ノ目的タル新ナル事項及其ノ順位番號ヲ記載シ擔當職員捺印シ前ニ記載シタル事項ヲ朱抹スヘシ

第四十二條 前三條ノ場合ニ於テ代表者欄又ハ備考欄ニ餘白ナキニ至リタルトキハ新ニ番號欄ニ前番號ヲ轉寫シ其ノ左側ニ其ノ第二ナルコト、前用紙ヲ編綴セル共同人名簿ノ册數、丁數及其ノ繼續用紙ナル旨ヲ、共同人名欄ニ共同鑛業權者ノ氏名又ハ名稱ヲ記載シ且前用紙ノ番號ノ左側ニ其ノ第一ナルコト、繼續用紙ヲ編綴セル共同人名簿ノ册數、丁數及之ニ繼續スル旨ヲ記載スヘシ但シ前用紙中其ノ餘白アルモノニ付テハ仍之ニ記載スヘシ

前項ノ規定ハ第三以下ノ繼續用紙ヲ設クル場合ニ之ヲ準用ス

第四十三條 共同人名簿ニ記載ヲ爲シタル場合ニ於テハ鑛業原簿ニ爲シタル登録ノ末尾ニ共同人名簿ニ於ケル番號ヲ記載スヘシ

第四十四條 共同人名簿ニ共同鑛業權者ノ氏名又ハ名稱及住所ノ記載ヲ爲シタルトキハ共同人名欄ニ於ケル末尾ノ縦線ヲ番號欄、代表者欄及備考欄ニ延長シテ餘白ト分界スヘシ

第四十四條ノ二 鑛業法第三十一條若ハ第三十六條、昭和九年法律第三十七號附則第三項若ハ第六項又ハ昭和十五年法律第百二號附則第四條、第五條若ハ第八條ニ依ル鑛業權ノ設定又ハ變更ノ登録ヲ爲ストキハ其ノ旨ヲ記載シ且他ノ鑛業權ノ登録番號ヲ表示シテ之ト重複ノ關係ヲ有スル旨ヲ記載シ他ノ鑛業權ニ付テハ其ノ登録用紙中表示欄ニ鑛業法第三十一條、第三十六條又ハ昭和九年法律第三十七號附則第三項若ハ第六項ニ依ル鑛業權ノ登録番號ヲ表示シ之ト重複ノ關係ヲ有スル旨ヲ記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テ其ノ一箇ノ鑛業權消滅シタルトキハ之ト重複ノ關係ヲ有スル他ノ鑛業權ノ登録用紙中表示欄ニ其ノ鑛業權ノ消滅シタル旨ヲ記載シ消滅ニ係ル登録事項ヲ朱抹スヘシ
第一項ノ場合ニ於テ鑛區ノ合併又ハ分割ニ因ル採掘權消滅ノ登録ヲ爲ストキハ前項ノ手續ヲ爲スノ外合併又ハ分割ニ因リ設定セラレタル新ナル鑛業權ノ登録番號ヲ表示シ之ト重複ノ關係アルコトヲ記載スヘシ

第四十五條 數箇ノ採掘權カ抵當權ノ目的タル場合ニ於テ其ノ一箇ノ採掘權ニ付抵當權設定ノ登録ヲ爲ストキハ其ノ採掘權ノ登録用紙中乙區事項欄ニ他ノ採掘權ノ登録番號及鑛區所在地ヲ表示シ其ノ採掘權カ共ニ抵當權ノ目的タル旨ヲ記載スヘシ

第四十五條ノ二 追加抵當權設定ノ登録ヲ爲シタルトキハ同一債權ニ因リ抵當權ノ目的タル他ノ採掘權ノ登録用紙中乙區事項欄ニ追加抵當權ノ目的タル採掘權ノ登録番號及鑛區所在地ヲ表示シ其

ノ探掘權カ共ニ抵當權ノ目的タル旨ヲ附記スヘシ

第四十五條ノ三 抵當權ノ目的タル探掘權カ追加抵當權ノ目的タル探掘權ト同一鑛山監督局ノ管轄ニ屬セサルトキハ追加抵當權ノ登録ヲ爲シタル鑛山監督局ハ他ノ鑛山監督局ニ追加抵當權ノ設定ノ事由及登録年月日竝探掘權ノ登録番號及鑛區所在地ヲ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ前條ノ規定ニ準シテ其ノ通知ヲ受ケタル事項ヲ記載スヘシ

第四十六條 數箇ノ探掘權カ抵當權ノ目的タル場合ニ於テ其ノ一箇ノ探掘權又ハ抵當權ノ消滅ノ登録ヲ爲シタルトキハ他ノ探掘權ノ登録用紙中乙區事項欄ニ其ノ抵當權消滅シタル旨ヲ附記シ消滅ニ係ル登録事項ヲ朱抹スヘシ

第四十六條ノ二 前條ノ場合ニ於テ探掘權ノ消滅カ鑛區ノ合併又ハ分割ニ因ルモノナルトキハ前條ノ手續ヲ爲スノ外鑛業登録令第三十條ニ依リテ新ニ設定セラレタル探掘權ノ登録番號及鑛區所在地ヲ表示シ其ノ探掘權カ共ニ抵當權ノ目的タル旨ヲ記載スヘシ

第四十六條ノ三 第四十五條ノ三ノ規定ハ登録令第三十條ニ依リテ新ニ設定セラレタル抵當權ニ關シ之ヲ準用ス

第四十七條 數箇ノ鑛山監督局ノ管轄ニ屬スル數箇ノ探掘權カ抵當權ノ目的タル場合ニ於テ一箇ノ探掘權又ハ抵當權ノ消滅ノ登録ヲ爲シタルトキハ鑛山監督局長ハ關係鑛山監督局長ニ消滅ノ事由及登録ノ年月日ヲ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ第四十六條ノ規定ニ準シテ其ノ通知ヲ受ケタル事項ヲ記載スヘシ

第四十八條 登録ヲ抹消スルニハ抹消ノ登録ヲ爲シタル後抹消スヘキ登録ヲ朱抹スヘシ

第四十九條 鑛業法第四十二條及第四十三條ノ規定ニ基キテ爲シタル競賣ニ因ル探掘權移轉ノ登録ノ囑託アリタル場合ニ於テハ第三十三條ノ規定ニ準シ登録ヲ爲シタル後移轉ノ登録ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ前登録用紙ノ表示欄ニ新登録用紙ニ登録ヲ移シタル旨ヲ記載スヘシ

第五十條 第十八條又ハ鑛業登録令第二十三條ノ場合ニ於テ鑛業原簿ノ表紙ニ記載シタル鑛山監督局又ハ行政區畫ノ名稱ノ變更アリタルトキハ其ノ表紙ニ其ノ名稱ノ變更アリタルコト及其ノ年月日ヲ記載シ且其ノ名稱ヲ變更スヘシ

附 則

第五十一條 本則ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第五十二條 鑛業登録令第七十八條ノ規定ニ依リ舊鑛業原簿ヨリ登録ヲ移シタルトキハ表示欄及事項欄ニ移シタル登録ノ末尾ニ舊鑛業原簿第何册第何丁ヨリ移シタル旨及年月日ヲ記載シ擔當職員捺印スヘシ

前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ舊鑛業原簿ニ鑛業原簿第何册第何丁ニ移シタル旨、其ノ登録番號及年月日ヲ記載シ擔當職員捺印スヘシ

第一號樣式

何府縣(國、郡)

試掘原簿 第何册

何鑛山監督局

紙數表紙ヲ除キ

枚

何鑛山監督局長

何

某印

年月日

區 項 事		試掘原簿	部 題 表	
番順位 號	事 項 欄		番表 號示	表 示 欄
		丁	番表 號示	表 示 欄
			番表 號示	表 示 欄
			番表 號示	表 示 欄

鑛業登錄令施行細則

何府縣(國、郡)

探掘原簿 第何冊

何鑛山監督局

紙數表紙ヲ除キ

枚

年月日

何鑛山監督局長

某印

登 錄 番 號	表 示 番 號
表 示 欄	表 示 欄
表 示 欄	表 示 欄
表 示 欄	表 示 欄

部 題 表

探掘原簿

丁

甲	順位 番號	事 項 欄
	順位 番號	事 項 欄
	順位 番號	事 項 欄
	順位 番號	事 項 欄

第三號様式

何府縣(國、郡)
何府縣(國、郡)
何府縣(國、郡)

試掘共同人名簿

第何冊

何鑛山監督局

紙數表紙ヲ除キ

枚

年月日

何鑛山監督局長

何 某印

鑛業登録令施行細則

二一三

乙		探掘原簿	區
番順	事項欄		區
號位	欄		
番順	事項欄		
號位	欄		
番順	事項欄	丁	
號位	欄		

二二二

第八號樣式ノ一

		信託番號	
		第	號
欄要目	事項欄	利 權 託 信	
		鐵業信託原簿	
		ノ者託受	ノ者託委
		名氏所住	名氏所住
欄要目	事項欄	人理管託信	
		壹丁ノ壹	
		名氏所住ノ	ノ者益受
		名氏所住	名氏所住

第八號樣式ノ二

欄要目	事項欄	鐵業信託原簿	
		壹丁ノ貳	
欄要目	事項欄		

附則

本令ハ昭和十六年六月一日ヨリ之ヲ施行ス
昭和十五年法律第百二號附則第十條但書ノ規定ニ依ル試驗權ノ存續期間ノ延長ノ登錄ハ表示欄ニ之ヲ爲スベシ

試掘權ノ存續期間延長登錄ニ關スル件

昭和十六年五月
勅令第五八五號

商工大臣ハ昭和十五年法律第百二號附則第十條ノ規定ニ依リ試掘權ノ存續期間ヲ延長スルトキハ鑛業法第十九條ノ規定ニ依ル登錄ヲ命ズルコトヲ要ス

附則

本令ハ昭和十六年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

砂鑛業ノ登録ニ關スル件

明治四十二年六月
勅令第百六十四號

改正 大正一一年第五一五號、昭和四年第三一五號

第一條 砂鑛業ニ關スル登録ハ鑛山監督局ニ於テ砂鑛原簿ニ之ヲ爲ス

第二條 鑛業登録令第二條乃至第四條、第五條第二項、第六條乃至第二十七條、第三十條乃至第三十七條、第三十九條乃至第七十五條ノ規定ハ砂鑛業ニ關スル登録ニ之ヲ準用ス

附則

第三條 本令ハ砂鑛法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四條 本令施行前ニ鑛山監督署ニ備付タル砂鑛採取業ニ關スル原簿ヲ以テ舊砂鑛原簿トス

第五條 砂鑛採取法ニ依リ差出シタル砂鑛ノ採取又ハ採取地ノ増區ニ關スル出願ニシテ許可スヘキモノト決定シタルトキハ(鑛山監督署長)ハ砂鑛權ノ設定又ハ變更ノ登録ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ハ砂鑛權ニ付登録上利害關係ヲ有スル第三者ナキ場合ニ於テ砂鑛採取法ニ依リ採取地ノ合併、分割、減區又ハ増減區ノ出願ニ關シ之ヲ準用ス

第六條 前條第二項ノ出願ニ關シ(農商務大臣)ノ定ムル所ニ依リ登録上利害ノ關係ヲ有スル第三者ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ差出シタルトキハ(鑛山監督署長)ハ砂鑛權ノ設定又ハ變更ノ登録ヲ爲スコトヲ要ス

第七條 砂鑛採取法ニ依リ差出シタル砂鑛採取業讓渡願又ハ砂鑛採取人除名届ニ付テハ舊砂鑛原簿ニ其ノ登録ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ願書ヲ差出シタル日ヲ以テ申請ノ日ト看做ス

第八條 本令施行前ニ許可ヲ受ケタル共同砂鑛權者ガ(農商務大臣)ノ定ムル所ニ依リ代表者選定ノ届出ヲ爲シタルトキハ舊砂鑛原簿ニ其ノ登録ヲ爲スコトヲ要ス代表者ノ指定アリタルトキ亦同シ

第九條 本令施行前ニ差出シタル廢業届ニ付テハ舊砂鑛原簿ニ郵便差出ノ日ニ於テ廢業ヲ爲シタルコトヲ記載スルコトヲ要ス

第十條 鑛業登録令第七十八條、第七十九條及第八十二條ノ規定ハ砂鑛業ニ關スル登録ニ之ヲ準用ス

砂鑛業ノ登録ニ關スル件

砂鑛業ノ登録ニ關スル細則

明治四十二年六月
農商務省令第二十七號

改正 大正一一年第二七號、昭和四年商工省令第一四號

第一條 砂鑛原簿ハ第一號ノ様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二條 砂鑛業共同人名簿ハ第二號ノ様式ニ、砂鑛業信託原簿ハ第三號様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第三條 登録番號欄ニハ各砂鑛區ニ付砂鑛原簿ニ登録ヲ爲シタル順序ヲ記載スヘシ

表示欄ニハ砂鑛權ノ表示ヲ爲シ、其ノ變更及消滅ニ關スル事項ヲ記載シ表示番號欄ニハ表示欄ニ登録事項ヲ記載シタル順序ヲ記載スヘシ

甲區事項欄ニハ砂鑛權ノ設定、移轉、處分ノ制限ニ關スル事項ヲ乙區事項欄ニハ抵當權ノ設定、變更、移轉、消滅及處分ノ制限ニ關スル事項ヲ記載シ順位番號欄ニハ事項欄ニ登録事項ヲ記載シタル順序ヲ記載スヘシ

第四條 鑛業登録令施行細則第二條、第三條、第五條、第六條、第十一條乃至第二十一條、第二十二條第四項及第五項、第二十三條乃至第四十四條、第四十五條乃至第五十條ノ規定ハ砂鑛業ニ關スル登録ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

附則

第五條 本則ハ明治四十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第六條 鑛業登録令第七十八條ノ規定ヲ準用スル場合ニ於テ舊砂鑛原簿ヨリ登録ヲ移シタルトキハ表示欄及事項欄ニ移シタル登録ノ末尾ニ舊砂鑛原簿第何冊第何丁ヨリ移シタル旨及年月日ヲ記載ス

シ擔當職員捺印スヘシ
前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ舊砂鑛原簿ニ砂鑛原簿第何冊第何丁ニ移シタル旨其ノ登録番號及年月日ヲ記載シ擔當職員捺印スヘシ
様式第一號

何府縣(國、郡)

砂 鑛 原 簿 第何冊

何 鑛 山 監 督 局

紙數表紙ヲ除キ

枚

年 月 日

何 鑛 山 監 督 局 長

何 某 印

砂鑛業ノ登録ニ關スル細則

登
録
番
號

表
題
部

甲

砂
鑛
原
簿

順位
番號
事
項
欄
順位
番號
事
項
欄
順位
番號
事
項
欄

表示
番號
表
示
欄
表示
番號
表
示
欄
表示
番號
表
示
欄

乙

區

區

砂
鑛
原
簿

順位
番號
事
項
欄
順位
番號
事
項
欄
順位
番號
事
項
欄

砂鑛業ノ登録ニ關スル細則

何府縣(國、郡)
何府縣(國、郡)
何府縣(國、郡)

砂鑛業共同人名簿

第何冊

何鑛山監督局

紙數表紙ヲ除キ

枚

年月日

何鑛山監督局長

何 某印

番號	代表者欄	共同人名欄	備考	番號	代表者欄	共同人名欄	備考
	砂鑛業共同人名簿		丁				

信託
番號
第
號

欄 要 目	事 項 欄	砂 鑛 業 信 託 原 簿	利 權 託 信	
			/ 者 託 受 / 者 託 委 名 氏 所 住 名 氏 所 住	
			人 理 管 託 信 / 者 益 受 名 氏 所 住 / 名 氏 所 住	
			壹丁ノ壹	

欄 要 目	事 項 欄	砂 鑛 業 信 託 原 簿	欄 要 目	事 項 欄								
					欄 要 目	事 項 欄	欄 要 目	事 項 欄				
									欄 要 目	事 項 欄	欄 要 目	事 項 欄

鑛業警察規則

昭和四年十二月
商工省令第二十一號

改正 一六年第四五號

第一條 採掘權者技術管理者ヲ選任シタルトキハ遲滯ナク履歷書ヲ添ヘ其ノ旨鑛山監督局長ニ届出ツベシ

常時百五十人以上ノ鑛夫ヲ雇傭スル鑛山ノ採掘權者ハ技術管理者ヲ選任スベシ但シ作業ノ狀況ニ依リ危害又ハ衛生上有害ノ虞少キ場合ニ於テハ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケ之ヲ選任セザルコトヲ得

鑛山監督局長必要アリト認ムルトキハ常時百五十人未滿ノ鑛夫ヲ雇傭スル鑛山ノ採掘權者ニ對シ技術管理者ノ選任ヲ命ズルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ鑛山監督局長必要アリト認ムルトキハ技術管理者ノ増員ヲ命ズルコトヲ得
前三項ノ場合ニ於テ技術管理者死亡シ又ハ之ヲ解任シタルトキハ採掘權者ハ遲滯ナク其ノ後任者ヲ選任スベシ

第二項乃至第四項以外ノ場合ニ於テ技術管理者死亡シ又ハ之ヲ解任シタルトキハ採掘權者ハ遲滯ナク其ノ旨鑛山監督局長ニ届出ツベシ

第二條 鑛山監督局長必要アリト認ムルトキハ採掘權者ニ對シ技術管理者ノ改任ヲ命ズルコトヲ得
第三條 技術管理者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ノ中ヨリ之ヲ選任スベシ

一 帝國大學、大學令ニ依ル大學又ハ實業專門學校ニ於テ鑛業ノ技術ニ關スル學科ヲ修メ之ヲ卒業シタル者ニシテ一年以上其ノ實務ニ從事シタルモノ

二 鑛業ノ技術ニ關シ前號ニ掲グル者ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ニシテ一年以上其ノ實務ニ從事シタルモノ

三 工業學校尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限五年ノモノ又ニ於テ鑛業ノ技術ニ關スル學科ヲ修メ之ヲ卒業シタル者ニシテ三年以上其ノ實務ニ從事シタルモノ

四 鑛業ノ技術ニ關シ前號ニ掲グル者ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ニシテ三年以上ノ實務ニ從事シタルモノ

石炭山ニ於テ五年以上其ノ鑛業ノ技術ニ關スル實務ニ從事シタル者ハ前項ノ規定ニ拘ラズ鑛山監督局長ノ詮衡ヲ經テ之ヲ石炭山ノ技術管理者ニ選任スルコトヲ得石炭山以外ノ鑛山ニ於テ五年以上其ノ鑛業ノ技術ニ關スル實務ニ從事シタル者石炭山以外ノ鑛山ニ付亦同ジ

第四條 技術管理者ハ技術ニ關スル一切ノ事項ヲ管理ス
第五條 採掘權者二人以上ノ技術管理者ヲ選任シタルトキハ其ノ權限ヲ定メ其ノ旨鑛山監督局長ニ届出ツベシ

第六條 採掘權者ハ技術管理者ヲシテ二以上ノ鑛山ノ技術管理者ヲ兼ネシムルコトヲ得ズ但シ特別ノ事由アル場合ニ於テ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第七條 採掘權者ハ技術管理者旅行、疾病其ノ他ノ事故ニ依リ職務ヲ行フコト能ハザル場合ニ於テ其ノ職務ヲ行ハシムル爲第三條ノ資格ヲ有スル者ノ中ヨリ代理者ヲ選任スルコトヲ得

前項ノ代理者ハ豫メ之ヲ選任スルコトヲ得

鑛山監督局長必要アリト認ムルトキハ採掘權者ニ對シ第一項ノ代理者ノ選任ヲ命ズルコトヲ得
前三項ノ規定ニ依リ代理者ヲ選任シタルトキハ遲滯ナク履歷書ヲ添ヘ其ノ旨鑛山監督局長ニ届出
ツベシ

代理者ハ其ノ職務ヲ行フ期間本則其ノ他鑛業警察ニ關スル命令ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ技術管
理者ト看做ス

第八條 技術管理者(技術管理者ヲ選任セザル鑛山ニ在リテハ鑛業權者) 危害又ハ衛生上有害ノ虞
アリト認ムルトキハ遲滯ナク應急又ハ豫防ノ處置ヲ爲スベシ

第九條 鑛業權者本則其ノ他鑛業警察ニ關スル命令ノ規定ニ依ル係員ヲ選任シタルトキハ遲滯ナク
履歷書ヲ添ヘ其ノ旨鑛山監督局長ニ届出ツベシ
前項ノ係員死亡シ又ハ之ヲ解任シタルトキハ鑛業權者ハ遲滯ナク其ノ旨鑛山監督局長ニ届出ツベ
シ

第十條 鑛山監督局長必要アリト認ムルトキハ鑛業權者ニ對シ本則其ノ他鑛業警察ニ關スル命令ノ
規定ニ依ル係員ノ改任又ハ増員ヲ命ズルコトヲ得

第十一條 本則其ノ他鑛業警察ニ關スル命令ノ規定ニ依ル係員ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニシテ
二十歳以上ノモノノ中ヨリ之ヲ選任スベシ

一 帝國大學、大學令ニ依ル大學又ハ實業專門學校ニ於テ擔任ノ技術ニ關スル學科ヲ修メ之ヲ卒
業シタル者ニシテ六月以上其ノ實務ニ従事シタルモノ

二 擔任ノ技術ニ關シ前號ニ掲グル者ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ニシテ六月以上其ノ實務ニ従
事シタルモノ

三 工業學校 尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限五年ノモノ又ニ於テ擔任ノ技術
ニ關スル學科ヲ修メ之ヲ卒業シタル者ニシテ一年以上其ノ實務ニ従事シタルモノ

四 擔任ノ技術ニ關シ前號ニ掲グル者ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ニシテ一年以上其ノ實務ニ従
事シタルモノ

五 中學校ヲ卒業シタル者ニシテ二年以上擔任ノ職務ニ關スル作業ニ従事シタルモノ

六 前號ニ掲グル者ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ニシテ二年以上擔任ノ職務ニ關スル作業ニ従事
シタルモノ

七 尋常小學校ヲ卒業シタル者ニシテ三年以上擔任ノ職務ニ關スル作業ニ従事シタルモノ
前項第五號乃至第七號ノ期間ハ安全澄係員、發破係員及衛生係員ニ付テハ一年以上トス

第十二條 鑛業權者ハ本則其ノ他鑛業警察ニ關スル命令ノ規定ニ依ル係員ヲシテ二以上ノ鑛山ノ係
員又ハ二以上ノ係員ヲ兼ネシムルコトヲ得ズ但シ特別ノ事由アル場合ニ於テ鑛山監督局長ノ許可
ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十三條 採掘權者ハ坑内保安係員ヲ選任スベシ
鑛山監督局長必要アリト認ムルトキハ採掘權者ニ對シ坑外保安係員ノ選任ヲ命ズルコトヲ得
鑛山監督局長必要アリト認ムルトキハ試掘權者ニ對シ坑内保安係員又ハ坑外保安係員ノ選任ヲ命
ズルコトヲ得

第十四條 坑内保安係員又ハ坑外保安係員ハ技術管理者(技術管理者ヲ選任セザル鑛山ニ在リテハ鑛業權者)ノ指揮ヲ受ケ坑内保安係員ハ坑内ノ保安ニ關スル事項、坑外保安係員ハ坑外ノ保安ニ關スル事項ヲ掌ル但シ本則其ノ他鑛業警察ニ關スル命令ノ規定ニ依ル他ノ係員ノ掌ル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

坑内保安係員又ハ坑外保安係員ハ毎日鑛夫ノ就業場所、通行場所其ノ他危險ノ虞アル場所ヲ巡視シ落磐、瓦斯爆發其ノ他ノ危險ノ有無ヲ検査スベシ危險又ハ危險ノ虞アリト認ムルトキハ遲滯ナク作業ノ中止、通行ノ遮斷其ノ他ノ應急處置ヲ爲シ技術管理者(技術管理者ヲ選任セザル鑛山ニ在リテハ鑛業權者)ノ指揮ヲ受クベシ

坑内保安係員又ハ坑外保安係員ハ保安日誌ヲ作り巡視ノ都度各場所ニ於ケル狀況及危害豫防ニ付爲シタル處置ヲ記入スヘシ

第十五條 落磐ノ虞アル場合ニ於テハ支柱其ノ他危害豫防ノ設備ヲ爲スベシ
探炭夫ヲシテ探炭ノ際支柱ヲ爲サシムル必要アル場合ニ於テハ其ノ支柱方法ヲ定メ之ヲ遵守セシムベシ

第十六條 探鑛又ハ掘進中特ニ落磐ノ虞アル場合ニ於テハ支柱材其ノ他ノ坑内支持ニ必要ナル材料ヲ其ノ落磐防止ノ作業上便宜ノ場所ニ豫メ配置スベシ

第十七條 坑道ノ掘進其ノ他掘鑿ヲ爲ス場合ニ於テ水又ハ瓦斯ノ噴出ニ因ル危害發生ノ虞アルトキハ先進鑛孔ノ穿鑿其ノ他適當ナル處置ヲ爲スベシ

第十八條 衛生及危害豫防ニ必要ナル分量ノ空氣ヲ坑内ニ給送スル爲通氣施設ヲ爲スベシ

第十九條 扇風機ニ依リ通氣(局部通氣ヲ除ク)ヲ爲ス場合ニ於テハ坑内通氣ノ氣壓測定器ヲ備付クベシ
坑内保安係員ハ通氣簿ヲ作り毎日前項ノ氣壓測定器ノ示度ヲ之ニ記入スベシ

第二十條 同時ニ五十人以上ノ鑛夫ヲ坑内ニ就業セシムル石炭坑ニ於テハ左ノ各號ノ規定ニ依ルベシ

一 氣壓計及溫度計ヲ坑口附近ノ適當ナル場所ニ備付クルコト

二 坑内通氣圖ヲ作り坑内ニ於ケル通氣路及通氣ノ方向並ニ通氣裝置及通氣量測定箇所ノ位置ヲ記入スルコト

三 坑内保安係員ハ通氣簿ヲ作り毎日氣壓計及溫度計ノ示度ヲ記入スルコト

四 坑内保安係員ハ三十日以内毎ニ測風器ヲ以テ通氣量ノ測定ヲ爲シ且揮發油安全燈其ノ他適當ナル器具ヲ以テ可燃性瓦斯ノ検査ヲ爲スコト但シ通氣ニ異常アリト認ムルトキ又ハ通氣系統ヲ變更シタルトキハ其ノ都度測定及検査ヲ爲スベシ

五 坑内保安係員ハ前號ノ測定ノ結果ヲ通氣簿ニ、検査ノ結果ヲ保安日誌ニ記入スルコト
鑛山監督局長必要アリト認ムルトキハ前項以外ノ鑛山ニ付前項各號ノ規定ノ全部又ハ一部ヲ適用スルコトヲ得

第二十一條 坑内ニ可燃性瓦斯存スルコトヲ發見シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨鑛山監督局長ニ届出ツベシ

第二十二條 坑内ニ可燃性瓦斯存スル鑛山ニ於テハ坑内保安係員ハ毎日揮發油安全燈其ノ他適當ナ

ル器具ヲ以テ可燃性瓦斯ノ存シ又ハ存スル虞アル場所ニ付其ノ分量ヲ測定シ其ノ結果ヲ保安日誌ニ記入スベシ

前項ノ測定ハ鑛夫ノ入坑時前六時間以内ニ之ヲ爲スベシ

第二十三條 坑内作業場ニ於ケル可燃性瓦斯含有率ハ百分ノ二以下ト爲シ坑内通行場所ニ於テハ百分ノ三以下ト爲スベシ但シ特ニ安全ナル方法ニ依リ通氣改良ニ關スル作業ヲ爲サシムル場合ニ於テハ其ノ作業場ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

坑内保安係員ハ可燃性瓦斯含有率百分ノ二ヲ超ユル場所ニハ一定ノ警標ヲ掲ゲ百分ノ三ヲ超ユル場所ニハ柵圍其ノ他通行遮斷ノ設備ヲ爲スベシ

第二十四條 可燃性瓦斯存スル坑内ニ於ケル火番所ハ入氣坑道内ノ安全ナル場所ニ之ヲ設クベシ

第二十五條 坑内ニ於ケル可燃性瓦斯ノ存シ又ハ存スル虞アル場所ニ在リテハ安全燈及安全電燈(携帯用安全電燈及安全裝置ヲ施シタル定著電燈)以外ノ燈火ヲ使用スルコトヲ得ズ

運搬又ハ通氣ノ關係上同一區域ト認メ得ベキ坑内區域ノ一部ニ可燃性瓦斯存スル場合ニ於テハ其ノ存セル部分ニ在リテモ安全燈及携帯用安全電燈以外ノ携帯用燈火ヲ使用スルコトヲ得ズ

鑛山監督局長必要アリト認ムルトキハ鑛業權者ニ對シ其ノ使用スル安全燈又ハ安全電燈ノ種類ヲ制限スルコトヲ得

第二十六條 坑内ニ於テ使用スル安全燈ノ構造ハ左ノ各號ノ規定ニ依ルベシ

- 一 鎖鑰ヲ安全ナラシムルコト
- 二 針金ノ直徑〇・三乃至〇・四ミリメートルニシテ一平方センチメートルニ付百四十四箇以上ノ

篩目ヲ有スル金屬製網筒ヲ二重ニ備ヘ其ノ内側ノ網筒ハ鐵製又ハ鋼製ト爲スコト

- 三 硝子筒ハ堅牢ニシテ溫度ノ激變ニ耐ユルモノト爲スコト
- 四 各部分品ノ接合部ハ空氣ノ侵入セザル構造ト爲スコト

第二十七條 坑内ニ於テ安全燈又ハ携帯用安全電燈ヲ使用スル場合ニ於テハ左ノ各號ノ規定ニ依ルベシ

- 一 安全燈係員ヲ選任スルコト
- 二 安全燈又ハ携帯用安全電燈ノ取扱ヲ爲サシムル爲安全燈室ヲ設クルコト、其ノ揮發油ヲ注入スル場所ノ内部ハ之ヲ不燃性ナラシムルコト
- 三 坑内ニ在リテハ火番所以外ノ場所ニ於テ安全燈ノ鎖鑰ヲ開キ點火セシメザルコト
- 四 毀損其ノ他ノ故障ニ因リ安全燈又ハ携帯用安全電燈ヲ坑内ニ於テ交換セシムル場合ニ於テハ火番所、見張所其ノ他一定ノ場所ニ豫備品ヲ備付ケ同所ニ於テ交換セシムルコト

第二十八條 安全燈係員ハ技術管理者(技術管理者ヲ選任セザル鑛山ニ在リテハ鑛業權者)ノ指揮ヲ受ケ安全燈及携帯用安全電燈ノ検査ヲ爲シ其ノ掃除及授受ヲ監督スベシ但シ坑内火番所ニ於テ再點火ヲ爲ス場合ニ於ケル検査ニ限リ鑛業權者ノ選定シタル助手ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

- 安全燈係員ハ左ノ各號ノ規定ヲ遵守スベシ
- 一 安全燈及携帯用安全電燈ノ各部分品組立後ノ各接合部ヲ検査シ異狀ナシト認メ鎖鑰ヲ施シタル後ニ非ザレバ之ヲ交付セシメザルコト
- 二 安全燈日誌ヲ作り安全燈及携帯用安全電燈ノ總數、使用數、破損及修理ノ狀況並ニ其ノ検査、

掃除及授受ニ關スル事項ヲ記入スルコト

第二十九條 坑内ニ於テ安全燈ヲ使用スル者ハ左ノ各號ノ規定ヲ遵守スベシ

- 一 安全燈ヲ開カザルコト
- 二 安全燈ヲ濫ニ天井ニ接近セシメザルコト、顛倒又ハ毀損ノ慮アル場所ニ之ヲ置カザルコト
- 三 安全燈ヲ濫ニ振動シ又ハ傾斜セシメザルコト
- 四 安全燈ヲ點火シタル儘坑内ニ置去ラザルコト
- 五 安全燈ノ火焰ヲ濫ニ伸大セザルコト
- 六 安全燈ノ火焰伸大シタル場合ニ於テハ安全燈ヲ靜カニ下スコト、消火ヲ要スルトキト雖モ之ヲ放棄シ又ハ吹消サザルコト
- 七 安全燈ノ毀損又ハ故障ヲ發見シタル場合ニ於テハ遲滞ナク消火スルコト

第三十條 坑内ニ於テハ燈火用トシテ石油又ハ魚油ヲ使用スルコトヲ得ズ但シ油煙ヲ發セザル裝置ヲ爲シタル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

第三十一條 可燃性瓦斯存スル坑内ニ於テハ火番所以外ノ場所ニ於テ喫煙ヲ爲シ又ハ當該係員ノ指揮ニ依ル場合ノ外發火具、喫煙具若ハ煙草ヲ携帯スルコトヲ得ズ

第三十二條 爆發藥ヲ使用スル者ニ對シテハ裝填用込物トシテ粘土其ノ他發火又ハ引火ノ慮ナキ物ヲ交付スベシ

第三十三條 爆發藥ヲ使用スル者ハ左ノ各號ノ規定ヲ遵守スベシ
一 「ダイナマイト」其ノ他ノ「ナイトログリセリン」爆發藥ニシテ凍結シタルモノハ火氣ニ接

近セシメ又ハ直接蒸氣ニ接觸セシムル等危險ナル方法ヲ以テ之ヲ融解セザルコト

二 裝填ハ鐵製具ヲ以テ之ヲ爲サザルコト、「ナイトログリセリン」爆發藥又ハ棉火藥ノ裝填ニハ木製ノ込棒以外ノモノヲ使用セザルコト

三 爆發藥ノ裝填用込物ハ前條ノ規定ニ依リ交付ヲ受ケタル物ノ外之ヲ使用セザルコト

四 點火ハ豫メ附近ノ者ニ警告シタル後ニ非ザレバ之ヲ爲サザルコト

五 點火後爆發セサルトキハ電氣點火法ニ依リタル場合ハ發破母線ヲ點火器ヨリ取離シタル後、其ノ他ノ方法ニ依リタル場合ハ少クトモ十五分ヲ經過シタル後ニ非ザレバ爆發藥裝填箇所ニ近寄ラザルコト

六 不發ノ裝藥及其ノ込物ハ之ヲ掘出サザルコト、此ノ場合ニ於テハ當該係員ノ指揮ヲ受ケ危險ナカラシムル爲適當ノ處置ヲ爲スコト

第三十四條 鑛山監督局長必要アリト認ムルトキハ可燃性瓦斯ノ存シ若ハ存スル慮アル場所又ハ乾燥炭塵存スル場所ニ於ケル發破ヲ行ハシムル爲鑛業權者ニ對シ發破係員ノ選任ヲ命ズルコト得

第三十五條 發破係員ハ技術管理者(技術管理者ヲ選任セザル鑛山ニ在リテハ鑛業權者)ノ指揮ヲ受ケ爆發藥ノ點火其ノ他發破ニ關スル事項ヲ掌ル但シ爆發藥ノ携帯又ハ裝填ニ限リ鑛業權者ノ選定シタル助手ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

發破係員ハ左ノ各號ノ規定ヲ遵守スベシ
一 發破ヲ行フ場合ニ於テハ其ノ都度點火前其ノ箇所ノ周圍少クトモ五メートルノ區域ニ互リ可燃性瓦斯ニ付揮發油安全燈其ノ他適當ナル器具ヲ以テ其ノ分量ヲ測定シ且炭塵ニ付危險ノ有無

ヲ検査スルコト

二 坑内ニ於ケル可燃性瓦斯含有率百分ノ一以上ノ場所ニ於テハ發破ヲ行ハザルコト但シ其ノ含有率百分ノ二以下ノ場所ニ於テ電氣點火法ニ依ル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

三 空發其ノ他危險ノ虞ナカラシムル爲裝填前鑽孔ノ位置、狀態及深サヲ検査スルコト

四 乾燥炭塵存スル場合ニ於テハ電氣點火法ニ依ルニ非ザレバ同一場所ニ於テ一時ニ二發以上ノ發破ヲ行ハザルコト

五 隣接場所ニ於テ順次ニ發破ヲ行フ場合ニ於テハ風下ヨリ之ヲ爲スコト

六 發破係員ハ發破日誌ヲ作り發破ノ場所毎ニ左記事項ヲ記入スルコト

イ 第一號及第三號ノ測定及検査ノ結果

ロ 發破ノ回數

ハ 各鑽孔ニ於ケル爆發藥、雷管及導火線ノ種類及數量

ニ 點火ノ方法

ホ 不發ノ場合ニ於テ爲シタル處置

ハ 助手ヲ使用シタル場合ニ於テハ其ノ氏名

第三十六條 鑛山監督局長必要アリト認ムルトキハ鑛業權者ニ對シ其ノ使用スル爆發藥、雷管、導

火線又ハ電氣點火器ノ種類ヲ制限スルコトヲ得

鑛山監督局長必要アリト認ムルトキハ鑛業權者ニ對シ可燃性瓦斯ノ存シ若ハ存スル處アル場所又ハ乾燥炭塵ノ存スル場所ニ付一鑽孔ニ裝填スル爆發藥ノ數量ヲ其ノ種類毎ニ制限スルコトヲ得

第三十七條 同時ニ五十人以上ノ鑛夫ヲ就業セシムル坑内ニ於テハ其ノ奥部ニ於テ連絡スル二以上ノ通路ヲ以テ地表ニ連絡セシムベシ

前項ノ通路ハ適當ナル間隔ヲ保有セシメ常ニ出入ニ支障ナカラシムベシ

前二項ノ規定ハ枝坑ニシテ同時ニ五十人以上ノ鑛夫ヲ就業セシムルモノニ付之ヲ準用ス

前三項ノ規定ハ堅坑、斜坑又ハ坑道ヲ開鑿スル場合ニ於テ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケタルトキハ之ヲ適用セズ

鑛山監督局長必要アリト認ムルトキハ同時ニ五十人未滿ノ鑛夫ヲ就業セシムル坑内ニ付第一項乃至第三項ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

第三十八條 坑内梯子道（非常用ノモノヲ除ク）ヲ設クル場合ニ於テハ左ノ各號ノ規定ニ依ルベシ

但シ已ムヲ得ザル事由アル場合ニ於テハ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一 梯子ハ坑壁トノ間ニ適當ナル間隔ヲ保有セシメ傾斜八十度以内ト爲スコト

二 十メートル以内毎ニ踏棚ヲ設クルコト但シ長サ十五メートル以内ノ梯子道ニ於テハ踏棚ヲ設ケザルコトヲ得

三 昇降ヲ便ナラシムル爲梯子ハ其ノ上端ヲ六十センチメートル以上突出セシメテ設クル等適當ナル設備ヲ爲スコト

四 堅坑又ハ四度以上ノ斜坑ニ於テ梯子道ノ外捲揚裝置ヲモ設クル場合ニ於テハ板仕切其ノ他ノ隔壁ヲ設クルコト

第三十九條 捲揚裝置ニ依リ人ヲ昇降セシムル堅坑又ハ四十度以上ノ斜坑ニ於テハ何時ニテモ捲揚

鑛業警察規則

二四一

裝置ニ依ラズシテ出入シ得ベキ他ノ通路アル場合ノ外非常梯子道ヲ設クベシ

第四十條 當該係員又ハ當該係鑛夫ニ非ザレバ自動車道、捲揚車道若ハ無極綱索軌道ノ車輛又ハ機關車ニ依リ運轉スル車輛ニ乗車スルコトヲ得ズ但シ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケ危害豫防ノ施設ヲ爲シタル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

第四十一條 自動車道、捲揚車道又ハ斜坑ニ於ケル無極綱索軌道ニ依リ車輛ヲ運轉スル場合ニ於テハ逸走豫防ノ施設ヲ爲スベシ

第四十二條 自動車道、捲揚車道無極綱索軌道又ハ機關車ヲ運轉スル軌道ヲ設ケタル坑道ハ之ヲ常時通行ニ供スルコトヲ得ズ但シ軌道ノ傍側ニ步道ヲ設ケタル場合又ハ白色ノ標示ヲ爲シタル回避所ヲ適當ノ間隔ニ設ケタル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

鑛山監督局長必要アリト認ムルトキハ前項但書ノ規定ニ拘ラズ專用通行坑道ノ設置ヲ命ズルコトヲ得

第一項但書ノ回避所ヲ設ケタル場合ニ於テモ鑛山監督局長必要アリト認ムルトキハ軌道ノ傍側ニ步道ノ設置ヲ命ズルコトヲ得

第四十三條 同時ニ五十人以上ノ鑛夫ヲ就業セシムル坑内ニ於テハ通行坑道ノ分岐點其ノ他必要ナル場所ニ坑道ノ名稱ヲ揭示シ且出口ノ方向ヲ指示スベシ

第四十四條 捲揚裝置ヲ設ケタル堅坑及坑井竝ニ自動車道、捲揚車道及無極綱索軌道ヲ設ケタル坑道ニハ人聲ヲ以テ合圖ヲ爲シ得ル場合ノ外信號裝置ヲ設クベシ

第四十五條 堅坑又ハ四十度以上ノ斜坑ヲ開鑿スル場合ニ於テハ土石等ノ墜落ニ因ル危害ヲ豫防ス

ル爲適當ナル施設ヲ爲スベシ

第四十六條 堅坑、坑井、手掘油井又ハ四十度以上ノ斜坑ニ於テハ其ノ坑口及他ノ坑道ト交叉スル箇所ニ蓋、柵圍其ノ他墜落豫防ノ設備ヲ爲スベシ

堅坑、坑井、手掘油井若ハ四十度以上ノ斜坑ノ内部又ハ堅坑、油井若ハ試錐孔ノ櫓上又ハ架空索道ノ支柱上ニ於テ作業セシムル場合ニ於テハ腰綱其ノ他ノ墜落豫防法ヲ講ズベシ

第四十七條 不用ノ堅坑、坑井、手掘油井又ハ四十度以上ノ斜坑ニハ坑口ノ閉塞其ノ他墜落豫防ノ施設ヲ爲スベシ

第四十八條 不用ノ坑道又ハ坑内採掘跡ニハ柵圍其ノ他通行遮斷ノ設備ヲ爲スベシ

第四十九條 坑内ニ於ケル見張所及火番所ニ在リテハ消火器又ハ砂ヲ備付クル等適當ナル消火施設ヲ爲スベシ

前項ノ場所ヲ除ク外坑内ニ於ケル唧筒座、捲揚機械場其ノ他火災發生ノ虞アル場所ニ在リテハ防火設備ヲ爲シ且前項ノ消火施設ヲ爲スベシ

第五十條 石油坑口又ハ貯油場ノ周圍十メートル以内ニ於テハ發火具、裸火其ノ他危險ナル火氣ヲ使用シ又ハ喫煙ヲ爲スコトヲ得ズ石油精製場又ハ天然揮發油採收場ニ於ケル油類、可燃質瓦斯ノ貯藏、取扱ヲ爲ス場所ノ周圍十メートル以内ニ付亦同ジ

第五十一條 鑛業權者ハ汽罐、原動機、坑内通氣用主要扇風機、捲揚裝置其ノ他危害豫防上特別ノ注意ヲ要スル機械又ハ裝置ヲ設ケタル場合ニ於テハ機械保安係員ヲ選任スベシ

第五十二條 機械保安係員ハ技術管理者(技術管理者ヲ選任セザル鑛山ニ在リテハ鑛業權者)ノ指

揮ヲ受ケ前條ノ機械及裝置ノ保安ニ關スル事項ヲ掌ル
機械保安係員ハ毎日前條ノ機械及裝置ニ付異常ノ有無ヲ検査スベシ異狀アリト認ムルトキハ適當ナル處置ヲ爲シ遲滯ナク技術管理者(技術管理者ヲ選任セザル鑛山ニ在リテハ鑛業權者)ノ指揮ヲ受クベシ

機械保安係員ハ機械保安日誌ヲ作り検査ノ都度機械及裝置ノ操作及保全ノ狀況、修理及休止、危害豫防ニ付爲シタル處置其ノ他重要ナル事項ヲ記入スベシ

第五十三條 機械又ハ裝置ノ危檢ナル部分ニハ柵圍、被覆其ノ他危害豫防ノ施設ヲ爲スベシ

第五十四條 人ヲ昇降セシムル豎坑捲揚裝置ヲ設クル場合ニ於テハ左ノ各號ノ規定ニ依ルベシ

- 一 制動機及深度指示器ヲ備フルコト
- 二 捲揚超過ヨリ生ズル危害豫防ノ設備ヲ爲スコト
- 三 捲揚臺ニハ上蓋ヲ備ヘ且墜落豫防ノ設備ヲ爲スコト
- 四 捲揚臺ヲ支持スル附屬金具及捲綱ハ最大荷重ノ少クトモ十倍ニ耐ユルモノナルコト但シ捲綱切斷ニ因ル危害ヲ豫防スル施設ヲ爲シタル場合ニ於テハ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケ最大荷重ノ八倍ニ耐ユル捲綱ヲ用フルコトヲ得

五 繼合セタル捲綱ヲ用ヒザルコト

第五十五條 汽罐、架空索道、機關車ヲ運轉スル軌道、坑外無極綱索軌道、延長一キロメートル以上ノ坑外軌道(機關車ヲ運轉スル軌道及坑外無極綱索軌道ヲ除ク)、人ヲ昇降セシムル豎坑捲揚裝置、原動機ヲ使用スル選鑛場、燒鑛場、製鍊場、石油精製場、天然揮發油採收場又ハ容量五十

キロリットル以上ノ石油「タンク」(石油精製場又ハ天然揮發油採收場ニ附屬スルモノヲ除ク)ヲ設ケントスル場合ニ於テハ左ニ掲グル事項ヲ具シ鑛山監督局長ノ認可ヲ受クベシ

一 汽 罐

- (一) 設置場所
- (二) 使用目的
- (三) 型式、構造 安全弁ノ種類、直徑及筒數ヲモ記載スルコト 及主要寸法
- (四) 火格子面積及傳熱面積
- (五) 最大常用壓力
- (六) 水壓試験ヲ爲シタル年月日及其ノ成績
- (七) 製作所名、製作年月及修繕其ノ他履歷ノ概要
- (八) 煙突ノ構造、材料、直徑、高さ及圖面
- (九) 汽罐ノ設計圖及据付圖面
- (十) 焚炭機、通風機、蒸氣過熱機、給水機、給水加熱機其ノ他汽罐附屬ノ機械及裝置ノ型式構造及主要寸法並ニ其ノ配置圖
- (十一) 附近ニ於ケル建設物、道路、石油坑井等トノ關係圖
- (十二) 工事ノ著手及完成ノ豫定時期

二 架空索道

- (一) 使用目的

- (二) 方式、延長及最大運搬量
- (三) 起點、終點ノ位置及其ノ高低差
- (四) 最大徑間及往復兩線ノ間隔
- (五) 原動機ノ種類、型式、キロワット數、迴轉數及主要寸法
- (六) 傳動裝置及曳索 緊張裝置ノ構造 重錘ノ重量ヲモ、主要寸法並ニ配置圖
- (七) 軌索 緊著裝置ノ構造及主要寸法
- (八) 制動機ノ種類及構造
- (九) 搬器及扼索裝置ノ構造說明圖
- (十) 搬器ノ自重、最大積載重量及搬器相互間ノ間隔
- (十一) 綱索ノ種類、構造、全長、直徑又ハ周圍長、單位長ノ重量、最大抗張力及製作所名
- (十二) 支柱及綱索支持裝置ノ種類、構造及主要寸法
- (十三) 綱索ノ最大運轉速度
- (十四) 信號裝置
- (十五) 道路、建設物等ニ對スル保安設備
- (十六) 線路平面圖及線路縱斷面圖 線路平面圖ハ縮尺二千五百分ノ一以上トシ停留場ノ位置、
線路ノ種類並ニ行政區劃ノ
名稱及境界ヲ記載シ線路中心線ニハ支柱ノ
位置ノ料程及百米毎ニ料程ヲ明示スルコト

線路縱斷面圖ハ縮尺横ハ平面圖ト同一縱ハ二百五十分ノ一以上トシ停留場ノ位置、支柱ノ位置及高さ並ニ支柱及兩極ノ基面ノ高距ヲ記載シ線路中心線ニハ支柱ノ位置ノ料程及百米毎ニ料程ヲ明示スルコト

三 機關車ヲ運轉スル軌道

- (一) 使用目的
- (二) 起點、終點ノ位置及其ノ高低差並ニ軌道ノ延長
- (三) 最小曲線半徑及最急勾配
- (四) 軌間、單線又ハ複線ノ區別 複線ニ在リテハ軌道ノ中及軌條ノ單位長ノ重量
- (五) 坑道又ハ隧道ノ長サ、幅、高サ、軌道ノ中心ヨリ坑道又ハ隧道ノ兩側迄ノ距離
- (六) 橋梁又ハ棧橋ノ長サ、幅及構造
- (七) 機關車ノ種類、型式、自重、牽引力及主要寸法並ニ製作所名及製作年月
- (八) 蒸氣機關車ニ在リテハ機關ノ型式、キロワット數、迴轉數、主要寸法、働輪トノ接續方法、汽罐ノ構造 安全弁ノ種類、直徑、箇數、煙室ニ於ケル火粉止、主要寸法並ニ火格子面積、傳熱面積、最大常用壓力、水壓試驗ヲ爲シタル年月日及其ノ成績、機關車附屬給水機ノ種類、能力、箇數並ニ機關車ノ燃料及給水ノ積載量
- (九) 内燃機關車ニ在リテハ發動機ノ種類、型式、キロワット數、迴轉數、主要寸法及働輪トノ接續方法並ニ機關車ノ燃料ノ種類及積載量

(十) 壓縮空氣機關車ニ在リテハ機關ノ構造、キロワット數、回轉數及主要寸法並ニ壓縮空氣槽ノ構造、安全弁ノ種類、直徑及、主要寸法、最大常用壓力、水壓試驗ヲ爲シタル年月日及其ノ成績

(十一) 制動機ノ種類及構造

(十二) 警報及照明ノ裝置

(十三) 車輛ノ構造、主要寸法、自重及最大積載重量又ハ搭乘定員

(十四) 最大連結車輛數及車輛相互間ノ連結裝置ノ構造說明圖

(十五) 最大運轉速度

(十六) 信號裝置

(十七) 交通頻繁ナル踏切ニ對スル保安設備

(十八) 機關車ノ設計圖

(十九) 線路平面圖及線路縱斷面圖
線路平面圖ハ縮尺二千五百分の一以上トシ停留場、坑道、隧道、雪覆、橋梁、棧橋又ハ踏切ノ位置、線路ノ左右二十米以內ノ地形、道路ノ種類並ニ行政區劃ノ名稱及境界ヲ記載シ線路中心線ニハ曲線半徑、單線複線ノ分界點ノ杆程及百米毎ニ杆程ヲ明示スルコト、停留場、坑道、隧道、雪覆、橋梁、棧橋又ハ踏切ノ部分ニ付テハ縮尺千分の一以上ノ圖面ニ軌道及坑道ノ交叉點又ハ軌道相互ノ交叉點ニ於ケル角度、待避線、轉轍器ノ位置、信號裝置ノ位置、乗降場、步道等ヲ記載スルコト、坑道、隧道、雪覆、橋梁又ハ棧橋ニ付テハ縮尺百分の一以上ノ橫斷面圖ヲ添付スルコト
線路縱斷面圖ハ縮尺橫ハ平面圖ト同一縱ハ二百五十分の一以上トシ停留場、坑道、隧道、雪覆、橋梁、棧橋又ハ踏切ノ位置ヲ記載シ線路中心線ニハ百米毎ニ地盤ノ高サ、施行基面

ノ高サ、線路勾配及杆程ヲ明示スルコト

(二十) 工事ノ著手及完成ノ豫定時期

四 坑外無極綱索軌道

(一) 使用目的

(二) 方式、延長及最大運搬量

(三) 起點、終點ノ位置及其ノ高低差

(四) 最小曲線半徑及最急勾配

(五) 軌間、軌道ノ中心間隔及軌條ノ單位長ノ重量

(六) 隧道ノ長サ、幅、高サ及軌道ノ中心ヨリ隧道ノ兩側迄ノ距離

(七) 橋梁又ハ棧橋ノ長サ、幅及構造

(八) 原動機ノ種類、型式、キロワット數、回轉數及主要寸法

(九) 傳動裝置及綱索緊張裝置ノ構造、重錘ノ重量ヲモ、主要寸法並ニ配置圖

(十) 制動機ノ種類及構造

(十一) 車輛ノ構造、主要寸法、自重及最大積載重量

(十二) 扼索器ニ連絡スル最大車輛數及扼索器相互間ノ間隔

(十三) 車輛相互間ノ連結裝置及扼索器ノ構造說明圖

(十四) 綱索ノ種類、構造、全長、直徑又ハ周圍長、單位長ノ重量、最大抗張力及製作所名

鑛業警察規則

- (十五) 綱索ノ最大運轉速度
- (十六) 曲線部ニ於ケル綱索誘導裝置ノ配置圖
- (十七) 信號裝置
- (十八) 交通頻繁ナル踏切ニ對スル保安設備
- (十九) 線路平面圖及線路縱斷面圖
線路平面圖ハ縮尺二千五百分ノ一以上トシ停留場、隧道、雪覆、橋梁、棧橋、踏切、綱索支持裝置又ハ綱索誘導裝置ノ位置、線路ノ右左二十米以内ノ地形、道路ノ種類並ニ行政區劃ノ名稱及境界ヲ記載シ線路中心線ニハ曲線半徑及百米毎ニ桿程ヲ明示スルコト
 線路縱斷面圖ハ縮尺横ハ平面圖ト同一縱ハ二百五十分ノ一以上トシ隧道、雪覆、橋梁、棧橋、踏切、綱索支持裝置又ハ綱索誘導裝置ノ位置ヲ記載シ線路中心線ニハ百米毎ニ地磬ノ高サ、線路勾配及桿程ヲ明示スルコト
- (二十) 工事ノ著手及完成ノ豫定期
- 五 延長一キロメートル以上ノ坑外軌道（機關車ヲ運轉スル軌道及坑外無極綱索軌道ヲ除ク）
 - (一) 使用目的
 - (二) 方式及延長
 - (三) 起點及終點ノ位置
 - (四) 最小曲線半徑及最急勾配
 - (五) 軌間、單線又ハ複線ノ區別
複線ニ在リテハ軌道ノ中及軌條ノ單位長ノ重量心間隔ヲ記載スルコト
 - (六) 隧道ノ長サ、幅、高サ及軌道ノ中心ヨリ隧道ノ兩側迄ノ距離

- (七) 橋梁又ハ棧橋ノ長サ、幅及構造
- (八) 車輛ノ構造、主要寸法、自重及最大積載重量
- (九) 制動機ノ種類及構造
- (十) 最大連結車輛數及車輛相互間ノ連結裝置ノ構造說明圖
- (十一) 交通頻繁ナル踏切ニ對スル保安設備
- (十二) 線路平面圖及線路縱斷面圖
線路平面圖ハ縮尺二千五百分ノ一以上トシ停留場、隧道、雪覆、橋梁、棧橋又ハ踏切ノ位置、線路ノ右左二十米以内ノ地形、道路ノ種類並ニ行政區劃ノ名稱及境界ヲ記載シ線路中心線ニハ曲線半徑及百米毎ニ桿程ヲ明示スルコト
 線路縱斷面圖ハ縮尺横ハ平面圖ト同一縱ハ二百五十分ノ一以上トシ停留場、隧道、雪覆、橋梁、棧橋又ハ踏切ノ位置ヲ記載シ線路中心線ニハ百米毎ニ地磬ノ高サ、線路ノ勾配及桿程ヲ明示スルコト
- (十三) 工事ノ著手及完成ノ豫定期
- 六 人ヲ昇降セシムル豎坑捲揚裝置
 - (一) 設置場所
 - (二) 專用又ハ兼用ノ別
 - (三) 方式
 - (四) 原動機ノ種類、型式、キロワット數、回轉數及主要寸法
 - (五) 鼓胴ノ形狀、主要寸法及原動機トノ接續方法

- (六) 制動機ノ種類及構造
 - (七) 深度指示器ノ種類及構造
 - (八) 豎坑槽ノ構造、材料、主要寸法及圖面並ニ槽滑車ノ構造、主要寸法及圖面
 - (九) 豎坑ノ構造、材料、主要寸法及區劃說明圖並ニ爲摺ノ種類、構造及主要寸法
 - (十) 捲揚臺ノ構造、主要寸法、圖面、自重、搭乘定員及最大積載重量兼用スル場合ニ於テハ捲揚臺ニ搭載スル車輛ノ構造、主要寸法、自重及最大積載重量ヲ記載シ且圖面ヲ添付スルコト
 - (十一) 捲綱ノ種類、構造、全長、直徑又ハ周圍長、單位長ノ重量、最大抗張力及製作所名
 - (十二) 捲綱及捲揚臺間ノ連結裝置ノ構造、主要寸法、重量及圖面
 - (十三) 捲綱ノ緊張角度
 - (十四) 捲綱ノ制限運轉速度礦物其ノ他ノ物ノ運搬ニ兼用スル場合ニ於テハ其ノ最大運轉速度ヲ記載スルコト
 - (十五) 捲揚超過ヨリ生ズル危害ノ豫防裝置及捲揚裝置ニ關スル安全裝置ノ種類、構造、主要寸法及圖面
 - (十六) 捲揚機及捲揚臺承ノ圖面
 - (十七) 豎坑口ノ附近ニ於ケル捲揚裝置ノ部分ノ配置圖
 - (十八) 信號裝置
 - (十九) 工事ノ著手及完成ノ豫定時期
- 七 原動機ヲ使用スル選礦場

- (一) 設置場所
- (二) 一月間ノ元鑽ノ種類別品位及取扱數量產出礦山別ニ記載スルコト
- (三) 一月間ノ精鑽ノ種類別品位及產出數量
- (四) 操業方法ノ概要
- (五) 主要機械又ハ主要裝置ノ種類、型式、構造、主要寸法、能力、所要水量及同一ノモノ二箇以上アルトキハ其ノ箇數
- (六) 原動機ノ種類、型式、キロワット數、回轉數、主要寸法、使用目的及同一ノモノ二箇以上アルトキハ使用目的別ニ其ノ箇數
- (七) 原動機及主要機械又ハ主要裝置ノ接續方法
- (八) 一月間ノ劇物又ハ毒物ノ種類別使用數量
- (九) 捨石、鑛滓、沈澱物、廢水其ノ他廢棄物ノ種類別成分及數量廢水ニ在リテハ一分間ノ數量其ノ他ノモノニ在リテハ一月間ノ數量
- (十) 捨石、鑛滓、沈澱物其ノ他廢棄物ノ堆積場又ハ溜置場ノ位置、名稱、面積、堆積方法、并止方法、堆積量及圖面
- (十一) 廢水處理用ノ水路、沈澱池、濾過池、濾過機其ノ他ノ機械又ハ裝置(廢棄物堆積場ノ滲透水又ハ廢棄物溜置場ノ溢水處理用ノモノヲ含ム)ノ構造、主要寸法、能力及圖面機械及裝置ノ關係ヲ明ニセル圖面ヲ添付スルコト
- (十二) 建物ノ設計概要及圖面並ニ主要機械又ハ主要裝置ノ配置圖

- (十三) 附近ノ地形、地目及建設物ヲ示セル地圖
- (十四) 工事ノ著手完成ノ豫定時期

八 燒鑛場又ハ製鍊場

- (一) 設置場所
- (二) 一月間ノ元鑛ノ種類別品位及取扱數量 產出鑛山別ニ記載スルコト
- (三) 一月間ノ製品ノ種類別品位及產出數量
- (四) 操業方法ノ概要
- (五) 主要機械又ハ主要裝置ノ種類、型式、構造、主要寸法、能力及同一ノモノ二箇以上アルトキハ其ノ箇數
- (六) 原動機ノ種類、型式、キロワット數、回轉數、主要寸法、使用目的及同一ノモノ二箇以上アルトキハ使用目的別ニ其ノ箇數
- (七) 原動機及主要機械又ハ主要裝置ノ接續方法
- (八) 鑛煙ノ排出量、亞硫酸瓦斯含有率 元鑛ノ硫黃及砒素ノ含有率ヲ附記スルコト 及處理方法
- (九) 煙道、煙塵室及煙突其ノ他鑛煙處理設備ノ構造、材料、主要寸法及圖面 各設備ノ關係面ヲ添付スルコト
- (十) 一月間ノ劇物又ハ毒物ノ種類別使用量
- (十一) 鑛滓、廢液其ノ他ノ廢棄物ノ種類別成分及數量 廢液ニ在リテハ一分間ノ數量其ノ並ニ他ノモノニ在リテハ一月間ノ數量

處理方法

- (十二) 鑛滓其ノ他廢棄物ノ堆積場又ハ溜置場ノ位置、名稱、面積、堆積方法、扞止方法、堆積量及圖面並ニ廢液其ノ他廢棄物ノ處理設備ノ種類、構造、主要寸法及圖面 各設備ノ關係面ヲ添付スルコト
- (十三) 建物ノ設計概要及圖面並ニ主要機械又ハ主要裝置ノ配置圖
- (十四) 附近ノ地形、地目及建設物ヲ示セル地圖
- (十五) 工事ノ著手及完成ノ豫定時期

九 石油精製場又ハ天然揮發油採收場

- (一) 設置場所
- (二) 一月間ノ原油又ハ可燃質天然瓦斯ノ取扱數量 產出鑛山別ニ記載スルコト
- (三) 一月間ノ製品ノ種類別產出數量
- (四) 操業方法ノ概要
- (五) 主要機械又ハ主要裝置ノ種類、型式、構造、主要寸法、能力及同一ノモノ二箇以上アルトキハ其ノ箇數
- (六) 原動機ノ種類、型式、キロワット數、回轉數、主要寸法、使用目的及同一ノモノ二箇以上アルトキハ使用目的別ニ其ノ箇數
- (七) 原動機及主要機械又ハ主要裝置ノ接續方法
- (八) 一月間ノ劇物又ハ毒物ノ種類別使用數量
- (九) 一月間ノ廢棄物ノ種類別成分及數量、處理方法並ニ處理設備ノ種類、構造、主要寸法及圖面 各設備ノ關係ヲ明ニセ

鑛業警察規則

- (十) 防火及消火ノ施設
- (十一) 建物ノ設計概要及圖面並ニ主要機械又ハ主要裝置ノ配置圖
- (十二) 附近ノ地形、地目及建設物ヲ示セル地圖
- (十三) 工事ノ著手及完成ノ豫定期
- 十 容量五十キロリットル以上ノ石油「タンク」(石油精製場又ハ天然揮發油採收場ニ附屬スルモノヲ除ク)

- (一) 設置場所
 - (二) 使用目的
 - (三) 容量
 - (四) 構造、材料、主要寸法及圖面
 - (五) 附近ニ於ケル建設物、道路等トノ關係圖
 - (六) 工事ノ著手及完成ノ豫定期
- 鑛山監督局長必要アリト認ムルトキハ前項ニ掲グル事項ノ變更ニ付認可ヲ受クベキコトヲ豫メ命ズルコトヲ得
- 第一項又ハ第二項ノ場合ニ於テ認可ヲ受ケタル工作物ノ工事完成シタルトキ又ハ第一項ニ掲グル事項ヲ變更若ハ廢止シタルトキハ其ノ旨鑛山監督局長ニ届出ツベシ

第五十六條 坑内通氣用主要扇風機若ハ其ノ豫備扇風機、三十五キロワット以上ノ原動機ヲ使用スル空氣壓縮機(壓力一平方センチメートルニ付三キログラム未滿ノモノヲ除ク)、坑内無極綱索

軌道、捲揚裝置(人ヲ昇降セシムル豎坑捲揚裝置及油井捲揚裝置ヲ除ク)又ハ鑛夫住宅ヲ設ケタル場合ニ於テハ左ニ掲グル事項ヲ具シ鑛山監督局長ニ届出ツベシ之ヲ變更又ハ廢止シタルトキ亦同シ

- 一 坑内通氣用主要扇風機又ハ其ノ豫備扇風機
 - (一) 設置場所
 - (二) 型式、構造及主要寸法
 - (三) 回轉數、最大ノ負壓、正壓及風量
 - (四) 原動機ノ種類、型式、キロワット數、回轉數及主要寸法
 - (五) 原動機トノ接續方法
 - (六) 扇風機ノ据付圖面
 - (七) 風向轉換裝置ノ構造説明圖
 - (八) 坑道、斜坑又ハ豎坑ノ坑口ニ於ケル外氣遮斷裝置ノ構造説明圖
 - (九) 工事完成ノ年月日
- 二 三十五キロワット以上ノ原動機ヲ使用スル空氣壓縮機(壓力一平方センチメートルニ付三キログラム未滿ノモノヲ除ク)
 - (一) 設置場所
 - (二) 使用目的
 - (三) 型式、構造及主要寸法

- (四) 回轉數、壓力、壓縮階梯及容量
 - (五) 原動機ノ種類、型式、キロワット數、迴轉數及主要寸法
 - (六) 原動機トノ接續方法
 - (七) 壓縮空氣槽ノ構造安全弁ノ種類、直徑及、主要寸法及圖面並ニ最大常用壓力及水壓試驗ヲ爲シタル年月日及其ノ成績
 - (八) 空氣壓縮機及壓縮空氣槽ノ製作所名及製作年月
 - (九) 工事完成ノ年月日
- 三 三十五キロワット以上ノ原動機ヲ使用スル坑内無極綱索軌道
- (一) 使用目的
 - (二) 方式、延長及最大運搬量
 - (三) 起點、終點ノ位置及其ノ高低差
 - (四) 最小曲線半徑及最急勾配
 - (五) 軌間、軌道ノ中心間隔及軌條ノ單位長ノ重量
 - (六) 坑道ノ幅、高サ及軌道ノ中心ヨリ坑道ノ兩側迄ノ距離
 - (七) 原動機ノ種類、型式、キロワット數、回轉數及主要寸法
 - (八) 傳動裝置及綱索緊張裝置ノ構造重錘ノ重量ヲモ、主要寸法並ニ配置圖
 - (九) 制動機ノ種類及構造
 - (十) 車輛ノ構造、主要寸法、自重及最大積載重量

- (十一) 扼索器クリップニ連結スル最大車輛數及扼索器相互間ノ間隔
 - (十二) 車輛相互間ノ連結裝置及扼索器ノ構造說明圖
 - (十三) 綱索ノ種類、構造、全長、直徑又ハ周圍長、單位長ノ重量、最大抗張力及製作所名
 - (十四) 綱索ノ最大運轉速度
 - (十五) 曲線部ニ於ケル綱索誘導裝置ノ配置圖
 - (十六) 信號裝置
 - (十七) 線路平面圖及線路縱斷面圖線路平面圖ハ縮尺千分ノ一トシ分岐坑道ノ名稱及位置、綱索支持裝置又ハ綱索誘導裝置ノ位置ヲ記載シ線路中心線ニ
ハ曲線半徑及百米毎ニ料程ヲ明示シ且線路ノ位置ヲ示セル縮尺百分ノ一以上ノ坑道橫斷面圖ヲ添付スルコト
 - (十八) 工事完成ノ年月日
- 四 三十五キロワット以上ノ原動機ヲ使用スル捲揚裝置（人ヲ昇降セシムル豎坑捲揚裝置及油井捲揚裝置ヲ除ク）
- (一) 設置場所
 - (二) 使用目的
- 軌道ノ傍側ニ步道又ハ回避所ヲ設ケタル場合ニ於テハ其ノ位置及構造ヲ圖示スルコト

- (三) 方式及最大運搬量
- (四) 原動機ノ種類、型式、キロワット數、廻轉數及主要寸法
- (五) 鼓胴ノ形狀、主要寸法及原動機トノ接續方法
- (六) 制動機ノ種類及構造
- (七) 深度指示器ノ種類及構造
- (八) 豎坑捲揚裝置又ハ坑外ニ於ケル捲揚裝置ノ槽ノ構造、材料、主要寸法及圖面並ニ槽滑車ノ構造、主要寸法及圖面
- (九) 捲揚裝置ヲ設置セル豎坑ノ構造、材料、主要寸法及區劃說明圖並ニ爲摺ノ種類、構造及主要寸法
- (十) 斜坑又ハ坑外斜道ニ於ケル捲揚裝置ノ軌道ノ延長、最小曲線半徑、最急勾配、軌間、單線又ハ複線ノ區別、複線ニ在リテハ軌道ノ中及軌條ノ單位長ノ重量
- (十一) 捲揚裝置ヲ設置セル斜坑ノ幅、高サ及軌道ノ中心ヨリ斜坑ノ兩側迄ノ距離
- (十二) 捲揚裝置ヲ設置セル坑外斜道ノ橋梁又ハ棧橋ノ長サ、幅及構造
- (十三) 捲揚臺、捲揚函又ハ車輛(捲揚臺ニ搭載スルモノヲ含ム)ノ構造、主要寸法、圖面、自重及最大積載重量
- (十四) 捲綱ノ種類、構造、全長、直徑又ハ周圍長、單位長ノ重量、最大抗張力及製作所名
- (十五) 捲綱及捲揚臺、捲揚函又ハ車輛間ノ連結裝置ノ構造、主要寸法、重量及圖面

ニ於ケル捲揚裝置ニ在リテハ車輛相互間ノ連結裝置ノ構造說明圖ヲ添附スルコト

- (十六) 捲綱ノ緊張角度
 - (十七) 捲綱ノ最大運轉速度
 - (十八) 安全裝置ノ種類、構造、主要寸法及圖面
 - (十九) 捲揚機及捲揚臺承ノ圖面
 - (二十) 坑口ノ附近又ハ坑外斜道ノ上端ニ於ケル捲揚裝置ノ部分ノ配置圖
 - (二十一) 信號裝置
 - (二十二) 捲揚裝置ヲ設置セル斜坑又ハ坑外斜道ニ於ケル軌道ノ線路平面圖及線路縱斷面圖
- 線路縱斷面圖ハ縮尺千分ノ一トシ分岐坑道ノ名稱及位置並ニ爲摺ノ位置ヲ記載シ線路中心線ニハ平面圖ハ縮尺千分ノ一トシ分岐坑道ノ名稱及位置並ニ爲摺ノ位置ヲ記載シ線路中心線ニハ百米毎ニ線路勾配及料程ヲ明示シ且斜坑ニ在リテハ軌道ノ曲線半徑百米毎ニ料程ヲ明示シ且斜坑ニ在リテハ線路ノ位置ヲ示セル縮尺百分ノ一以上ノ斜坑橫斷面圖ヲ添附スルコト
- 線路縱斷面圖ハ縮尺千分ノ一トシ分岐坑道ノ名稱及位置並ニ爲摺ノ位置ヲ記載シ線路中心線ニハ百米毎ニ線路勾配及料程ヲ明示シ且斜坑ニ在リテハ軌道ノ縱斷面ヲ圖示スルコト
- 軌道ノ傍側ニ步道又ハ回避所ヲ設ケタル場合ニハ其ノ位置及構造ヲ圖示スルコト
- (二十三) 工事完成ノ年月日

鑛業警察規則

五 鑛夫住宅

- (一) 設置場所
- (二) 建物ノ種類 鑛夫ヲ合宿セシムルモノノ棟數及名稱 建物ノ番號ヲモト然ラザルモノトノ區別 記載スルコト
- (三) 天井又ハ屋根裏ノ構造及天井高 二階以上ノ建物ニ在リテハ各階毎ニ之ヲ記載スルコト
- (四) 一棟ノ建築面積 二階以上ノ建物ニ在リテハ各階ノ面積ヲモ記載スルコト
- (五) 一棟ノ戸數及出入口ノ數 二階以上ノ建物ニ在リテハ階段ノ簡數及其ノ幅員ヲモ記載スルコト
- (六) 一棟ノ寢室及居間ノ數並ニ定員
- (七) 一棟ノ寢室及居間ノ總面積並ニ採光總面積
- (八) 便所ノ簡數
- (九) 建物(附屬建物ヲ含ム)ノ設計概要、各階平面圖 縮尺百分ノ一以上トシ方位、各室ノ用途、採光面積等ヲ明示スルコト
縮尺百分ノ一以上トシ建物ノ基礎、道路、下水等ヲ明示スルコト及立面圖
- (十) 建物(附屬建物ヲ含ム)ノ配置圖 縮尺百分ノ一以上トシ方位、地形、敷地境界線、建築線、道路、排水路及附近ニ於ケル工作物ヲ明示スルコト
- (十一) 工事完成ノ年月日

第五十七條 常時百五十人以上ノ鑛夫ヲ雇傭スル鑛山ノ採掘權者ハ衛生係員ヲ選任スベシ

鑛山監督局長必要アリト認ムルトキハ前項以外ノ鑛業權者ニ對シ衛生係員ヲ命ズルコトヲ得

第五十八條 衛生係員ハ技術管理者(技術管理者ヲ選任セザル鑛山ニ在リテハ鑛業權者)ノ指揮ヲ

受ケ衛生ニ關スル事項ヲ掌ル

衛生係員ハ毎日衛生上注意ヲ要スル場所ヲ巡視シ必要アリト認ムルトキハ適當ナル處置ヲ爲スベシ

衛生係員ハ衛生日誌ヲ作り巡視ノ都度各場所ニ於ケル狀況及前項ノ規定ニ依リ爲シタル衛生上ノ

處置ヲ記入スベシ

第五十九條 衛生係員ハ三十日以内毎ニ坑内ニ於ケル炭酸瓦斯ノ停滯シ又ハ停滯スル虞アル場所ニ付其ノ分量ヲ測定シ其ノ結果ヲ衛生日誌ニ記入スベシ

第六十條 坑内作業場ニ於ケル炭酸瓦斯含有率ハ千分ノ十五以下ト爲スベシ但シ特ニ安全ナル方法ニ依リ危害豫防ニ關スル作業ヲ爲サシムル場合ニ於テハ其ノ作業場ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

炭酸瓦斯含有率千分ノ十五ヲ超ユル場所ニハ衛生係員(衛生係員ヲ選任セザル鑛山ニ在リテハ坑内保安係員)ハ一定ノ警標ヲ掲グベシ

第六十一條 衛生係員ハ三十日以内毎ニ坑内ニ於ケル氣溫ノ攝氏三十度ヲ超エ又ハ超ユル虞アル場所ニ付氣溫ヲ測定シ其ノ結果ヲ衛生日誌ニ記入スベシ

第六十二條 坑内作業場ニ於ケル氣溫ハ攝氏三十七度以下ト爲スベシ但シ特別ノ事由アル場合ニ於テ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケタルトキ又ハ危害豫防ニ關スル作業ヲ爲サシムル場合ニ於テハ其ノ作業場ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第六十三條 著シク粉塵ヲ飛散スル坑内作業ヲ爲ス場合ニ於テハ注水其ノ他粉塵防止ノ施設ヲ爲スベシ但シ已ムヲ得ザル場合ニ於テ適當ナル防塵具ヲ備ヘ鑛夫ヲシテ之ヲ使用セシムルトキハ此ノ

限ニ在ラズ

第六十四條 同時ニ五十人以上ノ鑛夫ヲ就業セシムル坑内ニ於テハ便所又ハ便器ヲ適當ナル場所ニ備フベシ

第六十五條 硫酸、硝酸、鹽酸、苛性加里、苛性曹達、青化加里、水銀、亞砒酸其ノ他之ニ準ズベキ劇物若ハ毒物又ハ高熱物體ヲ多量ニ取扱フ場所ニ於テハ傷害又ハ中毒豫防ノ施設ヲ爲シ其ノ旨鑛山監督局長ニ届出ヅベシ

第六十六條 選鑛場、燒鑛場、製鍊場其ノ他ノ坑外作業場ニシテ著シク粉塵ヲ飛散スル場所ニ付テハ左ノ各號ノ規定ニ依ルベシ

一 粉塵ノ飛散ヲ防止スル爲撒水、粉塵ノ排出、機械又ハ裝置ノ密閉其ノ他適當ナル方法ヲ講ズルコト

二 飯料水ヲ備置キ且粉塵ノ混入ヲ防グ施設ヲ爲スコト

三 洗面所及食事所ヲ設クルコト但シ作業場内ニ之ヲ設クル場合ニ於テハ粉塵防止ノ施設ヲ爲スベシ

有害ナル粉塵ヲ飛散シ又ハ有害ナル瓦斯若ハ蒸氣ヲ發散スル坑外作業場ニ於テハ前項ノ施設ヲ爲ス外洗面所ニハ石鹼又ハ其ノ代用品ヲ備フベシ

前項ノ場合ニ於テ鑛山監督局長必要アリト認ムルトキハ鑛業權者ニ對シ更衣所又ハ浴場ノ設置ヲ命ズルコトヲ得

第六十七條 鑛夫住宅ニ付テハ左ノ各號ノ規定ニ依ルベシ

一 住宅ニハ二方以上ニ出入口又ハ窓ヲ設クルコト

二 寢室及居間ノ天井高ハ二・二メートル以上ト爲スコト

三 寢室及居間ニハ天井ヲ設ケ又ハ屋根裏ヲ板張ト爲スコト

四 寢室ノ外窓ニハ兩戸及障子ヲ設ケ又ハ硝子戸及窓掛ヲ設クルコト

五 寢室ハ疊敷ト爲スコト

六 寢室ノ面積（押入及床ノ間ヲ除ク）ハ一人ニ付二・四七平方メートル（疊一疊半）以上ト爲スコト但シ十歳未満ノ者ニ付テハ一人ニ付一・六五平方メートル（疊一疊）ト爲スコトヲ得

七 居住人員ノ數ニ應ジ適當且十分ナル便所ヲ設クルコト

十人以上ノ鑛夫ヲ合宿セシムル鑛夫住宅ニ付テハ前項ノ規定ノ外左ノ各號ノ規定ニ依ルベシ

一 就業時間ヲ異ニスル二組以上ノ鑛夫ヲ合宿セシムル場合ニ於テハ交代ノ際睡眠ヲ妨害セザル様適當ナル施設ヲ爲スコト

二 寢具ヲ備フル場合ニ於テハ鑛夫毎ニ専用セシムルコト

三 合宿鑛夫ノ數ニ應ジ適當且十分ナル洗面裝置ヲ設クルコト

特別 事由アル場合ニ於テハ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケ前二項ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

第六十八條 鑛夫ヲ合宿セシムル鑛夫住宅、食事所、休憩所等常時多數ノ鑛夫集合スル場屋ニハ液體ヲ容レタル唾壺ヲ備付クベシ

第六十九條 採掘權者ハ作業場内ニ於ケル傷病者ノ救護ニ必要ナル救急用具及材料ヲ適當ナル場所ニ備付ケ且坑内保安係員其ノ他ノ係員ヲシテ其ノ使用方法及救急法ヲ習得セシムベシ

第七十條 現ニ坑内ニ在ル坑夫ノ數、氏名及就業場所ハ之ヲ坑外ニ於テ知り得ベキ方法ヲ講ズベシ
第七十一條 鑛山監督局長必要アリト認ムルトキハ鑛業權者ニ對シ坑ノ内外及坑内主要箇所間ニ電話其ノ他ノ通信裝置ノ設置ヲ命ズルコトヲ得

第七十二條 危害豫防ノ爲又ハ衛生上ノ必要ニ基キ就業若ハ通行ヲ禁止セラレタル場所ニ濫リニ立入り又ハ危害豫防若ハ衛生ニ關スル設備ヲ毀損又ハ變更スルコトヲ得ズ

第七十三條 瓦斯若ハ炭塵ノ爆發又ハ坑内ニ於ケル火災若ハ水害起リタル場合ニ於テハ其ノ概況ヲ鑛山監督局長ニ急報スベシ

前項以外ノ災害、事變ニ因リ死者、重傷者（症狀重篤ナル者及四週日以上休業見込ノ者）若ハ五人以上ノ負傷者（三日以上休業見込ノ者）ヲ生ジタル場合又ハ死傷者ヲ生ゼザルトキト雖モ作業ノ全部若ハ一部ヲ休止シタル場合亦前項ニ同ジ

前二項ノ災害、事變ニ付テハ其ノ經過及之ニ對スル處置ノ詳細ヲ様式第一號ニ依リ鑛山監督局長ニ届出ヅベシ

第七十四條 死傷病者ニ付テハ様式第二號ニ依リ鑛山監督局長ニ届出ヅベシ

第七十五條 本則其ノ他鑛業警察ニ關スル命令中鑛夫ノ遵守スベキ規定ハ其ノ要領ヲ平易ニ記シ之ヲ見易キ場所ニ揭示スル等鑛夫ニ周知セシムル方法ヲ講ズベシ

第七十六條 鑛山監督局長必要アリト認ムルトキハ建設物、工作物其ノ他ノ設備ニ付改造、修理其ノ他適當ナル處置ヲ命ズルコトヲ得

第七十七條 鑛山監督局長ハ鑛業法第七十二條第一項若ハ第七十四條ニ基ク商工大臣ノ命令又ハ本

則其ノ他鑛業警察ニ關スル命令ノ規定ヲ執行スル爲必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第七十八條 鑛山監督局長必要アリト認ムルトキハ坑口ノ開鑿、坑道ノ掘進、鑛物ノ掘採若ハ捨石鑛滓、坑水、廢水、鑛煙、瓦斯ノ處理又ハ衛生上ノ施設ニ付必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第七十九條 削除

第八十條 削除

第八十一條 削除

第八十二條 削除

第八十三條 本則ハ國ノ鑛業ニ之ヲ適用ス

附則

本則ハ昭和五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本則施行ノ際現ニ稼行スル鑛山ニシテ第一條第二項ノ規定ニ該當スルモノニ在リテハ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケ本則施行ノ日ヨリ一年間技術管理者ヲ選任セザルコトヲ得

本則施行ノ際現ニ稼行スル鑛山ニ付テハ第十二條、第二十六條、第三十七條第三項、第五十七條乃至第五十九條、第六十一條、第六十三條及第六十四條ノ規定並ニ第四十九條第二項中防火施設ニ關スル規定ハ本則施行ノ日ヨリ一年間之ヲ適用セズ但シ第二十六條ノ規定ハ石炭坑爆發取締規則ノ適用ヲ受クル鑛山ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

本則施行ノ際現ニ存スル鑛夫住宅ニ付テハ第六十七條第一項第二號ノ規定ハ之ヲ適用セズ、同條第一項第一號、第三號乃至第七號及第二項ノ規定ハ本則施行ノ日ヨリ三年間之ヲ適用セズ

舊則ニ依リテ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本則ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本則ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス
 本則施行ノ際現ニ存スル第五十五條第一項ノ工作物ハ之ヲ本則ノ規定ニ依リテ認可ヲ受ケタルモノト看做ス
 前項ノ工作物ハ舊則ノ規定ニ依リテ認可ヲ受ケ又ハ届出ヲ爲シタルモノヲ除クノ外本則施行ノ日ヨリ六月以内ニ第五十五條第一項ニ掲グル事項ヲ具シ鑛山監督局長ニ届出ヅベシ
 本則施行ノ際現ニ存スル第五十六條ノ工作物ニ付テハ舊則ニ依リテ届出ヲ爲シタルモノヲ除クノ外本則施行ノ日ヨリ六月以内ニ同條ニ掲グル事項（鑛夫住宅ニ付テハ同條第五號（九）ノ事項ヲ除ク）ヲ具シ鑛山監督局長ニ届出ヅベシ
 様式第一號

災害事變報告

種 鑛	鑛區	縣 探 掘 登 録 第 號	鑛業權者又ハ鑛業代理人	住 所
	鑛山番號		何 某 印	
災害發生年月日				
死傷者職名、氏名、年齢及負傷程度				

災害箇所							
災害ノ原因及其ノ狀況							
擔任係員職名、氏名							
擔任係員ノ災害發生前巡視時刻及其ノ狀況							
擔任係員ノ災害ニ對シテ執リタル處置							
技術管理者ノ災害ニ對シテ執リタル處置							
鑛業權者ノ災害ニ對シテ執リタル處置							
鑛業權者ノ死傷者ニ對シテ執リタル處置							

備考

災害狀況ノ説明圖及死傷者ニ付テハ醫師ノ診斷所ヲ添附スルコト

災害死傷者月報 昭和 年 月 分

様式第一號一

礦種	區番號 礦名	縣探掘登錄第 號	礦業權 代理人 者礦理	住所	何	印 某	員ノ其職		係他		夫		傷		負		死亡		回數	種別 事由	
							員ノ其職	死	員ノ其職	死	合	計	男	女	計	男	女	計			男
							依以 業三 以上	依以 業二 週上													落盤又ハ側壁ノ崩壞
																					瓦斯又ハ炭塵ノ爆發
																					捲揚超過
																					堅坑捲揚裝置ノ爲
																					鎖索ノ逸走又 鎖車ノ脫線 其 他
																					前項ノ機械 ニ依リ搬 入裝置ノ 爲
																					鎖車ノ爲(前項以外)
																					發破又ハ爆發藥ノ爲
																					瓦斯中毒又ハ窒息
																					出
																					機械ノ爲
																					電氣ノ爲
																					坑内火災
																					飛
																					工具ノ爲
																					實際

礦種	區番號 礦名	縣探掘登錄第 號	礦業權 代理人 者礦理	住所	何	印 某	員ノ其職		係他		夫		傷		負		死亡		回數	種別 事由	
							員ノ其職	死	員ノ其職	死	合	計	男	女	計	男	女	計			男
							依以 業三 以上	依以 業二 週上													鎖索ノ切斷
																					鎖車ノ逸走又 鎖車ノ脫線 其 他
																					前項ノ機械 ニ依リ搬 入裝置ノ 爲
																					鎖車ノ爲(前項以外)
																					發破又ハ爆發藥ノ爲
																					瓦斯中毒又ハ窒息
																					出
																					機械ノ爲
																					電氣ノ爲
																					坑内火災
																					飛
																					工具ノ爲
																					實際

外因 依 負傷 不明ノ診斷其ノ他	負傷		共計		其ノ 他ノ 職員	記 事
	共 他	ノ 他	男	女		
合 計						
從業者平均員數						
			坑 内			
			坑 外			
			計			

備考

1. 本表ハ常時百五十人以上ノ鑛夫ヲ雇傭スル鑛山及鑛山監督局長ノ指定シタル鑛山ニ付之ヲ適用ス
2. 本表ハ前年分ヲ一月三十一日迄ニ差出スコト
3. 本表ニハ鑛夫係員其ノ他ノ職員ニシテ死亡シ又ハ三日以上休業シ醫療ヲ受ケタル者ヲ記入スルコト
4. 本表ニハ災害ニ因ル業務上ノ死傷者（災害死傷者月報ヲ以テ報告シタルモノ）ハ之ヲ記入ス

セザルコト

5. 同時ニ二種以上ノ負傷又ハ疾病ヲ有スル者ニ付テハ其ノ主ナルモノ一種ノミヲ記入スルコト
6. 從業者平均員數欄ニハ各月末現在從業者員數ノ平均ヲ記入スルコト

附則

本令ハ昭和十六年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

鑛業警察規則其ノ他鑛業警察ニ關スル命令ノ規定ニ依ル係員ノ資格ノ特例ニ關スル件

昭和十三年四月
商工省令第十五號

鑛業警察規則其ノ他鑛業警察ニ關スル命令ノ規定ニ依ル係員ハ當分ノ内鑛業警察規則第十一條ノ規定ニ拘ラズ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニシテ二十歳以上ノモノノ中ヨリ鑛山監督局長ノ許可ヲ得テ之ヲ選任スルコトヲ得

- 一 尋常小學校ヲ卒業シタル者ニシテ二年以上擔任ノ職務ニ關スル作業ニ從事シタルモノ
- 二 尋常小學校ヲ卒業シタル者ニシテ擔任ノ技術ニ關シ前號ニ掲グル者ト同等以上ノ技術ヲ有スルモノ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

鑛業警察規則其ノ他鑛業警察ニ關スル命令ノ規定ニ依ル係員ノ資格ノ特例ニ關スル件

石炭坑爆發取締規則

昭和四年十二月
商工省令第二十二號

改正 昭和一六年第四六號

第一條 可燃性瓦斯又ハ乾燥炭塵存スル石炭坑ニシテ商工大臣ノ指定スルモノニ付テハ鑛業警察規則ノ外本則ヲ適用ス

第二條 通氣(局部通氣ヲ除ク)ハ扇風機ニ依リテ之ヲ爲スベシ
前項ノ扇風機ハ之ヲ坑外ニ設クベシ

第一項ノ扇風機ニハ自記回轉計又ハ自記電流計及自記氣壓測定器又ハ自記風速測定器ヲ備付ケ其ノ示度ニ異常アルトキハ遲滯ナク適當ナル處置ヲ爲スベシ

第三條 入氣坑及排氣坑ハ各別ニ之ヲ設クベシ

第四條 入氣坑口ニ於ケル通氣量ハ坑内ニ於テ同時ニ就業スル鑛夫ノ一日中ノ最大數ヲ標準トシ一人ニ付一分間三立方メートル以上ト爲スベシ

第五條 坑内ニ於ケル通氣速度ハ一分間四百五十メートル以下ト爲スベシ但シ堅坑及通氣専用坑道ニ於テハ一分間六百メートル迄之ヲ增加スルコトヲ得

第六條 排氣坑口ニ於ケル排氣中ノ可燃性瓦斯含有率ハ千分ノ五以下ト爲スベシ

第七條 入氣堅坑、排氣堅坑間又ハ主要入氣坑道、主要排氣坑道間ヲ連絡スル坑道ニハ遮斷用ノ壁若ハ戸ヲ設クベシ

前項ノ壁若ハ戸ハ堅牢ニシテ漏風ノ虞ナキモノト爲シ且戸ハ相當ノ間隔ヲ置キ二箇以上設クベシ
主要風橋ハ堅牢ニシテ漏風ノ虞ナキモノト爲スベシ

第八條 交通頻繁ナル坑道及主要通氣坑道ニ設ケタル通氣戸ハ相當ノ間隔ヲ置キ二箇以上ト爲シ自働閉鎖裝置ヲ備ヘザルモノニ付テハ番人ヲ置クベシ

第九條 石炭層中ニ坑道ヲ掘進スル場合ニ於テハ張出其ノ他之ニ類スル通氣裝置ハ長サ九十メートル以下ト爲スベシ

第十條 可燃性瓦斯若ハ炭塵多量ニ存スル採掘跡又ハ自然發火ノ虞アル採掘跡ニハ充填、密閉、通氣其ノ他適當ナル處置ヲ爲スベシ

前項ノ規定ニ依リ通氣ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ排氣ハ切端又ハ交通頻繁ナル坑道ヲ通過セシムルコトヲ得ズ

第十一條 鑛業警察規則第二十二條第一項ノ測定ハ鑛夫ノ入坑時前三時間以内ニ之ヲ爲スベシ

第十二條 坑内保安係員ハ總入氣量及總排氣量ヲ毎日、分流入氣量及分流排氣量ヲ七日毎ニ測定スベシ但シ通氣ニ異常アリト認ムルトキ又ハ通氣系統ヲ變更シタルトキハ其ノ都度之ヲ爲スベシ

前項ノ測定ノ結果ハ之ヲ通氣簿ニ記入スベシ

第十三條 坑内保安係員ハ坑内ニ於ケル通氣ノ方向又ハ分配ニ異常アリト認ムルトキハ遲滯ナク適當ナル處置ヲ爲シ之ヲ保安日誌ニ記入スベシ

第十四條 鑛山監督局長必要アリト認ムルトキハ一分流通氣區ニ於ケル切端數又ハ就業鑛夫數ヲ制限スルコトヲ得

第十五條 鑛山監督局長必要アリト認ムルトキハ通氣ノ獨立、分流方法ノ變更、通氣坑道ノ開鑿又ハ扇風機用豫備原動機若ハ豫備扇風機ノ設置其ノ他通氣ニ關スル必要ナル處置ヲ命ズルコトヲ得

第十六條 乾燥炭塵存スル場合ニ於テハ左ノ各號ノ規定ニ依ルベシ

一 乾燥炭塵存スル坑道ニハ撒水又ハ岩粉ノ撒布ヲ爲スコト乾燥炭塵發送シ易キ切端ニ於テ採炭ヲ爲ストキ其ノ切端ニ付亦同ジ

二 坑道ニ存スル炭塵ハ之ヲ掃除スルコト

三 切端ヨリ車道ニ石炭ヲ搬出スル器具、裝置又ハ方法ニシテ石炭ヲ散逸セシメ又ハ著シク炭塵ヲ飛散セシムルモノニ付テハ適當ナル豫防方法ヲ講ズルコト坑内ニ於テ使用スル炭車ニ付亦同ジ

四 扉付炭車ハ坑内ニ於テ之ヲ使用セザルコト

五 炭車ニ積載シタル石炭ニハ坑内ノ適當ナル場所ニ於テ其ノ全面ニ撒水スルコト

六 選炭場ハ入氣坑口ニ接近シテ之ヲ設ケザルコト

前項第一號及第二號ニ掲グル事項ノ施行方法ニ付テハ鑛山監督局長ノ認可ヲ受クベシ

第十七條 鑛山監督局長必要アリト認ムルトキハ爆發ノ傳播ヲ防止スル爲岩粉地帯又ハ濕潤地帯ノ設置其ノ他適當ナル施設ヲ命ズルコトヲ得

第十八條 鑛業權者ハ坑内ニ於テ使用スル爆發藥、雷管、導火線又ハ電氣點火器ノ種類ヲ豫メ鑛山監督局長ニ届出ツベシ

第十九條 鑛業權者ハ發破係員ヲ選任スベシ

第二十條 坑内ニ於テハ携帯用燈火トシテ安全燈及携帯用安全電燈以外ノモノヲ使用スルコトヲ得ズ

第二十一條 坑内保安係員又ハ發破係員ハ坑内ニ於テハ揮發油安全燈又ハ可燃性瓦斯檢定器ヲ携帯スベシ

第二十二條 安全燈ハ一日ノ入坑鑛夫中安全燈ヲ使用スル者ヲ通算シタル數以上ノ箇數ヲ備付クベシ

鑛夫ヲ二組以上ニ分チ交替ニ就業セシムル場合ニ於テハ前番方ニ使用セシメタル安全燈ハ之ヲ次番方ニ使用セシムルコトヲ得ズ

第二十三條 入坑者ニ付テハ入坑ノ都度坑口ニ於テ發火具、喫煙具又ハ煙草等ノ有無ニ付携帯品ヲ檢査スベシ

第二十四條 新ニ採用シタル鑛夫ニハ可燃性瓦斯又ハ乾燥炭塵ノ爆發豫防ニ關スル事項ヲ説示スベシ

可燃性瓦斯又ハ乾燥炭塵存スル石炭坑ノ坑内作業ニ經驗ナキ鑛夫ハ其ノ作業ニ熟練シタル者ノ指導ヲ受ケ三十日以上實習ヲ爲シタル後ニ非ザレバ之ヲ單獨ニ坑内作業ニ從事セシムルコトヲ得ズ

第二十五條 坑内保安係員一人ノ監督スベキ鑛夫數ハ七十人以下ト爲スベシ但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケ百人迄之ヲ増加スルコトヲ得

第二十六條 可燃性瓦斯又ハ乾燥炭塵ノ爆發ニ備フル爲救護隊ヲ設クベシ但シ二以上ノ石炭坑ヲ通ジテ之ヲ設ケ又ハ他ノ鑛業權者ト共同シテ之ヲ設クルコトヲ妨ゲズ

救護隊ノ組織及練習課程並ニ主要ナル器具、機械、用品ノ種類及數量ニ付テハ鑛山監督局長ノ認
可ヲ受クベシ

第二十七條 鑛山監督局長ハ實地ノ狀況ニ依リ商工大臣ノ認可ヲ受ケ本則ノ規定ノ一部ヲ適用セサ
ルコトヲ得

第二十八條 鑛山監督局長必要アリト認ムルトキハ通氣量、可燃性瓦斯含有率、通氣裝置又ハ鑛夫
數ニ付第四條、第六條、第九條、第二十五條、鑛業警察規則第二十三條第一項及第三十五條第二
項第二號ノ規定ニ拘ラズ必要ナル制限ヲ爲スコトヲ得

第二十九條 鑛山監督局長已ムヲ得ザル事由アリト認ムルトキハ實地ノ狀況ニ依リ第一條ノ指定後
一年以内ニ於テ期間ヲ定メ第二條乃至第十條、第十六條、第二十一條、第二十二條、第二十五條
又ハ第二十六條ノ規定ノ適用ヲ斟酌スルコトヲ得

又ハ第二十六條ノ規定ノ適用ヲ斟酌スルコトヲ得
前項ノ斟酌ヲ受ケントスル者ハ第一條ノ指定アリタル後二十日以内ニ適用斟酌ノ申請ヲ爲スベシ

第三十條 削除

第三十一條 削除

第三十二條 削除

第三十三條 削除

第三十四條 本則ハ國ノ鑛業ニ之ヲ適用ス

附則

本則ハ昭和五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

舊則ニ依リテ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本則ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本則ニ依リ
テ之ヲ爲シタルモノト看做ス

附則

本令ハ昭和十六年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

石炭坑用爆藥類及機械器具取締規則

昭和十五年九月
商工省令第六八號

第一條 本則ニ於テ石炭坑トハ可燃性瓦斯又ハ乾燥炭塵ノ存スル石炭坑ニシテ商工大臣ノ指定シタ
ルモノヲ謂フ

第二條 左ニ掲グル石炭坑用爆藥類及機械器具（以下坑内用品ト稱ス）ハ石炭坑用爆藥類及機械器
具檢定規則ニ依リ石炭坑爆發豫防試驗所ニ於テ行フ檢定ニ合格シタル種類又ハ型式ノモノ（精密
可燃性瓦斯檢定器及測風器ニ在リテハ箇別ノ檢定ニ合格シタルモノ）ニ非ザレバ石炭坑ノ坑内ニ
於テ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

一 爆藥

二 火工品

(一) 導火線

(二) 雷管

三 發破用點火器

石炭坑用爆藥類及機械器具取締規則

- (一) 電氣點火器
- (二) 導火線點火器
- 四 電氣機械器具
 - (一) 發電機
 - (二) 電動機
 - (三) 整流器
 - (四) 變壓器
 - (五) 計器用變成器
 - (六) 蓄電池
 - (七) 起動器
 - (八) 制御器
 - (九) 開閉器
 - (十) 電熱器
 - (十一) 接續器
 - (十二) 保安器
 - (十三) 繼電器
 - (十四) 電氣計器
 - (十五) 信號機
 - (十六) 電話機

(七) 切炭機、電氣穿孔機其ノ他火花ヲ發シ又ハ高熱ヲ發スルモノ

五 電線

六 照明器具

- (一) 揮發油安全燈
- (二) 携帯用安全電燈
- (三) 定著安全電燈

七 可燃性瓦斯檢定器

- (一) 簡易可燃性瓦斯檢定器
- (二) 精密可燃性瓦斯檢定器

八 測風器

九 自動警報器

- (一) 可燃性瓦斯自動警報器
- (二) 通風自動警報器

第三條 坑内用品ヲ石炭坑ノ坑内ニ於テ使用スル場合ニ於テハ其ノ檢定合格證ニ記載シタル使用條件ヲ遵守スベシ

第四條 破損シ又ハ故障ヲ生ジタル坑内用品ハ石炭坑ノ坑内ニ於テ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

第五條 商工大臣實地ノ狀況ニ依リ特ニ必要アリト認メタルトキハ第二條ノ規定ニ拘ラズ坑内用品ヲ指定シテ其ノ石炭坑ノ坑内ニ於ケル使用ヲ禁止スルコトアルベシ

石炭坑用爆藥類及機械器具取締規則

第六條 鑛山監督局長ハ實地ノ狀況ニ依リ商工大臣ノ認可ヲ受ケ石炭坑又ハ坑内用品ノ一部ヲ限リ

第二條ノ規定ヲ適用セザルコトヲ得

第七條 第一條ノ指定アリタルトキハ指定ノ際現ニ使用中ノ坑内用品ハ指定ノ日ヨリ三月間ヲ限リ

第二條ノ規定ニ拘ラズ之ヲ使用スルコトヲ得

鑛山監督局長已ムヲ得ザル事由アリト認ムルトキハ前項ノ期間ヲ延長スルコトヲ得

第八條 本則ハ國ノ鑛業ニ之ヲ適用ス

附則

本則ハ昭和十六年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

石炭坑用爆藥類及機械器具檢定規則

昭和十五年九月
商工省令第六九號

第一條 石炭坑爆發豫防試驗所ニ於テ行フ石炭坑用爆藥類及機械器具取締規則第二條各號ニ掲ゲル

石炭坑用爆藥類及機械器具（以下坑内用品ト稱ス）ノ檢定ハ本則ニ依リ之ヲ行フ

第二條 檢定ハ爆藥ニ付テハ種類別ニ、爆藥以外ノ坑内用品ニ付テハ型式別ニ之ヲ行フ

精密可燃性瓦斯檢定器及測風器ニ付テハ型式別ノ外簡別ニ檢定ヲ行フ

第三條 前條第一項ノ規定ニ依ル種類別又ハ型式別ノ檢定ニ關シテハ第四條乃至第二十一條ノ定ム

ル所ニ依ル

第四條 檢定ハ坑内用品ノ製造者、輸入者又ハ移入者ノ申請ニ依リ之ヲ行フ

第五條 檢定ノ申請ヲ爲サントスル者ハ様式第一號ノ檢定申請書ニ當該坑内用品ノ構造圖ヲ添附シ

之ヲ石炭坑爆發豫防試驗所長ニ差出スベシ但シ爆藥ニ付テハ構造圖ヲ添附スルヲ要セズ

第六條 檢定申請書ハ現品ヲ石炭坑爆發豫防試驗所ニ差出スベシ但シ石炭坑爆發豫防試驗所長ニ於

テ其ノ必要ナシト認メ之ヲ指示シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ニ依ル現品ノ差出ニ付必要ナル事項ハ石炭坑爆發豫防試驗所長之ヲ指定ス

現品ノ運搬ニ要スル費用ハ檢定申請者之ヲ負擔スベシ

第七條 檢定ノ爲差出シタル現品ハ之ヲ還付セズ但シ差出ノ際豫メ申出アリタル場合ニ於テ石炭坑

爆發豫防試驗所長特別ノ事由アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項但書ノ場合ニ於テ現品還付ニ要スル費用ハ檢定申請者之ヲ負擔スベシ

第八條 坑内用品ノ運搬ガ著シク困難ナル場合又ハ坑内用品ノ運搬ニ著シク多額ノ費用ヲ要スル場

合ニ於テ石炭坑爆發豫防試驗所長ノ承認ヲ受ケタルトキハ坑内用品ノ所在地ニ於テ檢定ヲ受クル

コトヲ得

前項ノ規定ニ依リ坑内用品ノ所在地ニ於テ檢定ヲ受ケントスル者ハ其ノ事由ヲ詳記シタル承認申

請書ヲ檢定申請書ニ添附シ之ヲ石炭坑爆發豫防試驗所長ニ差出スベシ

第一項ノ規定ニ依リ坑内用品ノ所在地ニ於テ檢定ヲ受クル者ハ當該職員ノ旅費ヲ負擔スベシ

第九條 坑内用品檢定ニ合格シタルトキハ石炭坑爆發豫防試驗所長ハ檢定申請書ニ對シ様式第二號

ノ檢定合格證ヲ交付ス

第十條 檢定合格證ノ交付ヲ受ケタル者之ヲ亡失シ又ハ毀損シタルトキハ其ノ再交付ヲ受クルコト

石炭坑用爆藥類及機械器具檢定規則

ヲ得

檢定合格證ノ再交付ヲ受ケントスル者ハ様式第三號ノ檢定合格證再交付申請書ヲ石炭坑爆發豫防試驗所長ニ差出スベシ

檢定合格證ヲ毀損シタルニ因リ其ノ再交付ヲ受ケル者ハ當該檢定合格證ヲ石炭坑爆發豫防試驗所長ニ返還スベシ

第十一條 坑内用品檢定ニ合格シタルトキハ其ノ檢定申請者ハ檢定成績書ノ交付ヲ受ケルコトヲ得
檢定成績書ノ交付ヲ受ケントスル者ハ様式第四號ノ檢定成績書交付申請書ヲ石炭坑爆發豫防試驗所長ニ差出スベシ

第十二條 檢定合格證ノ交付ヲ受ケタル者又ハ其ノ承繼人檢定ニ合格シタル種類又ハ型式ノ坑内用品（石炭坑用爆藥類及機械器具取締規則第五條ノ規定ニ依リ使用ヲ禁止セラレタルモノヲ除ク）ヲ販賣スル場合ニ於テハ當該坑内用品ニ様式第五號ノ標章ヲ附シ且檢定合格證記載ノ使用條件ヲ記載シタル書面ヲ添附スベシ

第十三條 檢定合格證ノ交付ヲ受ケタル者及其ノ承繼人以外ノ者ハ坑内用品ニ様式第五號ノ標章ヲ附スルコトヲ得ズ

檢定合格證ノ交付ヲ受ケタル者又ハ其ノ承繼人ハ檢定ニ合格シタル種類又ハ型式ノ坑内用品（石炭坑用爆藥類及機械器具取締規則第五條ノ規定ニ依リ使用ヲ禁止セラレタルモノヲ除ク）以外ノ坑内用品ニ様式第五號ノ標章ヲ附スルコトヲ得ズ

第十四條 檢定ニ合格シタル種類又ハ型式ノ坑内用品ニ付其ノ檢定成績ヲ表示スルトキハ檢定成績

書ノ全文ヲ記載スベシ

第十五條 檢定ニ合格シタル坑内用品ノ種類又ハ型式ニ付檢定合格證ニ記載シタル第二號ニ掲グル事項ヲ變更スル場合ニ於テハ石炭坑爆發豫防試驗所長ノ許可ヲ受ケタル場合ニ限り之ヲ檢定ニ合格シタル種類又ハ型式ト看做ス

檢定ニ合格シタル坑内用品ノ種類又ハ型式ニ付檢定合格證ニ記載シタル第三號又ハ第四號ニ掲グル事項ニ輕易ナル變更ヲ爲ス場合ニ於テハ石炭坑爆發豫防試驗所長ノ許可ヲ受ケタル場合ニ限り之ヲ檢定ニ合格シタル當該種類又ハ當該型式ト看做ス

前二項ノ許可ヲ受ケントスル者ハ様式第六號ノ許可申請書ニ檢定合格證ヲ添附シ之ヲ石炭坑爆發豫防試驗所長ニ差出スベシ

第十六條 檢定ニ合格シタル坑内用品ノ種類又ハ型式ニ付檢定合格證ニ記載シタル第五號ニ掲グル事項ニ變更アリタルトキハ様式第七號ノ届書ニ檢定合格證ヲ添附シ之ヲ石炭坑爆發豫防試驗所長ニ差出スベシ

第十七條 檢定合格證ノ交付ヲ受ケタル者ノ承繼人坑内用品ヲ檢定ニ合格シタル種類又ハ型式ノモノトシテ販賣スル場合ニ於テハ承繼ノ日ヨリ二週間以内ニ様式第八號ニ依ル届書ニ檢定合格證ヲ添附シ之ヲ石炭坑爆發豫防試驗所長ニ差出スベシ

第十八條 石炭坑爆發豫防試驗所長第十五條第一項及第二項ノ許可ヲ爲シタルトキ又ハ前二條ノ規定ニ依ル届書ヲ受理シタルトキハ檢定合格證ノ書替ヲ爲スベシ

第十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ石炭坑爆發豫防試驗所長ハ檢定ヲ爲サザルコトヲ得

石炭坑用爆藥類及機械器具檢定規則

一 第六條ノ規定ニ違反シ現品ヲ差出サザルトキ

二 第八條第三項ノ旅費ヲ納付セザルトキ

第二十條 石炭坑爆發豫防試驗所長ハ檢定公報ヲ發行シ左ニ掲グル事項ヲ之ニ掲載スベシ

一 第九條ノ規定ニ依リ檢定合格證ノ交付ヲ爲シタルトキハ氏名名稱及住所、檢定合格番號及第一號乃至第七號ニ掲グル事項並ニ交付ノ年月日

二 第十五條ノ許可ヲ爲シタルトキ又ハ第十六條ノ届書ヲ受理シタルトキハ氏名名稱及住所、檢定合格番號、變更アリタル事項並ニ許可ノ年月日又ハ變更ノ年月日

三 第十七條ノ届書ヲ受理シタルトキハ氏名名稱及住所、被承繼人ノ氏名名稱及住所

四 其ノ他坑内用品ノ檢定ニ關シ必要ナル事項

第二十一條 石炭坑爆發豫防試驗所ハ坑内用品ニ付檢定中生ジタル損害ニ對シ賠償ノ責ニ任ゼズ

第二十二條 第二條第二項ノ規定ニ依ル簡別ノ檢定ニ關シテハ第二十三條乃至第三十條ノ定ムル所ニ依ル

第二十三條 檢定ハ第四條ニ掲グル者又ハ坑内用品ヲ使用スル者ノ申請ニ依リ之ヲ行フ

第二十四條 檢定ハ型式別ニ行フ檢定ニ合格シタル精密可燃性瓦斯檢定器又ハ測風器ニ付之ヲ行フ

第二十五條 檢定ノ申請ヲ爲サントスル者ハ様式第九號ノ檢定申請書ニ現品ヲ添ヘテ石炭坑爆發豫防試驗所長ニ差出スベシ

第二十六條 檢定ノ爲差出シタル現品ノ還付ニ要スル費用ハ檢定申請者之ヲ負擔スベシ

第二十七條 精密可燃性瓦斯檢定器又ハ測風器檢定ニ合格シタルトキハ石炭坑爆發豫防試驗所長ハ

檢定申請者ニ對シ様式第十號ノ檢定合格證及誤差表ヲ交付ス

第十條ノ規定ハ前項ノ檢定合格證及誤差表ノ交付ヲ受ケタル者ニ之ヲ準用ス

第二十八條 檢定ニ合格シタル精密可燃性瓦斯檢定器又ハ測風器ヲ販賣スル者ハ之ニ檢定合格證及誤差表ヲ添附スヘシ

第二十九條 石炭坑爆發豫防試驗所長必要アリト認ムルトキハ檢定合格ノ有効期間ヲ定ムルコトヲ得

第三十條 第二十一條ノ規定ハ精密可燃性瓦斯檢定器及測風器ノ檢定ニ之ヲ準用ス

第三十一條 當該官吏ハ貼附印紙ノ手数料金額ニ相當スルコトヲ確認シタル後書類ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニ掛ケ黒肉ヲ用ヒ消印ヲ押捺スベシ

第三十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第十二條又ハ第二十八條ノ規定ニ違反シタル者

二 第十三條又ハ第十四條ノ規定ニ違反シタル者

第三十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ科料ニ處ス

一 本則ノ規定ニ依ル届出ヲ爲サザル者

二 本則ノ規定ニ依ル申請書又ハ届書ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者

第三十四條 坑内用品ノ製造者、輸入者若ハ移入者、又ハ檢定合格證ノ交付ヲ受ケタル者若ハ其ノ承繼人ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本則ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

石炭坑用爆藥類及機械器具檢定規則

第三十五條 本則ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、
未成年者又ハ禁治者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力
ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

附則

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

爆藥ノ檢定ハ當分ノ内直方石炭坑爆發豫防試驗所ニ於テ之ヲ行フ

樣式第一號

型式(種類)檢定申請書

收入
印紙

貼附シタル收入印紙ノ額

- 一 品名
- 二 型式(種類)ノ名稱
- 三 構造及性能(爆藥ニ在リテハ成分及製造方法)別紙ノ通
- 四 定格
- 五 製造工場ノ名稱及所在地
- 六 製造者ノ氏名名稱及住所

右檢定及申請候也

年 月 日

住所

製造者(輸入者又ハ移入者)

申請人氏

名 印

石炭坑爆發豫防試驗所長宛

備考

- 一 型式(種類)ノ名稱ハ販賣スル場合ニ用フル名稱トスルコト
- 二 第七條ノ規定ニ依リ現品ノ還付ヲ受ケントスル場合ニ於テハ其ノ事由ヲ附記スルコト

樣式第二號

直(札)檢第 號

型式(種類)檢定合格證

住所

氏名又ハ名稱

- 一 品名
- 二 型式(種類)ノ名稱
- 三 構造及性能(爆藥ニ在リテハ成分及製造方法)別紙ノ通

石炭坑用爆藥類及機械器具檢定規則

本證用紙ノ寸法ハ
商工省告示日本標
準規格第九十二號
B列四番(257x3
04mm)ニ依ルモ
ノトス

- 四 定格
 - 五 製造工場ノ名稱及所在地
 - 六 製造者ノ氏名名稱及住所
 - 七 使用條件
- 右石炭坑用爆藥類及機械器具檢定期則ニ依ル型式別(種類別)ノ檢定ニ
合シタリ仍テ之ヲ證ス
- 年 月 日

石炭坑爆發豫防試驗所長印

樣式第三號

型式(種類又ハ箇別) 檢定合格證再交付申請書

收入
印紙

貼附シタル收入印紙ノ額

- 一 品名
- 二 型式(種類)ノ名稱
- 三 型式(種類) 檢定合格番號

- 四 型式(種類) 檢定合格ノ年月日
 - 五 器機番號
 - 六 箇別檢定合格番號
 - 七 箇別檢定合格ノ年月日
 - 八 再交付申請ノ事由
- 右型式(種類又ハ箇別) 檢定合格證再交付相成度此段及申請候也
- 年 月 日

住所

申請人氏

名印

石炭坑爆發豫防試驗所長宛

備考

五乃至七八箇別檢定合格證再交付申請書ニ限リ之ヲ記載スルコト

樣式第四號

檢定成績書交付申請書

收入
印紙

貼附シタル收入印紙ノ額

石炭坑用爆藥類及機械器具檢定期則

四 型式（種類）檢定合格年月日
 五 變更アリタル事項及變更ノ年月日
 右石炭坑用爆藥類又機械器具檢定規則第十六條ノ規定ニ依リ檢定合格證相添及届出候也

住所

届出人氏

名印

石炭坑爆發豫防試驗所長宛

様式第八號

承繼 届

- 一 品名
 - 二 型式（種類）ノ名稱
 - 三 型式（種類）檢定合格番號
 - 四 型式（種類）檢定合格ノ年月日
 - 五 承繼ノ方法及承繼ノ年月日
 - 六 被承繼人ノ氏名名稱及住所
- 右石炭坑用爆藥類及機械器具檢定規則第十七條ノ規定ニ依リ檢定合格證相添及届出候也

住所

届出人氏

名印

石炭坑爆發豫防試驗所長宛、

備考

承繼ヲ證スル書面ヲ添附スルコト

様式第九號

筒別檢定申請書

收入
印紙

貼附シタル收入印紙ノ額

- 一 品名
 - 二 型式ノ名稱
 - 三 型式檢定合格番號
 - 四 型式檢定合格ノ年月日
 - 五 器機番號
- 右筒別檢定及申請候也

年 月 日

住所

石炭坑用爆藥類及機械器具檢定規則

石炭坑爆發豫防試驗所長宛

様式第十號

製造者（輸入者、移入者又ハ使用者）

申請人氏

名印

直（札）筒檢第 號

筒別檢定合格證

住所

氏名又ハ名稱

一品名

二 型式ノ名稱

三 型式檢定合格證ニ記載シタル番號

四 器機番號

五 檢定合格ノ有効期間

右石炭坑用爆藥類及機械器具檢定規則ニ依ル筒別ノ檢定ニ合格シタリ仍テ之ヲ證ス

年月日

石炭坑爆發豫防試驗所長印

本證用紙ノ寸法ハ
商工省告示日本標
準規格第九十二號
B列四番（257×3
04mm）ニ依ルモ
ノトス

石炭増産獎勵金交付規則

昭和十五年五月
商工省令第二七號

改正 昭和十五年第八十三號

第一條 商工大臣ハ石炭ノ増産ヲ獎勵スル爲石炭ヲ目的トスル鑛業權者ニ對シ本則ニ依リ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ獎勵金ヲ交付ス

第二條 獎勵金ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル石炭山毎ニ之ヲ交付ス

一 前年中ニ於ケル送炭量一萬噸以上ノ石炭山ニシテ當該年中ニ於ケル送炭量ガ前年中（前前年中ニ於ケル送炭量ガ前年中ニ於ケル送炭量ニ比シ大ナル場合ニ在リテハ前前年中）ニ於ケル送炭量ニ比シ一千噸以上増加シタルモノ

二 前年中ニ於ケル送炭量一萬噸以下ノ石炭山（前年中ニ送炭ナキ石炭山ヲ含ム）ニシテ當該年中ニ於ケル送炭量ガ一萬一千噸以上ノモノ

前項ノ適用ニ付テハ新坑開發助成金交付規則ニ依リ助成金交付ノ指令ヲ受ケタル場合ニ在リテハ當該新坑ハ坑毎ニ之ヲ石炭山ト看做ス

第三條 獎勵金ノ額ハ前條第一項第一號ノ場合ニ在リテハ當該年中ニ於ケル送炭量ガ前年中（前前年中ニ於ケル送炭量ガ前年中ニ於ケル送炭量ニ比シ大ナル場合ニ在リテハ前前年中）ニ於ケル送炭量ニ比シ増加シタル數量、同條同項第二號ノ場合ニ在リテハ當該年中ニ於ケル送炭量ガ一萬噸ヲ超エタル數量ニ對シ石炭一噸ニ付四圓以内（前條第二項ノ規定ニ依ル石炭山ニ在リテハ二圓以

石炭増産獎勵金交付規則

内)トス

第四條 獎勵金ハ石炭品位取締規則第四條ノ規定ニ依リ商工大臣ノ指定シタル品位以上ノ品位ノ石炭ニ付之ヲ交付ス

第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ商工大臣ハ獎勵金ヲ交付セザルコトアルベシ

一 二以上ノ石炭山ニ於テ稼行スル鑛業權者ノ當該年中ニ於ケル送炭量ノ總額ガ當該二以上ノ石炭山ノ前年中ニ於ケル送炭量ノ總額ニ比シ減少シタルトキ

二 石炭ノ品位ガ從前ニ送炭シタル當該石炭山ノ石炭ノ品位ニ比シ著シク低下シタルトキ

第六條 獎勵金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ當該年中ニ送炭シタル石炭ニ付別記様式ニ依ル申請書ヲ翌年一月三十一日迄ニ商工大臣ニ提出スベシ

第七條 商工大臣必要アリト認ムルトキハ前條ノ申請書ヲ提出シタル者ニ對シ其ノ出炭若ハ送炭ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシメ又ハ帳簿書類、出炭若ハ送炭ノ狀況ノ検査ヲ爲スコトアルベシ

第八條 獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ商工大臣ハ交付シタル獎勵金ノ全部又ハ一部ノ返還ヲ命ズルコトアルベシ

一 本則又ハ本則ニ基キテ命ジタル事項ニ違反シタルトキ

二 獎勵金交付ノ條件ニ違反シタルトキ

三 不正ノ行爲アリタルトキ

第九條 本則ニ依リ商工大臣ニ提出スル書類ハ正副二通トシ石炭山ノ所在地ヲ管轄スル鑛山監督局長ヲ經由スベシ

附則

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

別記様式

石炭増産獎勵金交付申請書

鑛區所在地

鑛區番號

石炭山(新坑)名

右石炭山ニ於ケル昭和

年中ノ送炭量増加致候條石炭増産獎勵金

圓交付相成度別紙關係書

類相添此段及申請候也

年 月 日

住所

申請人氏

名印

(鑛業權者二人以上ノ場合ハ連署スルコト)

商工大臣宛

備考

一 申請書ハ石炭山(新坑)毎ニ之ヲ提出スルコト

二 二以上ノ石炭山ニ於テ稼行スル鑛業權者ニ限リ別紙二鑛業權者送炭實績表ヲ添附スルコト

三 同一鑛山監督局長ヲ經由シテ提出スル申請書ニハ其ノ一ニ別紙二鑛業權者送炭實績表ヲ添

石炭増産獎勵金交付規則

石炭山新坑開發助成金交付規則

昭和十五年五月
商工省令第二十八號

- 第一條 商工大臣ハ石炭山ニ於ケル新坑ノ開發ヲ目的トシテ坑道ヲ掘鑿セントスル鑛業權者ニ對シ本則ニ依リ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ助成金ヲ交付ス
- 第二條 助成金ハ新坑ノ開發作業ニ著手シタル年ヨリ五年以内ニ當該新坑ヨリノ出炭量ヲ年十萬噸以上ト爲サントスル新坑開發作業計畫ヲ有スル者ニ之ヲ交付ス
- 第三條 助成金ノ額ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル金額ヲ限度トス
- 一 水平坑道(三十度未満ノ傾斜ヲ有スル斜坑ヲ含ム以下同ジ)ニ在リテハ延長一メートルニ付百圓
 - 二 豎坑(三十度以上ノ傾斜ヲ有スル斜坑ヲ含ム以下同ジ)ニ在リテハ延長一メートルニ付二百圓
- 第四條 助成金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ様式第一號ニ依ル申請書ニ様式第二號ニ依ル新坑開發作業計畫書ヲ添附シ之ヲ商工大臣ニ提出スベシ
- 第五條 助成金交付ノ指令ヲ受ケタル者前條ノ新坑開發作業計畫書ニ記載シタル事項ヲ變更セントスルトキハ豫メ商工大臣ノ承認ヲ受クベシ
- 第六條 助成金ハ當該年度ニ於ケル坑道ノ掘鑿作業ガ豫定ノ延長ニ達シタル後之ヲ交付ス但シ特別

ノ事由アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

- 第七條 助成金ハ其ノ交付ヲ受ケタル目的以外ニ之ヲ使用スルコトヲ得ズ
- 第八條 助成金交付ノ指令ヲ受ケタル者ハ作業日誌ヲ備ヘ掘鑿ノ狀況及地質炭層ノ状態ヲ記載スベシ
- 第九條 助成金交付ノ指令ヲ受ケタル者ハ作業日誌ニ基キ毎月十日迄ニ其ノ前月分ノ掘鑿ノ狀況及地質炭層ノ状態ニ關シ様式第三號ニ依ル報告書ヲ商工大臣ニ提出スベシ
- 第十條 重大ナル事故ニ因リ新坑ノ開發作業ニ支障ヲ來シタルトキハ助成金交付ノ指令ヲ受ケタル者ハ其ノ概要ヲ遲滞ナク商工大臣ニ報告スベシ
- 第十一條 助成金交付ノ指令ヲ受ケタル者新坑ノ開發作業ヲ休止シ又ハ廢止セントスルトキハ豫メ商工大臣ノ承認ヲ受クベシ
- 第十二條 助成金交付ノ指令ヲ受ケタル者鑛業權ヲ移轉シ承繼人ニ於テ新坑ノ開發作業ヲ繼續セントスルトキハ當事者連署ノ上商工大臣ノ承認ヲ受クベシ
- 第十三條 商工大臣必要アリト認ムルトキハ助成金交付ノ指令ヲ受ケタル者ニ對シ新坑ノ開發作業ノ中止又ハ新坑ノ開發作業計畫ノ變更ヲ命ズルコトアルベシ
- 第十四條 當該年度ニ於ケル坑道ノ掘鑿作業ガ豫定ノ延長ニ達シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ商工大臣ニ届出ツベシ
- 第十五條 助成金交付ノ指令ヲ受ケタル者助成金ノ交付ヲ受ケントスルトキハ様式第四號ニ依ル申請書ヲ商工大臣ニ提出スベシ

石炭新坑開發助成金交付規則

第十六條 商工大臣必要アリト認ムルトキハ助成金交付ノ指令ヲ受ケタル者ニ對シ其ノ新坑ノ開發作業若ハ會計ニ關シ報告ヲ爲サシメ又ハ帳簿書類若ハ新坑ノ開發作業ノ狀況ノ檢査ヲ爲スコトアルベシ

第十七條 助成金交付ノ指令ヲ受ケタル者又ハ助成金ノ交付ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ商工大臣ハ助成金交付ノ指令ヲ取消シ、助成金ノ額ヲ減少シ又ハ既ニ交付シタル助成金ノ全部若ハ一部ノ返還ヲ命ズルコトアルベシ

- 一 本則又ハ本則ニ基キテ命ジタル事項ニ違反シタルトキ
 - 二 助成金交付ノ條件ニ違反シタルトキ
 - 三 新坑ノ開發作業計畫ヲ變更シタルトキ
 - 四 新坑ノ開發作業ヲ休止シ又ハ廢止シタルトキ
 - 五 新坑ノ開發作業ノ中止ノ命令ヲ受ケタルトキ
 - 六 不正ノ行爲又ハ怠慢アリタルトキ
- 第十八條 本則ニ依リ商工大臣ニ提出スル書類ハ正副二通トシ石炭山ノ所在地ヲ管轄スル鑛山監督局長ヲ經由スベシ

附則

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス、

様式第一號

石炭山開發助成金交付申請書

鑛區所在地
鑛區番號
登錄年月日 (試掘鑛區ニ限リ記載スルコト)
石炭山名
新坑名
圓交付相成度別紙新坑開發作業計畫

右鑛區ニ於テ石炭山新坑開發作業致度候條新坑開發助成金
畫書相添此段及申請候也

年 月 日

住所
申請人氏
名印
(鑛業權者二人以上ノ場合ハ連署スルコト)

商工大臣宛

備考

申請書ハ新坑毎ニ之ヲ提出スルコト

様式第二號

何新坑開發作業計畫書

一 當該石炭山ニ於ケル地質炭層ノ狀態及從來ノ稼行狀況

(一) 地質炭層ノ狀態

石炭新坑開發助成金交付規則

ノ狀況及地質炭層ノ狀態ヲ示シタル圖面相添此段及申請候也

年 月 日

住所

申請人氏

名印

(鑛業權者二人以上ノ場合ハ連署スルコト)

商工大臣宛

備考

- 一 掘鑿ノ狀況及地質炭層ノ狀態ヲ示シタル圖面ニハ助成金ノ交付ヲ受クベキ坑道ノ掘鑿部分ヲ明示スルコト
- 二 右圖面ハ平面圖及截面圖トシ縮尺ハ五百分ノ一乃至三千分ノ一トスルコト

探鑛獎勵金交付規則

昭和十三年五月 商工省令第二十五號

改正 昭和一五年第二四號、一六年第二十六號

第一條 商工大臣ハ銅鑛、鉛鑛、錫鑛、安質母尼鑛、水銀鑛、亞鉛鑛、鐵鑛、硫化鐵鑛、格魯謨鐵鑛、滿俺鑛、重石鑛、水鉛鑛、ニツケル鑛、コバルト鑛又ハ硫黃ノ探鑛ヲ爲サントスル鑛業權者ニ對シ本則ニ依リ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ獎勵金ヲ交付ス

青森縣、岩手縣、宮城縣、秋田縣、山形縣又ハ福島縣ニ於テ銀鑛、蒼鉛鑛、砒鑛、石炭、亞炭、

石膏又ハ重晶石ノ探鑛ヲ爲サントスル鑛業權者ニ對シ亦前項ニ同ジ

第二條 獎勵金ノ額ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル金額ヲ限度トス

- 一 水平坑道(三十度未滿ノ傾斜ヲ有スル斜坑ヲ含ム以下同ジ)ニ在リテハ延長一メートルニ付三十圓
- 二 豎坑(三十度以上ノ傾斜ヲ有スル斜坑ヲ含ム以下同ジ)ニ在リテハ延長一メートルニ付九十圓
- 三 試錐ニ在リテハ延長一メートルニ付二十圓

第三條 獎勵金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ様式第一號ニ依ル申請書ヲ商工大臣ニ提出スベシ

第四條 獎勵金交付ノ指令ヲ受ケタル者前條ノ申請書ニ記載シタル事項ヲ變更セントスルトキハ豫メ商工大臣ノ承認ヲ受クベシ

第五條 獎勵金ハ探鑛作業ガ豫定ノ延長ニ達シタル後之ヲ交付ス但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第六條 獎勵金ハ其ノ交付ヲ受ケタル目的以外ニ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

第七條 獎勵金交付ノ指令ヲ受ケタル者ハ探鑛日誌ヲ備ヘ掘鑿ノ狀況及地質鑛床ノ狀態ヲ記載スベシ

第八條 獎勵金交付ノ指令ヲ受ケタル者ハ探鑛日誌ニ基キ毎月十日迄ニ其ノ前月分ノ掘鑿ノ狀況及地質鑛床ノ狀態ニ關シ様式第二號又ハ様式第三號ニ依ル報告書ヲ商工大臣ニ提出スベシ

第九條 重大ナル事故ニ因リ探鑛作業ニ支障ヲ來シタルトキハ獎勵金交付ノ指令ヲ受ケタル者ハ其

探鑛獎勵金交付規則

ノ概要ヲ遲滞ナク商工大臣ニ報告スベシ

第十條 獎勵金交付ノ指令ヲ受ケタル者探鑛作業ヲ休止シ又ハ廢止セントスルトキハ豫メ商工大臣ノ承認ヲ受クベシ

第十一條 獎勵金交付ノ指令ヲ受ケタル者鑛業權ヲ移轉シ承繼人ニ於テ探鑛作業ヲ繼續セントスルトキハ當事者連署ノ上商工大臣ノ承認ヲ受クベシ

第十二條 商工大臣必要アリト認ムルトキハ獎勵金交付ノ指令ヲ受ケタル者ニ對シ探鑛作業ノ中止又ハ探鑛作業計畫ノ變更ヲ命ズルコトアルベシ

第十三條 探鑛作業ガ豫定ノ延長ニ達シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ商工大臣ニ届出ヅベシ

第十四條 獎勵金交付ノ指令ヲ受ケタル者獎勵金ノ交付ヲ受ケントスルトキハ様式第四號ニ依ル申請書ヲ商工大臣ニ提出スベシ

第十五條 商工大臣必要アリト認ムルトキハ獎勵金交付ノ指令ヲ受ケタル者ニ對シ其ノ探鑛作業又ハ會計ニ關シ報告ヲ爲サシメ書類、帳簿又ハ探鑛作業ノ狀況ノ検査ヲ爲スコトアルベシ

第十六條 獎勵金交付ノ指令ヲ受ケタル者又ハ獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ商工大臣ハ獎勵金交付ノ指令ヲ取消シ、獎勵金ノ額ヲ減少シ又ハ既ニ交付シタル獎勵金ノ全部若ハ一部ノ返還ヲ命ズルコトアルベシ

一 本則又ハ本則ニ基キテ命ジタル事項ニ違反シタルトキ

二 獎勵金交付ノ條件ニ違反シタルトキ

三 探鑛作業計畫ヲ變更シタルトキ

四 探鑛作業ヲ休止シ又ハ廢止シタルトキ

五 探鑛作業中止ノ命令ヲ受ケタルトキ

六 不正ノ行爲又ハ怠慢アリタルトキ

第十七條 本則ノ規定ニ依リ商工大臣ニ提出スル書類ハ正副二通トシ其ノ鑛山ノ所在地ヲ管轄スル鑛山監督局長ヲ經由スベシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ獎勵金交付ノ指令ヲ受ケタル者ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル様式第一號

何鑛探鑛獎勵金交付申請書

鑛區所在地
 鑛區番號
 登錄年月日 (試掘鑛區ニ限リ記載スルコト)
 鑛山名
 登錄鑛種名

右鑛區ニ於テ何鑛探鑛作業致度候條探鑛獎勵金 圓交付相成度別紙關係書類並ニ探鑛作業計畫ヲ示シタル鑛區圖寫及圖面相添此段及申請候也

年 月 日

探鑛獎勵金交付規則

住所

申請人氏

名印

(鑛業權者二人以上ノ場合ハ連署スルコト)

商工大臣宛

備考

- 一 鑛區所在地ヲ明示シタル陸地測量部五萬分ノ一地形圖ヲ添附スルコト
- 二 探鑛作業計畫ヲ示シタル鑛區圖寫及圖面ハ左ノ要領ニ依リ之ヲ調製スルコト

(一) 鑛區圖寫

關係坑口又ハ試錐孔口ノ位置ヲ示シ附近ノ標杭ニ結測シ其ノ方位及距離ヲ記入スルコト

(二) 圖面

(イ) 平面圖及截面圖トシ縮尺ハ五百分ノ一乃至三千分ノ一トスルコト

(ロ) 鑛床及露頭ト探鑛坑道又ハ試錐孔トノ關係ヲ示スコト

(ハ) 坑口及坑道又ハ試錐孔口及試錐孔ヲ示シ坑道又ハ試錐孔ノ掘進方向及延長ヲ記入スルコト

(ニ) 各坑道及各試錐孔ノ番號ヲ記入スルコト

(ホ) 坑道掘鑿開始箇所又ハ試錐開始箇所ト坑口トノ距離ヲ記入スルコト但シ新ニ開鑿スル場合ニ於テハ坑口又ハ試錐孔口ト最寄ノ基點トヲ結測シ其ノ方位及距離ヲ記入スルコト

別紙

(ハ) 稼行シタル坑道ヲ記入スルコト

探鑛作業計畫書

一 地質鑛床ノ状態及從來ノ稼行狀況

(一) 地質鑛床ノ状態

(鑛床ノ状態ニ付テハ其ノ種類、形狀、走向、傾斜、幅、延長及深サノ概要、露頭ノ狀況竝ニ品位ヲ記載スルコト)

(二) 從來ノ稼行狀況

(イ) 沿革ノ概要

(鑛業權ノ移動、鑛區ノ増減、資本投下ノ狀況等ヲ記載スルコト)

(ロ) 從來ノ探鑛及探鑛作業ノ狀況

(探鑛及探鑛作業別鑛夫數、一米當リ使用鑛夫數及爆藥使用料、探鑛坑道又ハ試錐孔ノ月平均掘進延長等ヲ記載スルコト)

(ハ) 最近三年間ニ產出シタル粗鑛及精鑛ノ各年ニ於ケル種別品位及數量竝ニ其ノ處分狀況

(休業中ノ鑛山ニ在リテハ休業前ノモノニ付記載スルコト)

(ニ) 其ノ他参考トナルベキ事項

二 探鑛作業計畫

探鑛獎勵金交付規則

二 坑道掘鑿開始箇所又ハ試錐開始箇所ハ何々坑口ヨリ何米又ハ何々基點ヨリ何度何分、何米ト記載スルコト

三 試錐方法ハ手掘、上總掘、利根式、ヤマト式等ノ如ク記載スルコト

(二) 探鑿作業ニ従事スル鑿夫ノ職別實員數、一日ノ就業時間、交替制ノ有無及一月ノ稼働日數

(當該作業ノ爲鑿夫ノ新規雇人ヲ要スル場合ニ於テハ其員數及雇入方法ヲ記載スルコト)

(三) 機械掘ヲ爲ス場合ニ於テハ使用スル鑿岩機又ハ試錐機及其ノ附帶設備ノ種類、型式、大サ及臺數

(四) 排水施設ヲ爲ス場合ニ於テハ當該坑道名及排水設備ノ概要

(五) 原動機ノ種類、キロワット數及臺數

(電力ヲ使用スル場合ニ於テハ其ノ供給關係ヲ記載スルコト)

様式第二號

何鑿探鑿作業狀況報告書 (昭和 年 月分)

年 月 日

住所

氏

名印

商工大臣宛

探鑿獎勵金交付規則第八條ノ規定ニ依リ左ノ通及届出候也

計	坑道		掘進延長 (米)	掘進累計 (米)	殘延長(米)	掘鑿狀況	地質鑿床 ノ狀況
	掘鑿坑道名	坑道番號					
水平坑道							
堅坑							

備考

- 一 掘鑿工程少キ場合ニ於テハ其ノ理由ヲ掘鑿狀況ノ欄ニ記載スルコト
- 二 地質鑿床ノ狀態ハ鑿入ニ於テハ地質ノ狀態(會脈セル場合ニ於テハ其ノ走向、傾斜、幅、品位等)、鑿押ニ於テハ母岩ノ狀態及鑿床ノ幅、品位等ヲ記載スルコト

探鑿獎勵金交付規則

備考

掘鑿ノ狀況及地質鑛床ノ狀態ヲ示シタル圖面ニハ探鑛ノ結果判明セル地質鑛床ノ狀態及獎勵金ノ交付ヲ受クベキ探鑛坑道又ハ試錐孔ノ部分ヲ明示スルコト

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

鑛山機械化獎勵規則

昭和十六年四月
商工省令第三一號

第一條

商工大臣ハ金鑛、銀鑛、銅鑛、鉛鑛、錫鑛、安質母尼鑛、水銀鑛、亞鉛鑛、鐵鑛、硫化鐵鑛、格魯謨鐵鑛、滿俺鑛、重石鑛、水鉛鑛、ニツケル鑛、コバルト鑛、硫黃、砂金又ハ砂鐵ノ掘鑿作業又ハ運搬作業ヲ機械化セントスル鑛業權者又ハ砂鑛權者ニ對シ掘鑿用機械又ハ運搬用機械ノ購入ニ付本則ニ依リ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ獎勵金ヲ交付ス

前項ノ掘鑿用機械又ハ運搬用機械ハ商工大臣之ヲ告示ス

第二條

獎勵金ノ額ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル金額ヲ限度トス
一 掘鑿用機械ニ在リテハ其ノ購入ニ要シタル費用ノ七割
二 運搬用機械ニ在リテハ其ノ購入ニ要シタル費用ノ三割

第三條

獎勵金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ様式第一號ニ依ル申請書ヲ商工大臣ニ提出スベシ

第四條

獎勵金交付ノ指令ヲ受ケタル者前條ノ申請書ニ記載シタル事項ヲ變更セントスルトキハ豫

メ商工大臣ノ承認ヲ受クベシ

第五條

獎勵金ハ機械ノ受渡完了シタル後之ヲ交付ス但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第六條

重大ナル事故ニ因リ機械ノ購入ニ支障ヲ來シタルトキハ獎勵金交付ノ指令ヲ受ケタル者ハ其ノ概要ヲ遲滯ナク商工大臣ニ報告スベシ

第七條

獎勵金交付ノ指令ヲ受ケタル者機械ノ購入ヲ廢止セントスルトキハ豫メ商工大臣ノ承認ヲ受クベシ

第八條

獎勵金交付ノ指令ヲ受ケタル者鑛業權又ハ砂鑛權ヲ移轉シ承繼人ニ於テ當該機械ヲ購入シ掘鑿作業又ハ運搬作業ノ機械化ヲ承繼セントスルトキハ當事者連署ノ上商工大臣ノ承認ヲ受クベシ

第九條

商工大臣必要アリト認ムルトキハ獎勵金交付ノ指令ヲ受ケタル者ニ對シ機械ノ購入ノ中止ヲ命ズルコトアルベシ

第十條

獎勵金交付ノ指令ヲ受ケタル者獎勵金ノ交付ヲ受ケントスルトキハ様式第二號ニ依ル申請書ヲ商工大臣ニ提出スベシ

第十一條

獎勵金ノ交付ヲ受ケテ購入シタル機械ハ其ノ受渡ノ日ヨリ五年間（鑿岩機ニ在リテハ二年間）ハ商工大臣ノ承認ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ讓渡シ又ハ他ノ事業場ニ移轉スルコトヲ得ズ

第十二條

獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者機械ノ受渡ノ日ヨリ五年内（鑿岩機ニ在リテハ二年内）ニ機械ノ使用ヲ廢止シ又ハ休止シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ商工大臣ニ届出ツベシ其ノ休止シタル機械ノ使用ヲ再ビ開始シタルトキ亦同ジ

鑛山機械化獎勵規則

前項ノ廢止又ハ休止ノ屆書ニハ其ノ事由及休止ノ期間ヲ記載スベシ

第十三條 獎勵金交付ノ指令ヲ受ケタル者又ハ獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ商工大臣ハ獎勵金交付ノ指令ヲ取消シ、獎勵金ノ額ヲ減少シ又ハ既ニ交付シタル獎勵金ノ全部若ハ一部ノ返還ヲ命ズルコトアルベシ

- 一 本則ニ違反シタルトキ
 - 二 獎勵金交付ノ條件ニ違反シタルトキ
 - 三 第三條ノ申請書ニ記載シタル事項ヲ變更シタルトキ
 - 四 機械ノ購入ヲ廢止シタルトキ
 - 五 機械ノ購入ノ中止ノ命令ヲ受ケタルトキ
 - 六 正當ノ事由ナクシテ機械ノ使用ヲ廢止シ又ハ休止シタルトキ
 - 七 不正ノ行爲又ハ怠慢アリタルトキ
- 第十四條 本則ニ依リ商工大臣ニ提出スル書類ハ正副二通トシ鑛山ノ所在地ヲ管轄スル鑛山監督局長ヲ經由スベシ

附則

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

様式第一號

鑛山機械化獎勵金交付申請書

鑛區(砂鑛區)所在地

鑛區(砂鑛區)番號
 鑛 山 名
 鑛 種 名

右鑛山ニ於ケル何作業ヲ機械化致度候條獎勵金 圓交付相成度別紙機械化計畫書相添此段及申請候也

年 月 日

住所

申請人氏

名 印

(鑛業權者又ハ砂鑛權者二人以上ノ場合ハ連署スルコト)

商工大臣宛

別紙

機械化計畫書

一 從來ノ稼行狀況

(一) 職別使用鑛夫數

(二) 最近三年間ニ產出シタル粗鑛及精鑛ノ各年ニ於ケル種類別品位及數量並ニ其ノ處分狀況

(休業中ノ鑛山ニ在リテハ休業前ノモノニ付記載スルコト)

(三) 其ノ他參考トナルベキ事項

二 機械化計畫

鑛山機械化獎勵規則

(一) 掘鑿作業又ハ運搬作業ノ現況ト其ノ機械化ノ方法
 (機械化ヲ必要トスル理由ヲ明ニシ且掘鑿作業又ハ運搬作業ノ現況ト其ノ機械化ノ方法ヲ説明スベキ圖面竝ニ鑛床ノ状態ヲ明ニシタル圖面ヲ添付スルコト)

(二) 購入スベキ機械

名稱	種類及型式	寸度又ハ能力	數量	單價	金額	製造者	購入先	發注年月日	納期

(三) 掘鑿作業又ハ運搬作業ヲ機械化シタル場合ニ於テ之ヲ擔當スベキ技術者ノ氏名及履歴竝ニ使用スベキ鑛夫ノ職別員數、一日ノ就業時間、交替制ノ有無及一月ノ稼働日數

(四) 所要電力ノ充足方法

様式第二號

鑛山機械化獎勵金交付申請書

指令番號
 鑛區(砂鑛區)所在地
 鑛區(砂鑛區)番號

掘鑿用(運搬用)機械受渡完了致候條獎勵金
此段及申請候也

鑛山名
 鑛種名
 圓交付相成度領收書寫及受渡ヲ證スル書面相添

年 月 日

住所

申請人氏

名印

(鑛業權者又ハ砂鑛權者二人以上ノ場合ハ連署スルコト)

商工大臣宛

重要鑛物増産法

昭和十三年
法律第三十五號

改正 昭和一六年第三號

第一條 本法ニ於テ重要鑛物トハ金鑛、銀鑛、銅鑛、鉛鑛、錫鑛、安質母尼鑛、水銀鑛、亜鉛鑛、鐵鑛、硫化鐵鑛、格魯謨鐵鑛、滿俺鑛、重石鑛、水鉛鑛、ニッケル鑛、コバルト鑛、石炭、亜炭、硫黃、砂金、砂鐵、砂錫其ノ他勅令ヲ以テ指定スル鑛物ヲ謂フ

本法ニ於テ鑛業權者トハ砂鑛權者ヲ、鑛業權トハ砂鑛權ヲ、鑛區トハ砂鑛區ヲ含ム

第二條 政府重要鑛物ノ増産ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ重要鑛物ヲ目的トスル鑛業權者ヲシ
 重要鑛物増産法

テ事業計畫ヲ定メ之ヲ届出ヅベキコトヲ命ズルコトヲ得

鑛業權者前項ノ命令ニ依リ届出デタル事業計畫ヲ變更セントスルトキハ之ヲ政府ニ届出ヅベシ

政府必要アリト認ムルトキハ前二項ノ事業計畫ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第三條 政府重要鑛物ノ増産ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ重要鑛物ヲ目的トスル鑛業權者ニ對シ事業ニ著手シ又ハ事業ヲ繼續スベキコトヲ命ズルコトヲ得

第四條 重要鑛物ノ増産ヲ圖ラントスル者ハ之ガ爲必要トスル鑛業權ノ讓渡又ハ隣接鑛區トノ間ノ鑛區ノ増減ニ付當該鑛業權者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ協議ヲ爲スコトヲ得

前項ノ協議ヲ爲スコト能ハズ又ハ協議調ハザルトキハ重要鑛物ノ増産ヲ圖ラントスル者ハ當該事項ニ付政府ノ裁定ヲ申請スルコトヲ得

第五條 政府重要鑛物ノ増産ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ鑛業權ノ讓渡又ハ隣接鑛區トノ間ノ鑛區ノ増減ニ付當該鑛業權者ニ對シ重要鑛物ノ増産ヲ圖ラントスル者ト協議ヲ爲スベキコトヲ命ズルコトヲ得

鑛業權者前項ノ協議ヲ爲サズ若ハ爲スコト能ハズ又ハ協議調ハザルトキハ政府ハ當該事項ニ付必要ナル決定ヲ爲スコトヲ得

第六條 第四條第二項ノ規定ニ依ル申請アリタルトキ又ハ前條第一項ノ規定ニ依ル命令アリタルトキハ當該鑛業權者ハ其ノ申請ヲ拒否スル旨ノ裁定アル迄又ハ第十條第二項ノ規定ニ依リ裁定若ハ決定ガ其ノ效力ヲ失フ時期迄當該鑛業權ヲ讓渡シ又ハ當該鑛區ノ分合、減區若ハ増減區ノ出願ヲ爲スコトヲ得ズ

第七條 政府鑛業權ヲ讓渡シ又ハ隣接鑛區トノ間ノ鑛區ノ増減ヲ爲ス旨ノ裁定又ハ決定ヲ爲ストキハ其ノ裁定又ハ決定ニ於テ鑛業權者ニ支拂フベキ對價及其ノ支拂ノ時期ヲ定ムルコトヲ要ス

第八條 裁定又ハ決定中對價ニ付不服アル者ハ其ノ裁定又ハ決定ノ通知ヲ受ケタル日（裁定又ハ決定ノ通知ヲ受ケザル者ニ付テハ其ノ公示ノ日）ヨリ三十日以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第九條 左ニ掲グル場合ニ於テハ對價ヲ支拂フベキ者ハ其ノ對價ヲ供託スルコトヲ要ス

一 對價ヲ受クベキ者ガ其ノ受領ヲ拒ミタルトキ又ハ之ヲ受領スルコト能ハザルトキ

二 裁定又ハ決定中對價ニ付前條ノ規定ニ依ル出訴アリタルトキ

三 鑛業權ニ付抵當權ノ設定アルトキ但シ抵當權者ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項第三號ノ場合ニ於テハ抵當權者ハ供託金ニ對シテモ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第十條 對價ヲ支拂フベキ者裁定又ハ決定ニ於テ定メタル對價支拂ノ時期迄ニ對價ノ全部ノ支拂又ハ供託ヲ爲サザルトキハ鑛業權者ハ對價ヲ支拂フベキ者ニ對シ六十日ヲ下ラザル一定ノ期間内ニ其ノ支拂又ハ供託ヲ爲スベキ旨ヲ催告スルコトヲ得

前項ノ期間内ニ支拂又ハ供託ナキトキハ裁定又ハ決定ハ其ノ效力ヲ失フ

第十一條 裁定又ハ決定ニ依ル對價ノ全部ノ支拂又ハ供託アリタルトキハ政府ハ鑛業權ノ移轉又ハ變更ノ登録ヲ爲ス

鑛業權者對價ノ全部又ハ一部ノ支拂ニ付延期ヲ承諾シタルトキ又前項ニ同ジ此ノ場合ニ於テ政府ハ對價ノ支拂ヲ受クル權利ヲ有スル者ノ爲移轉又ハ變更アリタル鑛業權ニ付抵當權設定ノ登録ヲ爲ス

第十二條 第四條乃至第十條ノ規定ハ鑛業權ノ讓渡又ハ隣接鑛區トノ間ノ鑛區ノ増減ニ伴ヒ必要ナル事業設備ノ讓渡ニ之ヲ準用ス但シ第九條中抵當權トアルハ登記シタル擔保權、抵當權者トアルハ擔保權者トス

事業設備ヲ讓渡スル旨ノ裁定又ハ決定アリタルトキハ其ノ權利ハ裁定又ハ決定ニ依ル對價ノ全部ノ支拂又ハ供託アリタル時移轉ス

第十三條 本法ニ規定スルモノノ外裁定又ハ決定ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 第四條第二項ノ規定ニ依ル裁定又ハ第五條第二項ノ規定ニ依ル決定ニ依リ鑛業權ヲ取得シ又ハ鑛區ヲ増區セラレタル者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ事業計畫ヲ定メ政府ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ又同ジ

政府必要アリト認ムルトキハ前項ノ事業計畫ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第十五條 鑛業權者前條第一項ノ規定ニ違反シ認可ヲ受ケザル事業計畫ヲ實施シ又ハ同條第二項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ事業計畫ヲ變更セズシテ之ヲ實施シタルトキハ政府ハ鑛業權ヲ取消スコトヲ得

第十六條 政府重要鑛物ノ増産ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ重要鑛物ヲ目的トスル鑛業權者ニ對シ事業設備ノ新設、擴張若ハ改良ヲ命ジ又ハ作業方法若ハ作業用品ノ規格ニ關シ必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前項ノ規定ニ依リ爲シタル命令ニ因リ生ジタル損失ヲ補償ス

第十七條 政府ハ重要鑛物ヲ目的トスル鑛業權者ニ對シ其ノ業務及財産ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシ

メ又ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ノ検査ヲ爲スコトヲ得

政府ハ重要鑛物ヲ目的トスル鑛業權者ニ對シ其ノ業務及會計ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十八條 本法ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ鑛業權者ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第十九條 政府第十六條第二項ノ規定ニ依ル補償ヲ爲サントスルトキハ重要鑛物委員會ノ議ヲ經ベシ

重要鑛物委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第二條第一項ノ規定ニ依ル命令若ハ同條第二項ノ規定ニ違反シ事業計畫ノ届出ヲ怠リ又ハ届出デタル事業計畫ヲ實施セザル者

二 第二條第三項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ事業計畫ヲ變更セズシテ之ヲ實施シタル者

三 第三條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

四 第十四條第一項ノ規定ニ違反シ認可ヲ受ケザル事業計畫ヲ實施シタル者

五 第十四條第二項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ事業計畫ヲ變更セズシテ之ヲ實施シタル者

六 第十六條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第二十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十七條第一項ノ規定ニ依ル報告ヲ怠リ又ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタル者

二 第十七條第一項ノ規定ニ依ル検査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者

重要鑛物増産法

三 第十七條第二項ノ規定ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者
第二十二條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ第二十條又ハ前條第一號若ハ第三號ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ亦前二條ノ刑ヲ科ス

第二十三條 金鑛及砂金ニ關シテハ第二條、第三條、第十六條及第十七條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法ハ施行後五年間ヲ限リ其ノ效力ヲ有ス

本法失効ノ際ニ於テ必要ナル經過規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則 (昭和十六年法律第三十五號)(抄)

第三十七條 本法施行ノ期日ハ各規定ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(昭和十六年勅令第三百六號ヲ以テ同年四月一日ヨリ施行)

重要鑛物増産法施行令

昭和十三年六月
勅令第四百十號

第一條 本令ニ於テ鑛業權者トハ砂鑛權者ヲ、鑛業權トハ砂鑛權ヲ含ム

第二條 重要鑛物増産法第四條第一項ノ規定ニ依ル協議ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ限り之ヲ

爲スコトヲ得

一 當該鑛業權者ガ事業ニ著手セズ又ハ休業中ナルトキ

二 鑛利保護上必要アルトキ

三 合併施業其ノ他操業ノ合理化ノ爲必要アルトキ

第三條 鑛山監督局長裁定申請書ヲ受理シ又ハ重要鑛物増産法第五條第一項ノ規定ニ依ル命令書ノ

送付ヲ受ケタルトキハ當該鑛業權ニ付裁定ノ申請又ハ命令アリタル旨ノ登録ヲ爲スベシ

第四條 對價ヲ支拂フベキ者對價ノ全部ノ支拂又ハ供託ヲ爲シタルトキハ支拂又ハ供託ヲ爲シタル

事實ヲ證スル書面ヲ添附シ其ノ旨ノ届書ヲ鑛山監督局長ニ提出スベシ

第五條 鑛業權者對價ノ全部又ハ一部ノ支拂ニ付延期ヲ承諾シタルトキハ當事者連署ノ上鑛山監督

局長ニ其ノ旨ノ届書ヲ提出スベシ

第六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ鑛山監督局長ハ當該鑛業權ノ移轉又ハ變更ノ登録ヲ

爲スベシ

一 第四條ノ規定ニ依ル届書ヲ受理シタルトキ

二 前條ノ規定ニ依ル届書ヲ受理シタルトキ

前項第二號ノ場合ニ於テハ鑛山監督局長ハ當該鑛業權ニ付抵當權設定ノ登録ヲ爲スベシ

第七條 重要鑛物増産法第十條第二項ノ期間内ニ支拂又ハ供託ナキトキハ鑛業權者ハ催告ヲ爲シタル

事實ヲ證スル書面ヲ添附シ其ノ旨ノ届書ヲ鑛山監督局長ニ提出スベシ

第八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ鑛山監督局長ハ第三條ノ規定ニ依ル登録ヲ抹消スベ

重要鑛物増産法施行令

- 一 裁定ノ申請ヲ拒否スル旨ノ裁定書ヲ受ケタルトキ
 - 二 第六條ノ規定ニ依ル登録ヲ爲ストキ
 - 三 重要礦物増産法第十條第二項ノ規定ニ依リ裁定又ハ決定ガ其ノ效力ヲ失ヒタルトキ
- 第九條** 商工大臣裁定申請書ヲ受理シタルトキハ申請書ノ副本ヲ當該鑛業權者ニ交付シ期間ヲ指定シテ答辯書ヲ提出セシメ且其ノ申請書ノ要旨ヲ當該鑛業權者又ハ事業設備ニ付登録又ハ登記シタル擔保權ヲ有スル者（以下關係人ト稱ス）ニ通知シ期間ヲ指定シテ意見書提出ノ機會ヲ與フベシ
- 第十條** 商工大臣決定ヲ爲サントスルトキハ期間ヲ指定シテ關係人ニ意見書提出ノ機會ヲ與フベシ
- 第十一條** 裁定又ハ決定ニハ理由ヲ附スベシ
- 裁定書又ハ決定書ノ謄本ハ之ヲ申請人、鑛業權者及關係人ニ交付スベシ
- 第十二條** 裁定又ハ決定ノ公示ハ官報ヲ以テ之ヲ爲ス
- 第十三條** 本令ニ規定スルモノノ外裁定又ハ決定ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第十四條** 本令ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ鑛業權者又ハ關係人ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス
- 第十五條** 重要礦物増産法ニ依リ政府ニ提出シ又ハ政府ヨリ交付スル書面ハ鑛山監督局長ヲ經テ商工大臣ニ提出シ又ハ商工大臣ヨリ交付スルモノトス
- 附則
- 本令ハ重要礦物増産法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

重要礦物増産法施行規則

昭和十三年六月
商工省令第三十號

- 第一條** 本則ニ於テ鑛業權者トハ砂鑛權者ヲ、鑛業權トハ砂鑛權ヲ、鑛區トハ砂鑛區ヲ含ム
- 第二條** 重要礦物ヲ目的トスル鑛業權者ハ鑛山毎ニ毎年四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル期間ノ事業計畫ヲ定メ一月三十一日迄ニ之ヲ商工大臣ニ届出ヅベシ但シ製鍊ヲ爲ス場合ヲ除クノ外掘採數量石炭ヲ目的トスルモノニ在リテハ年十五萬噸、銅鑛、鉛鑛、錫鑛、亞鉛鑛、鐵鑛、硫化鐵鑛、亞炭又ハ硫黃ヲ目的トスルモノニ在リテハ年一萬噸、其ノ他ノ重要礦物ヲ目的トスルモノニ在リテハ年千噸ニ滿タザル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
- 第三條** 重要礦物増産法第十四條ノ規定ニ依ル事業計畫ハ商工大臣ノ定ムル期間ニ付鑛山毎ニ之ヲ定ムベシ
- 第四條** 事業計畫書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ
- 一 石炭鑛區
 - (一) 試錐及採炭ニ關スル計畫ノ概要
 - (二) 出炭數量（炭種別ニ記載スベシ）
 - (三) 運搬ニ關スル計畫ノ概要
 - (四) 處分方法
 - 二 石炭鑛區以外ノ鑛區
- 重要礦物増産法施行規則

- (一) 探鑛、掘採及選鑛ニ關スル計畫ノ概要
- (二) 掘採數量及品位
- (三) 精鑛數量及品位
- (四) 處分方法

鑛業權者製鍊ヲ爲ス場合ニ於テハ前項第二號ニ掲グル事項ノ外左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

- 一 製鍊設備ニ關スル計畫
- 二 操業計畫ノ概要

- (一) 元鑛ノ種類別品位及處理數量
- (二) 製鍊實收率
- (三) 製品ノ種類別品位及產出數量
- (四) 操業日數

三 處分方法

第五條 裁定ヲ申請スル者ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル申請書正副三通ヲ商工大臣ニ提出スベシ

- 一 當該鑛業權ノ登録番號並ニ鑛業權者及關係人ノ氏名名稱及住所
- 二 申請ノ目的及理由
- 三 對價並ニ其ノ算出ノ基礎及支拂方法
- 四 事業設備ヲ讓受ケントスル場合ニ在リテハ其ノ設備ノ範圍並ニ對價及其ノ支拂方法
- 五 讓受又ハ鑛區ノ増減後ニ於ケル事業計畫ノ概要

前項ノ申請書ニハ左ニ掲グル書類及圖面ヲ添附スベシ

- 一 當該鑛業權者トノ協議ノ顛末又ハ協議ヲ爲スコト能ハザル事由ヲ記載シタル書面
- 二 鑛區圖及鑛床圖又ハ當該鑛區ノ増減範圍ヲ示シタル圖面及鑛床圖(鑛床圖ハ平面圖及截面圖ノ二種ニ分チテ之ヲ調製スベシ)
- 三 事業設備ヲ讓受ケントスル場合ニ在リテハ建物ノ登記簿ノ謄本
- 四 會社ニ在リテハ定款、登記簿ノ謄本、財産目錄、貸借對照表、營業報告書、損益計算書及利益ノ處分ニ關スル書類
- 五 組合ニ在リテハ契約書

關係人アルトキハ前二項ノ規定ニ依ル副本ノ外關係人ノ數ニ應ズル申請書及添附圖面ノ副本ヲ提出スベシ

第六條 重要鑛物増産法施行令第四條又ハ第五條ノ規定ニ依ル届出ト同時ニ當事者出頭シ又ハ書留郵便ヲ以テ登録稅ヲ納付スベシ

登録稅ノ納付ハ登録稅納付書ニ收入印紙ヲ貼用シテ之ヲ爲スベシ

第七條 左ノ場合ニ於テハ鑛山監督局長ハ申請書、届書又ハ登録稅納付書ヲ受理セズ

- 一 他ノ鑛山監督局ノ管轄ニ屬スルトキ
- 二 法令ニ依リ裁定ヲ申請シ得ザルモノナルトキ
- 三 重要鑛物増産法施行令第四條又ハ第七條ノ規定ニ違反シ届書ニ事實ヲ證スル書面ヲ添附セザルトキ

- 四 重要礦物増産法施行令第五條ノ規定ニ違反シ届書ニ當事者連署セザルトキ
- 五 第五條ノ規定ニ違反シ裁定申請書ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ又ハ添附スベキ書類若ハ圖面ヲ添附セザルトキ
- 六 第六條ノ規定ニ違反シ登録稅ヲ納付セザルトキ
- 第八條 重要礦物ヲ目的トスル鑛業權者會社ナルトキハ營業期經過後遲滯ナク財産目錄、貸借對照表、營業報告書、損益計算書及利益ノ處分ニ關スル書類ヲ商工大臣ニ提出スベシ
- 第九條 本則ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ鑛業權者又ハ關係人ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス
- 第十條 本則ニ依リ商工大臣ニ提出スル書面ハ鑛山監督局長ヲ經由スベシ

附則

本則ハ重要礦物増産法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

石油資源開發法

昭和十三年三月
法律第三十一號

- 第一條 石油ヲ目的トスル鑛業權者(以下石油鑛業者ト稱ス)ハ命令ノ定ムル所ニ依リ事業計畫ヲ定メ之ヲ政府ニ届出ツベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ
- 政府鑛利保護上必要アリト認ムルトキハ事業計畫ノ變更ヲ命ズルコトヲ得
- 第二條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ豫算ノ範圍内ニ於テ石油鑛業者ニ對シ試掘助成金ヲ交付スル

コトヲ得

- 第三條 政府ハ前條ノ試掘助成金ニ依ル試掘ノ結果開發セラレタル油田ヨリ採油ヲ爲ス者ヲシテ命令ノ定ムル所ニ依リ採油開始後五年間毎年採油價額ノ百分ノ二以内ニ相當スル金額ヲ納付セシムルコトヲ得
- 前項ノ油田ノ地域及深度ハ政府ハ之ヲ指定ス
- 第四條 前條第二項ノ指定ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得
- 第五條 詐欺ノ行爲ヲ以テ第二條ノ試掘助成金ノ交付ヲ受ケタル者ニ對シテハ其ノ金額ヲ返還セシム
- 第六條 第三條ノ規定ニ依ル納付金及前條ノ規定ニ依ル返還金ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取權ノ順位ハ國稅ニ次グモノトス
- 第七條 政府石油資源ノ開發促進上必要アリト認ムルトキハ石油鑛業者ニ對シ其ノ鑛區ノ開發方法其ノ他必要ナル事項ニ付他ノ石油鑛業者ト協議ヲ爲スベキコトヲ命ズルコトヲ得
- 石油鑛業者他ノ石油鑛業者ノ鑛區ト隣接スル自己ノ鑛區ノ境界線ヨリ五十メートル以内ノ地域ニ於テ採掘ヲ爲サントスルトキハ鑛利保護上必要ナル事項ニ付豫メ隣接鑛區ノ石油鑛業者ト協議ヲ爲スベシ政府石油資源ノ開發促進上又ハ鑛利保護上必要アリト認ムルトキハ前二項ノ協議ニ依ル決定ノ變更ヲ命ズルコトヲ得
- 第一項又ハ第二項ノ協議ヲ爲サズ若ハ爲スコト能ハズ又ハ協議調ハザルトキハ政府ハ當該事項ニ付必要ナル決定ヲ爲スコトヲ得

石油資源開發法

第八條 政府石油資源ノ開發促進上必要アリト認ムルトキハ石油鑛業者ニ對シ試掘又ハ之ニ關シ必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

政府前項ノ規定ニ依リ試掘ヲ命ジタルトキハ第二條ノ試掘助成金ヲ交付ス

第九條 政府軍事上必要アリト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ石油鑛業者ニ對シ採油ノ制限又ハ増加ニ關シ必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前項ノ規定ニ依ル命令ニ因リ生ジタル損失ヲ補償ス

第十條 政府ハ石油鑛業者ニ對シ其ノ業務及財産ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシメ又ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ノ検査ヲ爲スコトヲ得

政府ハ石油鑛業者ニ對シ其ノ業務及會計ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第七條第二項ノ規定ニ依ル協議ヲ爲サズ又ハ協議調ハザル以前ニ採掘ヲ爲シタル者

二 第七條ノ決定ニ基カズ又ハ同條第三項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ決定ヲ變更セズシテ試掘又ハ採掘ヲ爲シタル者

三 第八條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

四 第九條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第一條第一項ノ規定ニ違反シ事業計畫ノ届出ヲ怠リ又ハ届出デタル事業計畫ヲ實施セザル者

二 第一條第二項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ事業計畫ヲ變更セズシテ之ヲ實施シタル者

第十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十條第一項ノ規定ニ依ル報告ヲ怠リ又ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタル者

二 第十條第一項ノ規定ニ依ル検査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者

三 第十條第二項ノ規定ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者

第十四條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ従業員ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ第十一條、第十二條又ハ前條第一號若ハ第三號ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ亦前三條ノ刑ヲ科ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十三年七月勅令第五百四十二號ヲ以テ同年八月一日ヨリ之ヲ施行ス）

石油資源開發法施行規則

昭和十三年七月
商工省令第七十二號

改正 昭和一五年第四九號

第一條 石油鑛業者ハ鑛山毎ニ毎年四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル期間ノ事業計畫ヲ定メ其ノ年ノ二月末日迄ニ之ヲ商工大臣ニ届出ツベシ

前項ノ事業計畫ハ石油ヲ目的トスル鑛業權ヲ取得シタル年ニ在リテハ其ノ取得ノ日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル期間ニ付之ヲ定メ其ノ取得ノ日ヨリ三十日以内ニ商工大臣ニ届出ツベシ

石油資源開發法施行規則

第二條 事業計畫ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

- 一 試掘及探掘計畫ノ概要
- 二 原油又ハ天然瓦斯ノ採取見込量及其ノ處分方法
- 三 事業ニ要スル資材、技術員及鑛夫ノ充足計畫ノ概要
- 四 收支豫算及事業資金ノ調達方法

第三條 石油鑛業者廢坑又ハ遮水ノ作業ヲ爲サントスルトキハ作業案ヲ具シ其ノ作業ニ著手前之ヲ商工大臣ニ届出ツベシ

第四條 鑿井中出油又ハ瓦斯ノ噴出アリタルトキハ石油鑛業者ハ遲滞ナク之ヲ商工大臣ニ届出ツベシ鑛利ヲ損スルノ虞アル出水アリタルトキ亦同ジ

第五條 石油鑛業者ハ鑛山毎ニ毎月ノ試掘及探掘狀況竝ニ坑井別採油狀況ヲ翌月十五日迄ニ商工大臣ニ届出ツベシ

第六條 試掘助成金ハ商工大臣ノ指定スル地域ニ於テ指定スル深度ノ試掘ヲ爲ス石油鑛業者ニ對シ商工大臣其ノ試掘計畫ヲ適當ト認ムル場合ニ於テ之ヲ交付ス

試掘助成金ハ掘鑿助成金及機械助成金トス
第一項ノ地域及深度ハ商工大臣之ヲ告示ス

第七條 掘鑿助成金ノ額ハ左ノ金額ヲ限度トス但シ商工大臣崩壊性地質其ノ他ノ事由ニ因リ特ニ多額ノ掘鑿費ヲ要スルモノト認メタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

深 度	掘 鑿 助 成 金	
	石油資源開發法第八條ノ規定ニ依ル場合	其ノ他ノ場合
五百メートル以下ノ部分	一メートルニ付 八十一圓	一メートルニ付 五十四圓
五百メートルヲ超ユル部分	一メートルニ付 九十圓	一メートルニ付 六十圓
千メートルヲ超ユル部分	一メートルニ付 百十七圓	一メートルニ付 七十八圓
千五百メートルヲ超ユル部分	一メートルニ付 百七十一圓	一メートルニ付 百十四圓
二千メートルヲ超ユル部分	一メートルニ付 二百三十三圓	一メートルニ付 百四十八圓

前項ノ掘鑿助成金ノ限度ハ機械助成金ノ交付ヲ受クル場合ニ於テハ一メートルニ付十二圓以内ヲ減ジタル額トス

第八條 機械助成金ハ掘鑿助成金ノ交付ヲ受ケントスル者試掘ヲ爲ス爲鑿井機械、槽、槽金具、原動機、ポンプ、掘鐵管又ハ其附屬品ヲ購入スル場合ニ於テ之ヲ交付ス

- 一 機械助成金ノ額ハ左ノ各號ニ該當スル金額ヲ限度トス
 - 購入費ノ全額
 - 購入費ノ三分ノ二ノ額
- 二 石油資源開發法第八條ノ規定ニ依ル場合
- 三 其ノ他ノ場合

第九條 掘鑿助成金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ申請書ニ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル試掘計畫書ヲ石油資源開發法施行規則

添附シ之ヲ商工大臣ニ提出スベシ

- 一 試掘セントスル鑛區ノ所在地及登録番號
 - 二 鑿井地點
 - 三 掘止深度
 - 四 鑿井方法
 - 五 鑿井ノ著手及終了時期
 - 六 主任技術者及主任鑿井手ノ氏名及履歷
- 機械助成金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ申請書ニ前項ノ試掘計畫書ノ外機械購入費明細書ヲ添附スベシ

第十條 試掘助成金交付ノ指令ヲ受ケタル者試掘計畫ヲ變更セントスルトキハ商工大臣ノ認可ヲ受クベシ

第十一條 試掘助成金交付ノ指令ヲ受ケタル者ハ試掘ニ著手シタル日ヨリ試掘日誌ヲ作り試掘作業ニ關スル狀況ヲ記入シ其ノ寫ヲ一週間毎ニ取纏メ翌週中ニ商工大臣ニ提出スベシ

第十二條 試掘助成金交付ノ指令ヲ受ケタル者機械助成金ノ交付ヲ受ケ購入シタル機械又ハ其ノ附屬品ヲ試掘計畫書ニ定ムル深度ノ試掘ヲ了ル前又ハ之ヲ了リタル後五年以内ニ處分セントスルトキハ商工大臣ノ認可ヲ受クベシ

第十三條 試掘助成金交付ノ指令ヲ受ケタル者鑛業權ヲ移轉シ承繼人ニ於テ第九條ノ試掘計畫書ニ定ムル試掘ヲ繼續セントスルトキハ當事者連署ノ上商工大臣ノ認可ヲ受クベシ

相續ニ因リ試掘助成金交付ノ指令ヲ受ケタル者ノ鑛業權ヲ承繼シタルトキハ相續人ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ商工大臣ニ届出ヅベシ

第十四條 試掘助成金交付ノ指令ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ商工大臣ハ試掘助成金交付ノ指令ヲ取消シ、試掘助成金ノ額ヲ減少シ又ハ既ニ交付シタル試掘助成金ノ全部若ハ一部ノ返還ヲ命ズルコトアルベシ

- 一 試掘計畫書ニ定ムル深度ノ試掘ヲ休止シ又ハ廢止シタルトキ
- 二 第十條ノ規定ニ違反シ試掘計畫ヲ變更シタルトキ
- 三 石油資源開發法第八條第一項ノ命令ニ違反シタルトキ
- 四 石油資源開發法第十條第一項ノ規定ニ依ル報告ヲ怠リ若ハ虛偽ノ報告ヲ爲シ又ハ検査ヲ拒ミ妨ゲ若ハ忌避シタルトキ

- 五 第十一條ノ規定ニ違反シタルトキ
- 六 石油資源開發法第十條第二項ノ規定ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタルトキ
- 七 第十二條ノ規定ニ違反シ機械又ハ其ノ附屬品ヲ處分シタルトキ
- 八 試掘助成金交付ノ條件ニ違反シタルトキ

第十五條 石油資源開發法第三條第一項ノ規定ニ依ル納付金ハ同條第二項ノ規定ニ依リ指定シタル地域及深度ノ油田ニ於テ採油ヲ爲ス者ノ毎年一月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル期間ノ總採油量ヲ其ノ坑井數(無出油井ヲ含ム)ヲ以テ除シタル量(一井當採油量)ガ左ニ掲グル採油量ニ達シタル場合ニ限り之ヲ納付セシム

油田ノ深度五百メートル以下ノトキ

二〇〇好

石油資源開發法施行規則

油田ノ深度五百メートルヲ超ユルトキ 四四〇軒
 油田ノ深度千メートルヲ超ユルトキ 七〇〇軒
 油田ノ深度千五百メートルヲ超ユルトキ 一、二〇〇軒
 油田ノ深度二千メートルヲ超ユルトキ 二、七五〇軒

第十六條 前條ノ納付金ノ額ハ採油價額ニ左ノ率ヲ乗ジタルモノトス

油田ノ深度	一井當採油量	掘鑿助成金及機械助成金ノ交付ヲ受ケタル者		掘鑿助成金ノミノ交付ヲ受ケタル者		試掘助成金ノ交付ヲ受ケザル者	
		百分ノ一	百分ノ二	百分ノ〇・八	百分ノ一・六	百分ノ一	百分ノ二
五百メートル以下ノトキ	二〇〇軒以上ノトキ	百分ノ一	百分ノ二	百分ノ〇・八	百分ノ一・六	百分ノ一	百分ノ二
五百メートルヲ超ユルトキ	四四〇軒以上ノトキ	百分ノ一	百分ノ二	百分ノ〇・八	百分ノ一・六	百分ノ一	百分ノ二
	八八〇軒以上ノトキ	百分ノ二	百分ノ一	百分ノ一・六	百分ノ二	百分ノ一	百分ノ二
千メートルヲ超ユルトキ	七〇〇軒以上ノトキ	百分ノ一	百分ノ二	百分ノ〇・八	百分ノ一・六	百分ノ一	百分ノ二
	一、四〇〇軒以上ノトキ	百分ノ二	百分ノ一	百分ノ一・六	百分ノ二	百分ノ一	百分ノ二
千五百メートルヲ超ユルトキ	一、二〇〇軒以上ノトキ	百分ノ一	百分ノ二	百分ノ〇・八	百分ノ一・六	百分ノ一	百分ノ二
	二、四〇〇軒以上ノトキ	百分ノ二	百分ノ一	百分ノ一・六	百分ノ二	百分ノ一	百分ノ二

二千メートルヲ超ユルトキ	二、七五〇軒以上ノトキ	百分ノ一	百分ノ〇・八	百分ノ一
	五、五〇〇軒以上ノトキ	百分ノ二	百分ノ一・六	百分ノ二

採油價額ハ商工大臣ノ檢定シタル原油ノ價格ニ依ル

第十七條 石油資源開發法第七條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル協議調ヒタルトキハ關係石油鑛業者ハ連署ノ上遲滞ナク其ノ決定事項ヲ商工大臣ニ届出ヅベシ

前項ノ協議ヲ爲スコト能ハズ又ハ協議調ハザルトキハ關係石油鑛業者ハ理由ヲ具シ遲滞ナク其ノ旨ヲ商工大臣ニ届出ヅベシ

第十八條 石油資源開發法第七條第四項ノ決定ニハ理由ヲ附ス
 決定書ノ謄本ハ之ヲ關係石油鑛業者ニ交付ス

第十九條 本則ノ規定ニ依リ商工大臣ニ提出スル書類ハ鑛區ノ所在地ヲ管轄スル鑛山監督局長ヲ經由スベシ

附則

本則ハ石油資源開發法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 石油試掘獎勵金交付規則ハ之ヲ廢止ス
 石油試掘獎勵金交付規則ニ依リ獎勵金交付ノ指令ヲ受ケタル者及其ノ承繼人ニ關シテハ仍同則ニ依ル
 石油試掘獎勵金交付規則第二條ノ規程ニ依リ爲シタル昭和十三年四月商工省告示第百十七號ハ第六

條第三項ノ規定ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス
石油試掘獎勵金交付規則第三條ノ規定ニ依リ爲シタル申請ハ第九條ノ規定ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

本則施行ノ際現ニ石油鑛業者タル者ハ鑛山毎ニ昭和十三年八月一日ヨリ同十四年三月三十一日ニ至ル期間ノ事業計畫ヲ定メ本則施行後一月以内ニ之ヲ商工大臣ニ届出ヅベシ

鑛夫就業扶助規則

大正五年八月
農商務省令第二十一號

改正

大正五年第二九號、一五年內務省令第一七號、昭和二年第三〇號、三年第三〇號、四年第二五號、一一年第二二號、第五五號、一四年厚生省令第九號、一六年第一三號、第一七號

第一條 鑛業法第七十五條ノ規定ニ依ル雇傭就業規則ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載シ鑛業著手前鑛山

監督局長ニ其ノ許可ヲ申請スヘシ

- 一 業務ノ種類
- 二 雇入ノ手續
- 三 解雇ノ事由及手續
- 四 解雇ノ場合ニ於ケル歸郷旅費支給ニ關スル事項
- 五 賃金ノ支拂方法及支拂期日
- 六 石炭鑛業ニ在リテハ檢炭ニ關スル事項
- 七 鑛夫ノ貯金其ノ他ノ積立金ヲ管理スルトキハ其ノ方法、拂戻ノ事由及手續

八 鑛夫ノ負擔ニ屬スル作業用品目

九 業務別就業時間及就業時ノ轉換方法

十 休日

十一 國民學校初等科ノ課程又ハ國民學校令第十一條ノ規定ニ依リ國民學校ノ課程ト同等以上ト認メラレタル課程ヲ有スル學校ニ於ケル國民學校初等科ニ相當スル課程ヲ終了セサル學齡兒童ヲ雇傭スルトキハ就業ニ關シ必要ナル事項

十二 賞與及制裁ノ定アルトキハ之ニ關スル事項

第二條 採掘權者ハ變災若ハ變災ノ虞アル爲又ハ避クヘカラサル事由ニ因リ臨時必要アル場合ニ於テハ就業時間、就業時ノ轉換方法及休日ニ關スル事項ニ付雇傭就業規則ニ依ラサルコトヲ得

第三條 鑛業權者鑛夫ヲ雇入レタルトキハ鑛夫名簿ニ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ

- 一 氏名
- 二 生年月日
- 三 本籍
- 四 履歷ノ要領
- 五 鑛夫十六歳未満ナル場合ニ於テハ國民學校初等科ノ課程又ハ國民學校令第十一條ノ規定ニ依リ國民學校ノ課程ト同等以上ト認メラレタル課程ヲ有スル學校ニ於ケル國民學校初等科ニ相當スル課程ヲ修了シタル者ニ在リテハ其ノ修了シタル學校名及修了年月、國民學校初等科ノ課程又ハ國民學校令第十一條ノ規定ニ依リ國民學校ノ課程ト同等以上ト認メラレタル課程ヲ有スル學校ニ於ケル國民學校初等科ニ相當スル課程ヲ修了セサル者ニ在リテハ其ノ旨

鑛夫就業扶助規則

青年學校令ニ依リ就學セシメラルベキ者ニシテ十六歳未滿ノモノニ在リテハ其ノ就學スル青年
學校名、入學シタル學年及入學ノ年月

六 業務ノ種類

七 雇入ノ年月日

八 雇傭期間ヲ定メタル者ニ在リテハ其ノ期間

前項ノ規定ニ依リ記載シタル事項ニ異動アリタルトキハ遲滞ナク之ヲ訂正スヘシ

第四條 鑛業權者鑛夫ヲ解雇シ又ハ鑛夫死亡シタルトキハ鑛夫名簿ニ左ニ掲クル事項ヲ記入シ解雇

又ハ死亡ノ日ヨリ五箇年以上之ヲ保存スヘシ

一 解雇又ハ死亡ノ年月日

二 解雇ノ事由又ハ死亡ノ原因

第五條 鑛業權者ハ鑛夫ヲシテ一日ニ付十時間ヲ超エテ坑内ニ於テ就業セシムルコトヲ得ズ

鑛業權者ハ監視ヲ主トスル業務又ハ間歇的ナル業務ニ従事スル者ニ付鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケ
タルトキハ前項ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

第六條 鑛業權者ハ十六歳未滿ノ者及女子ヲシテ一日ニ付十一時間ヲ超エテ就業セシムルコトヲ得
ス

鑛業權者ハ選炭作業ニ従事スル者ニ付テハ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケ期間ヲ限リ前項ノ就業時間
ヲ十二時間迄延長スルコトヲ得

第六條ノ二 鑛業權者ハ溫度攝氏三十度ヲ超ユル坑内ノ場所ニ於テ十六歳未滿ノ者及女子ヲシテ就

業セシムル場合ニ於テハ其ノ者ヲシテ他ノ場所ニ於ケル就業時間ト通算シテ一日ニ付八時間ヲ超
エテ就業セシムルコトヲ得ズ

鑛業權者ハ溫度攝氏三十五度ヲ超ユル坑内ノ場所ニ於テ十六歳未滿ノ者及女子ヲシテ就業セシム
ルコトヲ得ズ

第七條 鑛業權者ハ十六歳未滿ノ者及女子ヲシテ午後十時ヨリ午前五時ニ至ル間ニ於テ就業セシム
ルコトヲ得ズ

鑛業權者鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケタルトキハ前項ノ規定ニ拘ラズ石炭鑛業ニ在リテハ十六歳未
滿ノ者及女子、其ノ他ノ鑛業ニ在リテハ十六歳以上ノ女子ヲシテ午後十一時迄就業セシムルコト
ヲ得此ノ場合ニ於テハ午後十一時ヨリ午前六時ニ至ル間ニ於テ就業セシムルコトヲ得ズ

第七條ノ二 坑内ニ就業スル鑛夫ニ付テハ坑口ニ入りタル時ヨリ坑口ヲ出デタル時迄ノ時間ヲ其ノ
就業時間ト看做ス

鑛業權者一團トシテ入坑及出坑スル鑛夫ニ關シ其ノ入坑開始ヨリ入坑終了迄ノ時間ニ付鑛山監督
局長ノ許可ヲ受ケタルトキハ第五條第一項ノ規定ノ適用ニ付入坑終了ヨリ出坑終了迄ノ時間ヲ其
ノ團ニ屬スル鑛夫ノ就業時間ト看做ス

鑛業權者坑口ニ近キ坑内ノ鑛夫點檢場所ニ關シ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケタルトキハ前二項及第
三十五條ノ規定ノ適用ニ付其ノ場所ヲ坑口ト看做ス

第八條 鑛業權者ハ鑛夫ヲ二組以上ニ分チ交替ニ午後十時ヨリ午前五時ニ至ル間ニ於テ就業セシム
ルトキハ十六歳未滿ノ者及女子ニ對シ十日ヲ超エサル期間毎ニ其ノ就業時ヲ轉換スベシ

第九條 鑛業權者ハ十六歳未滿ノ者及女子ニ對シ一日ノ就業時間カ六時間ヲ超ユルトキハ少クトモ三十分、十時間ヲ超ユルトキハ少クトモ一時間ノ休憩時間ヲ就業時間中ニ設クヘシ

第十條 鑛業權者ハ十六歳未滿ノ者及女子ニ對シ毎月少クトモ二回ノ休日ヲ設ケ鑛夫ヲ二組以上ニ分チ交替ニ午後十時ヨリ午前五時ニ至ル間ニ於テ就業セシムル場合ニ於テハ少クトモ四回ノ休日ヲ設クヘシ

第十一條 鑛業權者ハ變災若ハ變災ノ虞アル爲又ハ避クベカラザル事由ニ因リ臨時必要アル場合ニ於テハ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケ期間ヲ限リ第五條第一項、第六條及第六條ノ二第一項ノ規定ニ拘ラズ就業時間ヲ延長シ第七條及第八條乃至第十條ノ規定ニ拘ラズ就業セシムルコトヲ得但シ緊急ノ必要ニ應ズル爲ニ就業セシムル場合ニ於テハ鑛山監督局長ノ許可ヲ受クルコトヲ要セズ

前項但書ノ規定ニ依リ就業セシメタルトキハ様式第四號ニ依リ鑛山監督局長ニ届出ヅベシ

第十一條ノ二 鑛業權者ハ十六歳未滿ノ者及女子ヲシテ坑内ニ於テ就業セシムルコトヲ得ズ

鑛業權者ハ主トシテ薄層ヲ掘採スル石炭坑ニ就業スル鑛夫ニ付鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケ前項ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

第十二條 鑛業權者ハ十六歳未滿ノ者及女子ヲシテ左ニ掲クル業務ニ就カシムルコトヲ得ス

- 一 原動機、電氣機械其ノ他ノ機械若ハ動力傳導裝置ノ危険ナル部分ノ運轉中ニ於ケル掃除、注油、検査又ハ修理
- 二 機械又ハ動力傳導裝置ノ運轉中ニ於ケル調帶若ハ調索ノ危険ナル方法ニ依ル取付又ハ取外
- 三 汽罐ノ焚火、給水弁若ハ阻汽弁ノ開閉又ハ安全弁ノ取扱

四 發電機、電動機、發電機ノ抵抗器、變壓器又ハ「コットレル」集塵裝置ニ屬スル整流機ノ取扱

五 高壓電線ノ接續

六 機械力ニ依リ運轉スル捲揚機ノ取扱

七 運轉中ノ車輛ノ連結又ハ分離

八 鑛物ノ掘採及岩石ノ掘鑿

九 爆發藥ノ裝填又ハ點火

十 支柱ノ取附又ハ取外

十一 製鍊作業ニ於テ熱灼若ハ熔解セル鑛物又ハ鑛滓ノ取扱

十二 有害ナル煙塵ノ堆積セル煙道又ハ煙突ノ掃除

十三 砒素、水銀、鉛若ハ亞鉛又ハ其ノ化合物其ノ他之ニ準スヘキ有害料品ノ粉塵、蒸汽又ハ瓦斯ヲ發散スル場所ニ於ケル業務

十四 電解精鍊ヲ爲ス場所ニ於ケル業務

十五 鑛石、燃料其ノ他ヲ熔鑛爐ニ裝入スル業務

第十三條 鑛業權者ハ十六歳未滿ノ者ヲシテ左ニ掲クル業務ニ就カシムルコトヲ得ス

- 一 砒素若ハ水銀又ハ其ノ化合物、「チアンカリウム」、硫酸、硝酸、鹽酸、苛性カリ、苛性ナトロン其ノ他之ニ準スヘキ毒性又ハ劇性料品ノ取扱
- 二 揮發油、二硫化炭素其ノ他之ニ準スヘキ發火性又ハ引火性料品ノ取扱
- 三 土石又ハ鑛物ノ粉塵ヲ著シク飛散スル場所ニ於ケル業務

第十四條 鑛業權者ハ左ニ掲クル疾病ニ罹レル者ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス但シ第四號又ハ第五號ニ掲クル疾病ニ罹レル者ニ付傳染豫防ノ處置アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

- 一 精神病
 - 二 癩、肺結核、喉頭結核
 - 三 丹毒、再歸熱、麻疹、流行性腦脊髓膜炎其ノ他之ニ準スヘキ急性熱性病
 - 四 微毒、疥癬其ノ他傳染性皮膚病
 - 五 膿漏結膜炎、「トラホーム」著シク傳染ノ虞アルモノ其ノ他之ニ準スヘキ傳染性眼病
- 鑛業權者ハ肋膜炎、心臟病、脚氣、關節炎、腱鞘炎、急性泌尿生殖器病其ノ他ノ疾病ニ罹レル者ニシテ就業ノ爲病症増悪ノ虞アル場合ハ之ヲ就業セシムルコトヲ得ス
- 鑛業權者ハ傳染病又ハ重大ナル疾病ニ罹リタル者ニシテ其ノ症候消失シタル後ト雖健康ノ回復セサルモノヲ就業セシムルコトヲ得ス但シ醫師ノ意見ヲ徵シ支障ナシト認ムル業務ニ就カシムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 鑛業權者ハ四週日以内ニ出産スルコトアルヘキ者休業ヲ求メタルトキハ其ノ者ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス

鑛業權者ハ産後六週日ヲ經過セサル者ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス但シ産後四週日ヲ經過シタル者就業セムコトヲ求メタル場合ニ於テ醫師ノ支障ナシト認メタル業務ニ就カシムルコトヲ妨ケス

第十六條 生後滿一年ニ達セサル生兒ヲ哺育スル女子ハ就業時間中ニ於テ一日二回各三十分ヲ限り

其ノ生兒ヲ哺育スヘキ時間ヲ求ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テ鑛業權者ハ哺育時間中其ノ女子ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス

鑛業權者坑内作業ニ従事スル女子ノ生兒ノ保育ニ關シ必要ナル施設ヲ爲シ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケタルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス坑内作業ニ従事スル女子ニ哺育時間ヲ與ヘサルコトヲ得

第十七條 鑛夫業務上負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ鑛業權者ハ本則ノ規定ニ依リ扶助ヲ爲スヘシ但シ扶助ヲ受クヘキ者民法ニ依リ同一ノ原因ニ付損害賠償ヲ受ケタルトキハ鑛業權者ハ扶助金額ヨリ其ノ金額ヲ控除スルコトヲ得

前項扶助ノ義務ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外鑛夫ノ解雇ニ因リテ變更セラルルコトナシ

第十八條 鑛夫負傷シ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ鑛業權者ハ其ノ費用ヲ以テ療養ヲ施シ又ハ療養ニ必要ナル費用ヲ負擔スヘシ

第十九條 鑛夫療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハサルニ因リ賃金ヲ受ケサルトキハ鑛業權者ハ鑛夫ノ療養中一日ニ付賃金百分ノ六十ノ休業扶助料ヲ支給スヘシ

鑛夫ヲ病院ニ收容シタル場合ニ於テ本人ノ收入ニ依リ生計ヲ維持スル者ナキトキハ休業扶助料ハ賃金百分ノ二十トス

第二十條 鑛夫ノ負傷又ハ疾病治愈シタル時ニ於テ身體障害存スルトキハ鑛業權者ハ別表ニ掲グル區別ニ依リ障害扶助料ヲ支給スベシ但シ從來ノ勞務ニ服スルコト能ハザルトキハ賃金百八十分(其ノ金額男子ニ在リテハ百五十圓、女子ニ在リテハ九十圓ニ滿チザルトキハ夫々百五十圓又ハ九十圓)ヲ下ルコトヲ得ズ

別表ニ掲グル身體障害ニ以上存スルトキハ重キ身體障害ノ該當スル等級ニ依リ障害扶助料ヲ支給スベシ

左ニ掲グル場合ニ於テハ前二項ノ規定ニ依ル等級ヲ左ノ如ク繰リ上グ但シ其ノ障害扶助料ノ金額ハ各身體障害ノ該當スル等級ニ依ル障害扶助料ノ金額ヲ合算シタル額ヲ超ユルコトヲ得ズ

- 一 第十三級以上ノ身體障害ニ以上存スルトキ 一級
- 二 第八級以上ノ身體障害ニ以上存スルトキ 二級
- 三 第五級以上ノ身體障害ニ以上存スルトキ 三級

別表ニ掲グルモノ以外ノ身體障害ヲ存スル者ニ付テハ障害ノ程度ニ應ジ別表ニ掲グル身體障害ニ準ジ障害扶助料ヲ支給スベシ

既ニ身體障害ヲ存スル者負傷又ハ疾病ニ因リ同一部位ニ付障害ノ程度ヲ加重シタルトキハ其ノ加重セラレタル障害ノ該當スル障害扶助料ノ金額ヨリ既ニ存シタル障害ノ該當スル障害扶助料ノ金額ヲ差引キタル金額ヲ支給スベシ

第二十條ノ二 鑛夫重大ナル過失ニ因リ負傷シ又ハ疾病ニ罹リ且鑛業權者其ノ事實ニ付鑛山監督局長ノ認定ヲ受ケタル場合ニ於テハ休業扶助料又ハ障害扶助料ヲ支給セサルコトヲ得

第二十一條 鑛夫死亡シタルトキハ鑛業權者ハ遺族又ハ鑛夫ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニ賃金四百日分(其ノ金額男子ニ在リテハ三百二十圓、女子ニ在リテハ二百圓ニ滿テザルトキハ夫々三百二十圓又ハ二百圓)ノ遺族扶助料ヲ支給スヘシ

第二十二條 鑛夫死亡シタルトキハ鑛業權者ハ葬祭ヲ行フ遺族又ハ鑛夫ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ

生計ヲ維持シタル者ニシテ葬祭ヲ行フ者ニ賃金三十日分(其ノ金額三十圓ニ滿テザルトキハ三十圓)ノ葬祭料ヲ支給スヘシ

第二十三條 遺族扶助料ヲ受クヘキ者ハ鑛夫ノ配偶者トス

配偶者ナキ場合ニ於テ遺族扶助料ヲ受クヘキ者ハ鑛夫死亡當時之ト同一ノ家ニ在リタル鑛夫ノ直系卑屬又ハ直系尊屬トシ其ノ順位ハ親等ノ近キ者ヲ先ニシ卑屬ト尊屬ト親等相同シキトキハ卑屬ヲ先ニス

第二十四條 前條第二項ニ定メタル同順位者ノ間ニ在リテハ其ノ順位ハ左ノ規定ニ依ル

- 一 鑛夫ノ家督相續人又ハ戸主ハ之ヲ他ノ者ヨリ先ニス
- 二 男ハ之ヲ女ヨリ先ニス
- 三 直系卑屬ニ付テハ男又ハ女ノ間ニ在リテハ嫡出子ヲ先ニシ、嫡出子、庶子及私生子ノ間ニ在リテハ嫡出子及庶子ハ女ト雖之ヲ私生子ヨリ先ニス
- 四 前二號ニ掲クル事項ニ付相同シキ者ノ間ニ在リテハ年長者ヲ先ニス

第二十五條 第二十三條ノ規定ニ該當スル者ナキ場合ニ於テハ左ニ掲クル者ノ中一人ニ遺族扶助料ヲ支給スヘシ但シ鑛夫ノ遺言又ハ鑛業權者ニ對シテ爲シタル豫告ニ依リ左ニ掲クル者ノ中一人ヲ特ニ指定シタルトキハ之ニ從フヘシ

- 一 鑛夫ノ家督相續人又ハ戸主
- 二 鑛夫ノ兄弟姉妹ニシテ鑛夫死亡當時之ト同一ノ家ニ在ル者
- 三 鑛夫死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持スル者

鑛夫就業扶助規則

鑛業權者ニ對シテ爲シタル豫告ニ依ル指定アリタルトキハ鑛業權者遲滞ナク之ヲ鑛夫名簿ニ記載スヘシ

第二十六條 第十八條ノ規定ニ依リ本人ニ支給スル費用及休業扶助料ハ毎月一回以上之ヲ支給スヘシ

障害扶助料ハ鑛夫ノ負傷又ハ疾病ノ治療後遲滞ナク之ヲ支給スベシ但シ鑛業權者ガ引續キ雇傭スル場合ニ於テ本人ノ承諾アリタルトキハ雇傭期間内障害扶助料ノ支給ヲ延期スルコトヲ得

遺族扶助料及葬祭料ハ鑛夫ノ死亡後遲滞ナク之ヲ支給スベシ
鑛業權者鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケタルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラズ障害扶助料及遺族扶助料ヲ數回ニ分割シテ支給スルコトヲ得

第二十六條ノ二 鑛夫健康保險法(第四十八條第一項第二號ノ規定ヲ除ク)ニ依ル療養ノ給付又ハ療養費ノ支給ヲ受クヘキトキハ其ノ期間第十八條ノ扶助ハ之ヲ爲スコトヲ要セス健康保險法ニ依ル傷病手當金ノ支給ヲ受クヘキトキ休業扶助料ノ支給ニ付亦同シ

鑛夫ノ死亡ニ關シ健康保險法ニ依リ埋葬料又ハ埋葬ニ要シタル費用ノ支給アルヘキトキハ葬祭料ノ支給ハ之ヲ爲スコトヲ要セス

健康保險法第六十二條第一項第二項、第六十四條又ハ第六十五條第二項ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケサル場合ニ於テハ前二項ノ例ニ依リ第十八條ノ扶助又ハ休業扶助料若ハ葬祭料ノ支給ハ之ヲ爲スコトヲ要セス

第二十七條 第十八條ノ規定ニ依リ扶助ヲ受ケ又ハ健康保險法ニ依リ療養ノ給付若ハ療養費ノ支給

ヲ受クル鑛夫療養開始後三箇年ヲ經過スルモ負傷又ハ疾病治療セサルトキハ鑛業權者ハ賃金五百四十日分(其ノ金額男子ニ在リテハ四百三十圓、女子ニ在リテハ二百七十圓ニ滿チザルトキハ夫々四百三十圓又ハ二百七十圓)ノ打切扶助料ヲ支給シ以後本則ノ規定ニ依ル扶助ヲ爲ササルコトヲ得

第二十七條ノ二 鑛業權者豫メ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケタルトキハ鑛業權者及鑛夫ノ出捐スル共濟組合ノ爲シタル給付ノ限度ニ於テ之ニ相當スル本則ノ扶助ヲ爲スコトヲ要セス

鑛山監督局長必要ト認ムルトキハ前項ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第二十八條 鑛業權者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ本則ノ規定ニ依ル扶助ヲ爲ササルコトヲ得

一 鑛夫ノ解雇後一箇年ヲ經過シテ扶助ヲ請求スルトキ但シ既ニ受ケタル扶助又ハ健康保險法ニ依ル保險給付ノ原因タル負傷又ハ疾病ニ基キ請求スルトキハ此ノ限ニ在ラス解雇前ニ又ハ解雇後一箇年内ニ請求シタル扶助又ハ健康保險法ニ依ル保險給付ノ原因タル負傷又ハ疾病ニ基キ請求スルトキ亦同シ

二 扶助又ハ健康保險法ニ依ル保險給付ヲ受ケテ治療シタル負傷又ハ疾病カ鑛夫ノ解雇後ニ於テ再發スルトキ

第二十九條 扶助料及葬祭料算出ノ標準トスヘキ賃金ハ左ノ各號ノ金額トス

一 鑛夫健康保險法ニ依ル被保險者タル場合ニ於テハ同法ニ基キ其ノ者ニ付定メタル標準報酬ノ日額

鑛夫就業扶助規則

二 鑛夫健康保險法ニ依ル被保險者タラサル場合ニ於テハ疾病ニ在リテハ診斷ニ據ル發病ノ日ヲ除キ、發病ノ日明ナラサルトキハ診斷前七日ヲ除キ、負傷又ハ即死ニ在リテハ事故發生ノ日ヲ除キ其ノ前（賃金締切日アル場合ニ於テハ直前ノ賃金締切日以前）三月間（雇入後三月ニ滿チサルトキハ其ノ期間）ニ於ケル賃金總額ヲ其ノ期間ノ日數ヲ以テ除シタル金額但シ其ノ金額ハ上記賃金總額ヲ該期間中ニ於テ賃金ヲ受ケタル日數ヲ以テ除シタル金額ノ百分ノ六十ヲ下ルコトヲ得ス

前項第二號ニ規定スル期間中ニ左ノ各號ノ一ニ該當スル期間アルトキハ其ノ日數及其ノ期間ニ於ケル賃金ハ前項ノ期間及賃金總額ヨリ之ヲ控除ス

- 一 業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リ療養ノ爲休業シタル期間
- 二 産前又ハ産後ノ女子第十五條ノ規定ニ依リ休業シタル期間

三 試ノ雇傭期間

四 鑛業權者ノ都合ニ依リ鑛夫臨時ニ休業シタル期間

第一項第二號ノ賃金總額ニハ三月ヲ超ユル期間毎ニ支給スル賞與及發明善行其ノ他特別ノ行爲ニ對スル賞與又ハ手當ヲ包含セス

前三項ノ規定ニ依リ扶助料及葬祭料算出ノ標準トスヘキ賃金ヲ算出スルコトヲ得サル場合ニ於テハ扶助規則ノ定ムル所ニ依ル但シ扶助規則ニ定ナキトキハ鑛山監督局長之ヲ定ム

第三十條 鑛山監督局長ハ職權ヲ以テ又ハ申請ニ因リ鑛夫ノ負傷、疾病又ハ死亡ノ原因、別表ニ掲クル身體障害ノ程度其ノ他扶助ニ關スル事項ニ付之ヲ審査シ及事件ノ調停ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ醫師ヲシテ診斷又ハ檢案セシムルコトヲ得

第三十一條 鑛業權者ハ扶助規則ヲ作成シ扶助ノ金額、手續其ノ他扶助ニ關シ必要ナル事項ヲ定メ鑛業著手前之ヲ鑛山監督局長ニ届出ツヘシ

鑛業權者扶助規則ヲ變更シタルトキハ遲滞ナク之ヲ鑛山監督局長ニ届出ツヘシ

鑛山監督局長必要ト認ムルトキハ扶助規則ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第三十二條 扶助ニ關スル書類ハ扶助ヲ終リタル日ヨリ三箇年以上之ヲ保存スヘシ

第三十三條 鑛業權者扶助ヲ爲シタルトキ又ハ第二十六條第二項但書ノ規定ニ依リ障害扶助料ノ支給ヲ延期シタルトキハ様式第一號ニ依リ鑛山監督局長ニ届出ツヘシ

第三十四條 鑛夫就業中又ハ事業場内ニ於テ負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ鑛業權者ハ遲滞ナク醫師ヲシテ診斷又ハ檢案ヲ爲サシムヘシ

第三十四條ノ二 採掘權者ハ様式第二號ニ依リ第一條第一項第四號ノ歸郷旅費支給ノ狀況ヲ、様式第三號ニ依リ同條同項第七號ノ貯金其ノ他ノ積立金ノ狀況ヲ鑛山監督局長ニ届出ツヘシ

第三十五條 鑛業權者ハ坑外ニ於テ就業スル鑛夫ニ付始業及終業ノ時刻並休憩及休日ニ關スル事項ヲ定メ見易キ場所ニ揭示スベシ

鑛業權者ハ坑内ニ於テ就業スル鑛夫ニ付テハ入坑ノ時刻及出坑ノ時刻並休日ニ關スル事項ヲ定メ見易キ場所ニ揭示スベシ

第七條ノ二第二項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル場合ニ於テハ前項ノ入坑時刻ハ入坑ノ開始及終了ノ時刻、出坑時刻ハ出坑ノ開始及終了ノ時刻トス

鑛業權者ハ所定ノ入坑時刻又ハ入坑開始時刻前ニ入坑シタル者及所定ノ出坑時刻又ハ出坑終了時刻後ニ出坑シタル者ニ付様式第五號ニ依リ記録スベシ

前項ノ記録ハ事由ノ發生シタル日ヨリ三年以上之ヲ保存スベシ

第三十六條 鑛業權者ハ雇傭就業規則及扶助規則ヲ適當ナル方法ヲ以テ鑛夫ニ周知セシムヘシ

第三十七條 鑛業權者ハ鑛夫ノ雇傭、就業又ハ扶助ニ關シ紛擾ヲ生シタルトキハ遲滯ナク其ノ事由及狀況ヲ鑛山監督局長ニ届出ツヘシ

第三十七條ノ二 削除

第三十八條 雇傭就業規則ニ違反シタル採掘權者又ハ第三十一條第三項ノ規定ニ依ル命令ニ從ハザル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十九條 鑛業權者ヲシテ不正ニ扶助義務ノ全部又ハ一部ヲ免レシメ又ハ免レシメムトスル所爲ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四十條 削除

第四十一條 鑛業法施行細則第五十四條ノ規定ニ依リ鑛業代理人ヲ置キタルトキハ鑛業權者ニ適用スヘキ本則ノ罰則ハ之ヲ鑛業代理人ニ適用ス但シ其ノ權限ニ屬セサル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四十二條 本則ハ第三十八條、第三十九條及前條ノ規定ヲ除クノ外國ノ鑛業ニ之ヲ適用ス但シ國ノ鑛業ニ於ケル鑛夫及其ノ遺族ノ扶助ニ付テハ別ニ定ムル規定ニ依ル

附則

第四十三條 本則ハ大正五年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四十四條 第五條ノ規定ハ本則施行前ヨリ十歳以上ノ者ヲ引續キ就業セシムル場合ニハ之ヲ適用セス

前項ノ場合ニ於テハ本則施行ノ日ヨリ一箇月以内ニ其ノ鑛夫ノ氏名及生年月日ヲ鑛務署長ニ届出ツヘシ

第四十五條 第八條ノ規定ハ本則施行ノ日ヨリ一年六箇月間、第十四條、第十五條、第三十三條及第三十五條ノ規定ハ本則施行ノ日ヨリ四箇月間之ヲ適用セス

第四十六條 鑛夫ノ雇傭及勞役ニ關スル規則並扶助規則ニシテ本則施行前ニ許可ヲ受ケタルモノニ付テハ本則施行ノ日ヨリ四箇月間ハ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得但シ本則ノ規定ニ違背スルモノハ本則施行ノ日ヨリ二箇月以内ニ其ノ變更ノ手續ヲ爲スヘシ

第四十七條 第四十四條第二項又ハ前條但書ノ規定ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附則 (昭和三年內務省令第三十號)

本令ハ昭和五年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

鑛夫ヲ二組以上ニ分チ交替ニ就業セシムル場合ニ於テハ第七條ノ規定ハ本令施行後三年間之ヲ適用セス

第十一條ノ二ノ規定ハ本令施行後三年間之ヲ適用セス

鑛夫就業扶助規則

附 則 (昭和十一年内務省令第五十五號)
 本令ハ昭和十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
 本令施行前支給事由ヲ生ジタル扶助ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル
 本令施行ノ際現ニ休業扶助料ヲ受クル者本令施行後引續キ休業扶助料ヲ受クルトキハ本令施行後ハ
 本令ノ規定ニ依リ之ヲ扶助スベシ本令施行前ニ扶助ヲ受ケテ治癒シタル負傷又ハ疾病ガ本令施行後
 再發シテ扶助ヲ受クルトキ亦同ジ
 (別表)

等級	身體障害	障害扶助料
第一級	一 兩眼ヲ失明シタルモノ 二 咀嚼及言語ノ機能ヲ廢シタルモノ 三 精神ニ著シキ障害ヲ殘シ常ニ介護ヲ要スルモノ 四 胸腹部臟器ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘シ常ニ介護ヲ要スルモノ 五 半身不隨ト爲リタルモノ 六 兩上肢ヲ肘關節以上ニテ失ヒタルモノ 七 兩上肢ノ用ヲ全廢シタルモノ	賃金六百日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ四百八十圓女子ニ在リテハ三百圓ニ滿チザルトキハ夫々四百八十圓又ハ三百圓トス
第二級	一 一眼失明シ他眼ノ視力〇・〇二以下ニ減ジタルモノ 二 兩眼ノ視力〇・〇二以下ニ減ジタルモノ 三 兩上肢ヲ腕關節以上ニテ失ヒタルモノ 四 兩下肢ヲ足關節以上ニテ失ヒタルモノ	賃金五百三十日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ四百三十圓女子ニ在リテハ二百七十圓ニ滿チザルトキハ夫々四百三十圓トス
第三級	一 一眼失明シ他眼ノ視力〇・〇六以下ニ減ジタルモノ 二 咀嚼又ハ言語ノ機能ヲ廢シタルモノ 三 精神ニ著シキ障害ヲ殘スモノ 四 胸腹部臟器ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘シ終身勞務ニ服スルコト能ハザルモノ 五 十指ヲ失ヒタルモノ	賃金四百七十日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ三百八十圓女子ニ在リテハ二百四十圓ニ滿チザルトキハ夫々三百八十圓トス
第四級	一 兩眼ノ視力〇・〇六以下ニ減ジタルモノ 二 咀嚼及言語ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘スモノ	賃金四百十日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ三百三十圓

等級	身體障害	障害扶助料
第一級	一 兩眼ヲ失明シタルモノ 二 咀嚼及言語ノ機能ヲ廢シタルモノ 三 精神ニ著シキ障害ヲ殘シ常ニ介護ヲ要スルモノ 四 胸腹部臟器ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘シ常ニ介護ヲ要スルモノ 五 半身不隨ト爲リタルモノ 六 兩上肢ヲ肘關節以上ニテ失ヒタルモノ 七 兩上肢ノ用ヲ全廢シタルモノ	賃金六百日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ四百八十圓女子ニ在リテハ三百圓ニ滿チザルトキハ夫々四百八十圓又ハ三百圓トス
第二級	一 一眼失明シ他眼ノ視力〇・〇二以下ニ減ジタルモノ 二 兩眼ノ視力〇・〇二以下ニ減ジタルモノ 三 兩上肢ヲ腕關節以上ニテ失ヒタルモノ 四 兩下肢ヲ足關節以上ニテ失ヒタルモノ	賃金五百三十日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ四百三十圓女子ニ在リテハ二百七十圓ニ滿チザルトキハ夫々四百三十圓トス
第三級	一 一眼失明シ他眼ノ視力〇・〇六以下ニ減ジタルモノ 二 咀嚼又ハ言語ノ機能ヲ廢シタルモノ 三 精神ニ著シキ障害ヲ殘スモノ 四 胸腹部臟器ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘シ終身勞務ニ服スルコト能ハザルモノ 五 十指ヲ失ヒタルモノ	賃金四百七十日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ三百八十圓女子ニ在リテハ二百四十圓ニ滿チザルトキハ夫々三百八十圓トス
第四級	一 兩眼ノ視力〇・〇六以下ニ減ジタルモノ 二 咀嚼及言語ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘スモノ	賃金四百十日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ三百三十圓

礦夫就業扶助規則

第五級			第六級		
七	六	五	四	三	二
三	鼓膜ノ全部ノ缺損其ノ他ニ因リ兩耳ヲ全ク聾シタルモノ	一上肢ヲ肘關節以上ニテ失ヒタルモノ	一眼失明シ他眼ノ視力〇・一以下ニ減ジタルモノ	一	兩眼ノ視力〇・一以下ニ減ジタルモノ
四	一下肢ヲ膝關節以上ニテ失ヒタルモノ	一上肢ヲ腕關節以上ニテ失ヒタルモノ	一上肢ヲ足關節以上ニテ失ヒタルモノ	二	咀嚼又ハ言語ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘スモノ
五	十指ノ用ヲ廢シタルモノ	一下肢ヲ用ヲ全廢シタルモノ	一上肢ヲ用ヲ全廢シタルモノ	三	鼓膜ノ大部分ノ缺損其ノ他ニ因リ兩耳ノ聽力耳鼓ニ接セザレバ大聲ヲ解シ得ザルモノ
六	兩足ヲ「リスフラン」關節以上ニテ失ヒタルモノ	一下肢ノ用ヲ全廢シタルモノ	十趾ヲ失ヒタルモノ	四	
七				五	
				六	
				七	
				八	
				九	
				十	
				十一	
				十二	
				十三	
				十四	
				十五	
				十六	
				十七	
				十八	
				十九	
				二十	
				二十一	
				二十二	
				二十三	
				二十四	
				二十五	
				二十六	
				二十七	
				二十八	
				二十九	
				三十	
				三十一	
				三十二	
				三十三	
				三十四	
				三十五	
				三十六	
				三十七	
				三十八	
				三十九	
				四十	
				四十一	
				四十二	
				四十三	
				四十四	
				四十五	
				四十六	
				四十七	
				四十八	
				四十九	
				五十	
				五十一	
				五十二	
				五十三	
				五十四	
				五十五	
				五十六	
				五十七	
				五十八	
				五十九	
				六十	
				六十一	
				六十二	
				六十三	
				六十四	
				六十五	
				六十六	
				六十七	
				六十八	
				六十九	
				七十	
				七十一	
				七十二	
				七十三	
				七十四	
				七十五	
				七十六	
				七十七	
				七十八	
				七十九	
				八十	
				八十一	
				八十二	
				八十三	
				八十四	
				八十五	
				八十六	
				八十七	
				八十八	
				八十九	
				九十	
				九十一	
				九十二	
				九十三	
				九十四	
				九十五	
				九十六	
				九十七	
				九十八	
				九十九	
				一百	
				一百一	
				一百二	
				一百三	
				一百四	
				一百五	
				一百六	
				一百七	
				一百八	
				一百九	
				二百	
				二百一	
				二百二	
				二百三	
				二百四	
				二百五	
				二百六	
				二百七	
				二百八	
				二百九	
				三百	
				三百一	
				三百二	
				三百三	
				三百四	
				三百五	
				三百六	
				三百七	
				三百八	
				三百九	
				四百	
				四百一	
				四百二	
				四百三	
				四百四	
				四百五	
				四百六	
				四百七	
				四百八	
				四百九	
				五百	
				五百一	
				五百二	
				五百三	
				五百四	
				五百五	
				五百六	
				五百七	
				五百八	
				五百九	
				六百	
				六百一	
				六百二	
				六百三	
				六百四	
				六百五	
				六百六	
				六百七	
				六百八	
				六百九	
				七百	
				七百一	
				七百二	
				七百三	
				七百四	
				七百五	
				七百六	
				七百七	
				七百八	
				七百九	
				八百	
				八百一	
				八百二	
				八百三	
				八百四	
				八百五	
				八百六	
				八百七	
				八百八	
				八百九	
				九百	
				九百一	
				九百二	
				九百三	
				九百四	
				九百五	
				九百六	
				九百七	
				九百八	
				九百九	
				一千	

三七四

第七級			第六級		
八	七	六	五	四	三
一	一足ヲ「リスフラン」關節以上ニテ失ヒタルモノ	一上肢ヲ肘關節以上ニテ失ヒタルモノ	一眼失明シ他眼ノ視力〇・六以下ニ減ジタルモノ	一	脊柱ニ著シキ畸形又ハ運動障害ヲ殘スモノ
二	一足ヲ「リスフラン」關節以上ニテ失ヒタルモノ	一下肢ヲ膝關節以上ニテ失ヒタルモノ	鼓膜ノ中等度ノ缺損其ノ他ニ因リ兩耳ノ聽力四十種以上ニテハ尋常ノ話聲ヲ解シ得ザルモノ	二	一上肢ノ三大關節中ノ二關節ノ用ヲ廢シタルモノ
三	一足ヲ「リスフラン」關節以上ニテ失ヒタルモノ	一上肢ヲ肘關節以上ニテ失ヒタルモノ	精神ニ障害ヲ殘シ輕易ナル勞務ノ外服スルコトヲ得ザルモノ	三	一下肢ノ三大關節中ノ二關節ノ用ヲ廢シタルモノ
四	一足ヲ「リスフラン」關節以上ニテ失ヒタルモノ	一上肢ヲ肘關節以上ニテ失ヒタルモノ	胸腹部臟器ノ機能ニ障害ヲ殘シ輕易ナル勞務ノ外服スルコトヲ得ザルモノ	四	一手ノ五指又ハ拇指及示指ヲ併セ四指ヲ失ヒタルモノ
五	一足ヲ「リスフラン」關節以上ニテ失ヒタルモノ	一上肢ヲ肘關節以上ニテ失ヒタルモノ	一手ノ拇指及示指ヲ失ヒタルモノ又ハ拇指若ハ示指ヲ併セ三指以上ヲ失ヒタルモノ	五	
六	一足ヲ「リスフラン」關節以上ニテ失ヒタルモノ	一上肢ヲ肘關節以上ニテ失ヒタルモノ	一手ノ五指又ハ拇指及示指ヲ併セ四指ノ用ヲ廢シタルモノ	六	
七	一足ヲ「リスフラン」關節以上ニテ失ヒタルモノ	一上肢ヲ肘關節以上ニテ失ヒタルモノ		七	
八	一足ヲ「リスフラン」關節以上ニテ失ヒタルモノ	一上肢ヲ肘關節以上ニテ失ヒタルモノ		八	
				九	
				十	
				十一	
				十二	
				十三	
				十四	
				十五	
				十六	
				十七	
				十八	
				十九	
				二十	
				二十一	
				二十二	
				二十三	
				二十四	
				二十五	
				二十六	
				二十七	
				二十八	
				二十九	
				三十	
				三十一	
				三十二	
				三十三	
				三十四	
				三十五	
				三十六	
				三十七	
				三十八	
				三十九	
				四十	
				四十一	
				四十二	
				四十三	
				四十四	
				四十五	
				四十六	
				四十七	
				四十八	
				四十九	
				五十	
				五十一	
				五十二	
				五十三	
				五十四	
				五十五	
				五十六	
				五十七	
				五十八	
				五十九	
				六十	
				六十一	
				六十二	
				六十三	
				六十四	
				六十五	
				六十六	
				六十七	
				六十八	
				六十九	
				七十	
				七十一	
				七十二	
				七十三	
				七十四	
				七十五	
				七十六	
				七十七	
				七十八	
				七十九	
				八十	
				八十一	
				八十二	
				八十三	
				八十四	
				八十五	
				八十六	
				八十七	
				八十八	
				八十九	
				九十	
				九十一	
				九十二	
				九十三	
				九十四	
				九十五	
				九十六	

第九級	第十級
一 兩眼ノ視力〇・六以下ニ減ジタルモノ	一 一眼ノ視力〇・一以下ニ減ジタルモノ
二 一眼ノ視力〇・〇六以下ニ減ジタルモノ	二 咀嚼又ハ言語ノ機能ニ障害ヲ殘スモノ
三 兩眼ニ半盲症、視野狹窄又ハ視野變狀ヲ殘スモノ	三 十四齒以上ニ對シ齒科補綴ヲ加ヘタルモノ
四 兩眼ノ眼瞼ニ著シキ缺損ヲ殘スモノ	
五 鼻ヲ缺損シ其ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘スモノ	
六 咀嚼及言語ノ機能ニ障害ヲ殘スモノ	
七 鼓膜ノ全部ノ缺損其ノ他ニ因リ一耳ヲ全ク聾シタルモノ	
八 一手ノ拇指ヲ失ヒタルモノ、示指ヲ併セ二指ヲ失ヒタルモノ又ハ拇指及示指以外ノ三指ヲ失ヒタルモノ	
九 一手ノ拇指ヲ併セ二指ノ用ヲ廢シタルモノ	
十 一足ノ第一趾ヲ併セ二趾以上ヲ失ヒタルモノ	
十一 一足ノ五趾ノ用ヲ廢シタルモノ	

九 女子ノ外貌ニ著シキ醜狀ヲ殘スモノ
十 兩側ノ睾丸ヲ失ヒタルモノ

第八級

一 一眼ヲ失明シ又ハ一眼ノ視力〇・〇二以下ニ減ジタルモノ

二 頸部ニ著シキ運動障害ヲ殘スモノ

三 神經系統ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘シ輕易ナル勞務ノ外服スルコトヲ得ザルモノ

四 一手ノ拇指ヲ併セ二指ヲ失ヒタルモノ

五 一手ノ拇指及示指又ハ拇指若ハ示指ヲ併セ三指以上ノ用ヲ廢シタルモノ

六 一下肢ヲ五種以上短縮シタルモノ

七 一上肢ノ三大關節中ノ一關節ノ用ヲ廢シタルモノ

八 一下肢ノ三大關節中ノ一關節ノ用ヲ廢シタルモノ

九 一上肢ニ假關節ヲ殘スモノ

十 一下肢ニ假關節ヲ殘スモノ

十一 一足ノ五趾ヲ失ヒタルモノ

賃金二百日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ百六十圓、女子ニ在リテハ百圓ニ滿チザルトキハ夫々百六十圓又ハ百圓トス

第九級	第十級
一 兩眼ノ視力〇・六以下ニ減ジタルモノ	一 一眼ノ視力〇・一以下ニ減ジタルモノ
二 一眼ノ視力〇・〇六以下ニ減ジタルモノ	二 咀嚼又ハ言語ノ機能ニ障害ヲ殘スモノ
三 兩眼ニ半盲症、視野狹窄又ハ視野變狀ヲ殘スモノ	三 十四齒以上ニ對シ齒科補綴ヲ加ヘタルモノ
四 兩眼ノ眼瞼ニ著シキ缺損ヲ殘スモノ	
五 鼻ヲ缺損シ其ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘スモノ	
六 咀嚼及言語ノ機能ニ障害ヲ殘スモノ	
七 鼓膜ノ全部ノ缺損其ノ他ニ因リ一耳ヲ全ク聾シタルモノ	
八 一手ノ拇指ヲ失ヒタルモノ、示指ヲ併セ二指ヲ失ヒタルモノ又ハ拇指及示指以外ノ三指ヲ失ヒタルモノ	
九 一手ノ拇指ヲ併セ二指ノ用ヲ廢シタルモノ	
十 一足ノ第一趾ヲ併セ二趾以上ヲ失ヒタルモノ	
十一 一足ノ五趾ノ用ヲ廢シタルモノ	

賃金百五十日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ百二十圓、女子ニ在リテハ七十圓ニ滿チザルトキハ夫々百二十圓又ハ七十五圓トス

賃金百二十日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ九十五圓、女子ニ在リテハ六十圓ニ滿チザルト

四	鼓膜ノ大部分ノ缺損其ノ他ニ因リ一耳ノ聽力耳殼ニ接セザレバ大聲ヲ解シ得ザルモノ	キハ夫々九十五圓又ハ六十圓トス
五	一手ノ示指ヲ失ヒタルモノ又ハ拇指及示指以外ノ二指ヲ失ヒタルモノ	
六	一手ノ拇指ノ用ヲ廢シタルモノ、示指ヲ併セ二指ノ用ヲ廢シタルモノ又ハ拇指及示指以外ノ三指ノ用ヲ廢シタルモノ	
七	一下肢ヲ三種以上短縮シタルモノ	
八	一足ノ第一趾又ハ他ノ四趾ヲ失ヒタルモノ	
第十一級一	兩眼ノ眼球ニ著シキ調節機能障害又ハ運動障害ヲ殘スモノ	賃金九十日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ七十圓、女子ニ在リテハ四十圓ニ滿チザルトキハ夫々七十圓トス
二	兩眼ノ眼瞼ニ著シキ運動障害ヲ殘スモノ	
三	一眼ノ眼瞼ニ著シキ缺損ヲ殘スモノ	
四	鼓膜ノ中等度ノ缺損其ノ他ニ因リ一耳ノ聽力四十種以上ニテハ尋常ノ話聲ヲ解シ得ザルモノ	
五	脊柱ニ畸形ヲ殘スモノ	
六	一手ノ中指又ハ環指ヲ失ヒタルモノ	

七	一手ノ示指ノ用ヲ廢シタルモノ又ハ拇指及示指以外ノ二指ヲ廢シタルモノ	
八	一足ノ第一趾ヲ併セ二趾以上ノ用ヲ廢シタルモノ	
第十二級一	一眼ノ眼球ニ著シキ調節機能障害又ハ運動障害ヲ殘スモノ	賃金六十日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ五十圓、女子ニ在リテハ三十圓ニ滿チザルトキハ夫々五十圓トス
二	一眼ノ眼瞼ニ著シキ運動障害ヲ殘スモノ	
三	七齒以上ニ對シ齒科補綴ヲ加ヘタルモノ	
四	一耳ノ耳殼ノ大部分ヲ缺損シタルモノ	
五	鎖骨、胸骨、肋骨、肩胛骨又ハ骨盤骨ニ著シキ畸形ヲ殘スモノ	
六	一上肢ノ三大關節中ノ一關節ノ機能ニ障害ヲ殘スモノ	
七	一下肢ノ三大關節中ノ一關節ノ機能ニ障害ヲ殘スモノ	
八	長管骨ニ畸形ヲ殘スモノ	
九	一手ノ中指又ハ環指ノ用ヲ廢シタルモノ	
十	一足ノ第二趾ヲ失ヒタルモノ、第二趾ヲ併セ二趾ヲ失ヒタルモノ又ハ第三趾以下ノ三趾ヲ失ヒタルモノ	
十一	一足ノ第一趾又ハ他ノ四趾ノ用ヲ廢シタルモノ	

第十四級一	<p>一 眼ノ眼瞼ノ一部ニ缺損ヲ殘シ又ハ睫毛禿ヲ殘スモノ</p>	賃金二十日分但シ
第十三級一	<p>一 眼ノ視力〇・六以下ニ減ジタルモノ</p> <p>二 眼ニ半盲症、視野狹窄又ハ視野變狀ヲ殘スモノ</p> <p>三 兩眼ノ眼瞼ノ一部ニ缺損ヲ殘シ又ハ睫毛禿ヲ殘スモノ</p> <p>四 一手ノ小指ヲ失ヒタルモノ</p> <p>五 一手ノ拇指ノ指骨ノ一部ヲ失ヒタルモノ</p> <p>六 一手ノ示指ノ指骨ノ一部ヲ失ヒタルモノ</p> <p>七 一手ノ示指ノ末關節ニ屈伸不能ヲ來シタルモノ</p> <p>八 一下肢ヲ一種以上短縮シタルモノ</p> <p>九 一足ノ第三趾以下ノ一趾又ハ二趾ヲ失ヒタルモノ</p> <p>十 一足ノ第二趾ノ用ヲ廢シタルモノ、第二趾ヲ併セ二趾ノ用ヲ廢シタルモノ又ハ第三趾以下ノ用ヲ廢シタルモノ</p>	<p>賃金四十日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ三十圓、女子ニ在リテハ二十圓ニ滿チザルトキハ夫々三十圓又ハ二十圓トス</p>
十二	局部ニ頑固ナル神經症狀ヲ殘スモノ	
十三	男子ノ外貌ニ著シキ醜狀ヲ殘スモノ	
十四	女子ノ外貌ニ醜狀ヲ殘スモノ	

二	三齒以上ニ對シ齒科補綴ヲ加ヘタルモノ	其ノ金額男子ニ在リテハ十五圓、女子ニ在リテハ十圓ニ滿チザルトキハ夫々十五圓又ハ十圓トス
三	上肢ノ露出面ニ手掌面大ノ醜痕ヲ殘スモノ	
四	下肢ノ露出面ニ手掌面大ノ醜痕ヲ殘スモノ	
五	一手ノ小指ノ用ヲ廢シタルモノ	
六	一手ノ拇指及示指以外ノ指骨ノ一部ヲ失ヒタルモノ	
七	一手ノ拇指及示指以外ノ指ノ末關節ニ屈伸不能ヲ來シタルモノ	
八	一足ノ第三趾以下ノ一趾又ハ二趾ノ用ヲ廢シタルモノ	
九	局部ニ神經症狀ヲ殘スモノ	
十	男子ノ外貌ニ醜狀ヲ殘スモノ	

備考

- 一 視力ノ測定ハ萬國式試視力表ニ依ル屈折異狀アルモノニ付テハ矯正視力ニ付測定ス
 - 二 指ヲ失ヒタルモノトハ拇指ハ指關節、其ノ他ノ指ハ第一指關節以上ヲ失ヒタルモノヲ謂フ
 - 三 指ノ用ヲ廢シタルモノトハ指ノ末節ノ半以上ヲ失ヒ又ハ掌指關節若ハ第一指關節（拇指ニ在リテハ指關節）ニ著シキ運動障害ヲ殘スモノヲ謂フ
 - 四 趾ヲ失ヒタルモノトハ其ノ全部ヲ失ヒタルモノヲ謂フ
 - 五 趾ノ用ヲ廢シタルモノトハ第一趾ハ末節ノ半以上、其ノ他ノ趾ハ末關節以上ヲ失ヒタルモノ
- 鑛夫就業扶助規則

十 鑛夫就業扶助規則第二十六條第二項但書ノ規定ニ依リ障害扶助料ノ支給ヲ延期シタル場合ニ於テハ障害ヲ殘シタル時及現實ニ支給シタル時何レモ本表ニ記載シ前者ノ場合ニハ延期シタル旨ヲ、後者ノ場合ニハ障害扶助料支給延期報告届出ノ年月日ヲ備考欄ニ記載スベシ

(様式第一號乙)

種別		鑛種		扶助半年報		自昭和至昭和		年月分	
種	別	名稱	位置	鑛業權者又ハ代表者	住所	住所	何	何	某印
健康保險ノ被保險者ニ非サスル扶助者ニ對スル扶助	扶助人員								
	扶助延日數								
	療養費總額								
	休業扶助料總額								
	負傷	男	女	計					
	疾病	男	女	計					
	總計								

第錄登

事記	健康保險ノ被保險者ニ對スル扶助者ニ對スル扶助			
	扶助人員	扶助延日數	療養費總額	休業扶助料總額

備考

- 一 本表ハ一月一日ヨリ六月三十日迄ノ分ヲ七月三十一日迄ニ、七月一日ヨリ十二月三十一日迄ノ分ヲ翌年一月三十一日迄ニ差出スヘシ
- 二 本表ニハ扶助月報ニテ報告シタルモノヲ除ク
- 三 療養中ノ者ハ治癒後ニ報告スヘシ
- 四 療養費ハ第十八條ノ費用トス
- 五 鑛業代理人ヨリ差出ス場合ニハ其ノ者ノミ捺印スヘシ

(様式第一號内)

號 第錄登		障害扶助料支給延期報告		(昭和 年 月 日届出)													
事記	別女男	氏名	業務種類	負傷疾病ノ別	事故發生年月日	扶助開始年月日	治療支給延期ノ期間	障害扶助料等級金額	備考	鑛種	位置	名稱	鑛業權者又ハ代表者	住所	鑛業代理人	住所	
										名稱	住所	住所	住所				

備考

- 一 本報告ハ鑛夫就業扶助規則第二十六條第二項但書ノ規定ニ依リ障害扶助料ノ支給ヲ延期シタル後遲滞ナク之ヲ差出スヘシ
- 二 本報告ニハ扶助ヲ受クベキ鑛夫ノ障害扶助料支給延期承諾書ノ寫ヲ添附スベシ

(様式第二號)

- 三 本報告ニ付テハ其ノ寫ヲ作成シ障害扶助料支給ノ後三年間之ヲ保存スベシ
- 四 本報告ハ鑛夫一名毎ニ用紙ヲ別ニスベシ
- 五 支給延期ノ期間欄ニハ例ヘバ雇傭期間中又ハ昭和 年 月 日迄ト記載スベシ
- 六 鑛業代理人ヨリ差出ス場合ニハ其ノ者ノミ捺印スベシ

號 第錄登		鑛夫歸郷旅費年報		大正 年分						
記 事	種 別	鑛種	位置	名稱	件 數	金 額	鑛業權者又ハ代表者	住所	鑛業代理人	住所
							住所	住所	住所	

備考

- 一 本表ハ一月一日ヨリ十二月三十一日迄ノ分ヲ翌年一月三十一日迄ニ差出スヘシ

- 二 「其ノ他ノ場合」ニ包含スル事由ノ概略ヲ記事欄ニ記載スヘシ
- 三 鑛業代理人ヨリ差出ス場合ニハ其ノ者ノミ捺印スヘシ

(様式第三號)

鑛種		位置		鑛業權者又ハ代表者		住所	
名稱	位置	鑛業代理人	住所	住所	何	何	某印
種別	男						
種別	女						
種別	計						
員數							
金額							
記事							

鑛夫貯蓄金年報

大正 年分

備考

- 一 本表ハ十二月三十一日現在ニ依リ翌年一月三十一日迄ニ差出スヘシ十二月三十一日前ニ休業シタル鑛業ニ在リテハ休業ノ際ノ狀況ニ依リ其ノ旨記事欄ニ記載スヘシ
- 二 本表ニハ信認金、積立金其ノ他何等ノ名義ヲ用フルニ拘ラス鑛夫ノ貯蓄金ニシテ鑛業權者ノ管理スルモノヲ記載スヘシ

- 三 既ニ解雇シタル鑛夫ノ貯蓄金ニシテ住所不明其ノ他ノ事由ニ因リ返還スルコト能ハサルニ依リ之ヲ管理スル場合ニハ其ノ員數及金額ヲ記事欄ニ記載スヘシ
- 四 鑛業代理人ヨリ差出ス場合ニハ其ノ者ノミ捺印スヘシ

(様式第四號)

鑛種		位置		鑛業權者又ハ代表者		住所	
名稱	位置	鑛業代理人	住所	住所	何	何	某印
業務ノ種類	就場所						
氏名							
男女少年別							
延長時間							
深夜就業時刻							
其ノ他ノ臨時就業事							
由							

緊急ノ必要ニ因ル臨時就業届

昭和 年 月分